岩手大学大学教育総合センター

THE ANNUAL REPORT OF UNIVERSITY EDUCATION CENTER, IWATE UNIVERSITY, 2011

CONTENTS

- 1 運営委員会
- 2 入試部門
- 3 全学共通教育部門
- 4 教育改善部門
- 5 専門教育等連携部門
- 6 学生支援部門
- 7 キャリア支援部門



岩手大学大学教育総合センター

年次報告 2011

THE ANNUAL REPORT OF UNIVERSITY EDUCATION CENTER, IWATE UNIVERSITY, 2011

CONTENTS

- 1 運営委員会
- 2 入試部門
- 3 全学共通教育部門
- 4 教育改善部門
- 5 専門教育等連携部門
- 6 学生支援部門
- 7 キャリア支援部門





大学教育総合センター長 高畑 義人

平成23年6月5日に、前任者の玉真之介センター長の後を引き継ぎ、大学教育総合センター長に就任いたしました。

本報告書はセンターの1年間の様々な活動を網羅したもので、電子化された媒体がある 現在でも、このような冊子体は全体像を包括的に把握する情報源として、またセンターの適 正な評価を受けるための証拠資料として価値あるものと考えています。

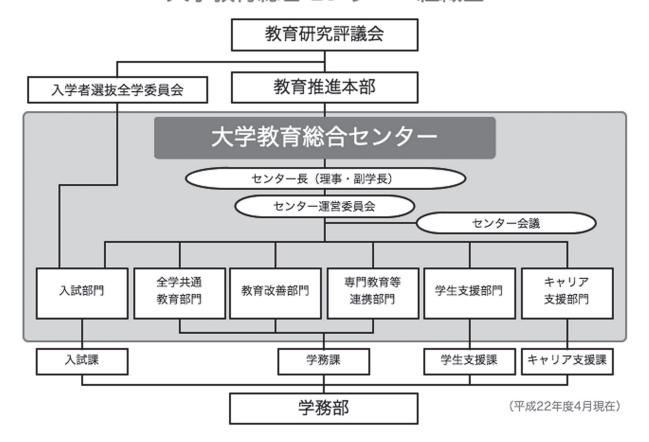
大学の使命は、教育・研究・地域貢献です。そのなかで、学生の教育は、大学の使命の最も重要なものと考えています。大学がなくなるときはどういう時かと考えますと、大学に学生が来なくなるときではないでしょうか。3月11日の震災で新学期が1ヶ月延びて、4月に学生がほとんどいないキャンパスを過ごした時、こんな寂しいキャンパスは今まで経験したことがありませんでした。学生あっての大学ということを改めて実感させられました。学生教育のことを考えると、普通の教員の時は自分の研究室や学科・課程の学生のことしかあまり考えていませんでしたが、農学部長になった時、学科や課程の区別なく農学部の全学生のことが気になりました。現在このような立場になり、4つの学部の学生のことが気になっています。岩手大学のそれぞれの教員は、自分の研究室、学科、課程、学部を越えて、岩手大学の学生に対して教育するということを、時々考えてみる必要があるのではないかと思っています。

大学教育総合センターの規則を改めて見てみると、入学者選抜、全学共通教育、教育改善、専門教育の全学的連携、修学支援・課外活動、キャリア支援、と学生に係わる入学から卒業・就職までの一切の業務を行うことになっています。それらを行うために6つの部門があり、各部門長のもとで各学部から選出された委員と兼務教員並びにセンターの専任教員が全学の学生の教育と支援のために努力しています。改めて関わった皆様に感謝申し上げます。また、これらの学生の入学から卒業・就職までというセンターの業務は、各学部と共に行っていく必要があります。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、平成23年9月末で転出された玉真之介前センター長、並びに平成23年度末で任期終了となられた、河田裕樹副センター長・全学共通教育部門長、西谷泰昭専門教育等連携部門長、後藤尚人教育改善部門長には、様々な面でご支援、ご協力を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

平成 24 年 8 月

大学教育総合センター 組織図



大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成23年10月1日)

		(1% 20 + 10 /) 1 11/
	氏 名	担当部局等
センター長	髙畑 義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
入試部門長	髙 畑 義 人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
教育改善部門長	後藤尚人	人文社会科学部
専門教育等連携部門長	西谷泰昭	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安 田 準	農学部
	丸 山 仁	人文社会科学部
司尚如馬力什部業品	遠 藤 孝 夫	教育学部
副学部長又は評議員	藤代博之	工学部
	古賀潔	農学部
	山本昭彦	人文社会科学部
教務関係委員長	遠藤匡俊	教育学部
	千 葉 則 茂	工学部
	三 輪 弌	農学部
学務部長	山中和之	学務部

大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成24年2月1日)

		(
	氏 名	担当部局等
センター長	髙 畑 義 人	理事(教育・学生担当)
副センター長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
入試部門長	髙 畑 義 人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
教育改善部門長	後藤尚人	人文社会科学部
専門教育等連携部門長	西谷泰昭	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安 田 準	農学部
	山崎憲治	大学教育総合センター
専任教員	江 本 理 恵	大学教育総合センター
	岡本崇宅	大学教育総合センター
学務部長	山中和之	学務部

入試部門会議委員名簿

(平成24年2月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	髙 畑 義 人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本嵩宅	大学教育総合センター
	吉村泰樹	人文社会科学部
*************************************	土屋明広	教育学部
兼務教員	伊藤 歩	工学部
	庄 野 浩 資	農学部
	髙橋宏一	人文社会科学部
	家 井 美千子	人文社会科学部
	境 野 直 樹	教育学部
各学部入試委員会	我 妻 則 明	教育学部
(正・副委員長)	平塚貞人	工学部
	水 野 雅 裕	工学部
	喜 多 一 美	農学部
	倉島栄一	農学部
入試課長	長 代 健 児	学務部

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

	氏 名	担当部局等
部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
専任教員	山崎憲治	大学教育総合センター
	齋 藤 博 次	外国語分科会
	鎌田安久	健康・スポーツ分科会
	鈴 木 正 幸	情報基礎分科会
	中 村 安 宏	思想と文化分科会
	織田信男	心と表象分科会
兼務教員	髙橋宏一	公共社会分科会
	三 井 隆 弘	現代の諸問題分科会
	西山賢一	生物の世界分科会
	八木一正	自然と数理の世界分科会
	柳岡英樹	科学技術分科会
	河 合 成 直	環境分科会
各学部教務委員会	横山英信	人文社会科学部
	菊地洋一	教育学部
	鈴 木 正 幸	工学部
	三 浦 靖	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

教育改善部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

	氏 名	担当部局等
部門長	後藤尚人	人文社会科学部
全学共通教育部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
専任教員	江 本 理 恵	大学教育総合センター
	砂 山 稔	人文社会科学部
	五味壮平	人文社会科学部
	岩 木 信 喜	教育学部
兼務教員	宮川洋一	教育学部
(学部選出委員)	松 浦 哲 也	工学部
	吉澤正人	工学部
	横井修司	農学部
	塚本知玄	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成23年9月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	西谷泰昭	工学部
専任教員	山崎憲司	大学教育総合センター
	三浦康秀	人文社会科学部
兼務教員	犬 塚 博 彦	教育学部
(各学部教務委員会選出教員)	藤代博之	工学部
	板 垣 匡	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

	氏 名	担当部局等
部門長	栗林徹	教育学部
	白 倉 孝 行	人文社会科学部
兼務教員	上濱龍也	教育学部
(各学部学生委員会選出教員)	土 岐 規 仁	工学部
	伊 藤 幸 男	農学部
	菊 池 孝 美	人文社会科学部
 学部選出教員	菊 地 悟	教育学部
子印選山教員	一ノ瀬 充 行	工学部
	溝 田 智 俊	農学部
学生支援課長	佐藤祐一	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成23年7月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	安 田 準	農学部
	宮 本 ともみ	人文社会科学部
兼務教員	大河原 清	教育学部
(各学部就職委員会選出教員)	西谷泰昭	工学部
	古賀潔	農学部
キャリア支援課長	大 内 正	学務部

目 次

□センター長あいさつ	
□組織構成図 名簿	
□目次	
□運営委員会	001
運営委員会報告 ·····	003
岩手大学「学位授与の方針:学士課程」(ディプロマ・ポリシー)	005
復興支援ボランティアの単位認定について	006
岩手大学学生特別支援室運営要項	007
	009
ALESTIN LI	•
□全学共通教育部門	013
活動報告	015
平成 23 年度分科会メンバー表・開講科目一覧	017
分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン	037
オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン	050
「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン	
第2回岩手大学全学共通教育シンポジウム	052
□教育改善部門	053
	055
平成 23 年度学習会実施報告 ····································	
平成 22 年度前期学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧	060
平成 22 年度優秀授業選出方針 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
平成 23 年度前期授業アンケート集計結果(基礎ゼミ)	
平成 23 年度後期授業アンケート集計結果	
学生による授業アンケート実施スケジュール	071
平成 23 年度前期全学共通教育授業公開実施報告 ······	072
平成 23 年度後期全学共通教育授業公開実施報告 ······	076
平成 23 年度 F D 合宿研修会実施報告 ·······	
F D プランの見直し ····································	
平成 23 年度入学前教育実施報告 ······	
平成 23 年度卒業時アンケート集計結果	097
□専門教育等連携部門	105
活動報告	107
専門基礎科目に関する懇談会(メモ)	109
第4回「基礎ゼミ」情報交換会(メモ)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11/

	平成 23 年度初年次教育アンケート集計結果	119
	放送大学活用プロジェクト	124
□学	生支援部門	125
	活動報告	127
	平成23年度岩手大学学生表彰者名簿(個人・団体)	131
□キ	ャリア支援部門	135
	活動報告	137
	キャリア支援部門活動推移(平成14年度~平成23年度)	
	キャリア支援部門会議	142
	学部就職委員会	145
	会議等	147
	企業合同説明会	149
	就職ガイダンス等	
	企業訪問	
	キャリア相談の状況	
	大学生の就業力育成支援事業	167





大学教育総合センター 運営委員会

大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成23年10月1日)

氏 名	担当部局等
髙 畑 義 人	理事(教育・学生担当)
河 田 裕 樹	人文社会科学部
髙 畑 義 人	理事(教育・学生担当)
河田裕樹	人文社会科学部
後藤尚人	人文社会科学部
西谷泰昭	工学部
栗林徹	教育学部
安田準	農学部
丸 山 仁	人文社会科学部
遠藤孝夫	教育学部
藤代博之	工学部
古賀潔	農学部
山 本 昭 彦	人文社会科学部
遠藤匡俊	教育学部
千 葉 則 茂	工学部
三輪 弐	農学部
山 中 和 之	学務部
	高河髙河後西栗安丸遠藤古山遠千三畑田畑田藤谷林田山藤代賀本藤葉輪

運営委員会報告

センター長 髙畑 義人

震災による学年歴の変更

平成23年3月11日に起こった東日本大震災により卒業式、入学式が中止となり、23年度前期の学年歴が大きく変更となりました。具体的には新学期が5月9日からとなり、夏期休業が3週間短縮され9月に授業を行わざるをえなくなりました。それに伴い、9月卒業・修了予定者については、成績報告期限を早めることで対応することにしました。

学位授与の方針

平成25年度に予定されている認証評価では、教育の質保証の観点から3つの方針、すなわち「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」「入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)」が重要な評価の対象となります。2010年度作成した全学の「学位授与の方針(案)」については、各学部の審議を経て11月の運営委員会で一部字句訂正の上、決定しました(資料1)。この3つの方針は、各学部においても整備、公表していく必要があり、平成24年度中の公表に向けてスケジュールを決定しました。具体的には、平成23年度末までに各学部において学位授与の方針の素案を作成し、平成24年度内に学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針の最終案の策定、さらにこの2つの方針とすでに公表している入学者受け入れの方針との整合性を再確認し、公表することとしました。

また、学位授与の方針と関連して、昨年度からの課題となっている「各学部の学科・課程・コース毎の教育目標及び習得能力の統一表記」について、各学部で作成した案を11月の運営委員会で、審議確認し、平成24年度の「履修の手引き」に間に合うように、各学部で最終案を作成することを決定しました。

ボランティア等の単位認定

本学では平成 19 年度から大学で認めるボランティア活動に対して「コミュニティーサポート実習」という名称で単位認定を行ってきました。平成 22 年度まで大学が認めているボランティア活動は、ピアサポート、図書館サポーターズ、ボランティア・チューターの 3 つです。東日本大震災後、復興支援のためのボランティア要請があり、学生によるボランティア活動も平成 24 年 3 月末の時点で延べ 1,500 人以上の規模で行われています。4 月の運営委員会では、復興支援ボランティアについても、事前研修、活動時間、レポートの 3 つの要件が満たされることで「コミュニティーサポート実習」の単位を認定することにしました(資料 2)。同様に、7 月の運営委員会では、男女共同参画室から依頼のあった次世代育成サポーターについて、次世代育成サポーター養成講座の受講、ボランティア活動、レポートの要件が満たされることで、同様に単位認定することを決定しました。

科目等履修生の集中講義の履修について

今まで科目等履修生は集中講義を受講できませんでした。集中講義となっている教職科目を科目 等履修生が履修できないために、教職免許が取れないことが判明し、委員から科目等履修生が集中 講義を受講できるよう配慮できないかとの要望がありました。集中講義を履修できない理由として、 集中講義の開講時期が事務手続き上必要な時期までに決まっていないため対象外としていることが 分かり、運営委員会で検討した結果、開講日程が確定し受け入れを許可できる集中講義に限って科 目等履修生の履修を可能とすることにしました。

規則の改正等

震災に関連した学生支援について、検定料の免除に関する規則の制定や学生寮の寄宿料に関する規則の改正を行いました。学生支援に関しては、学生特別支援室の設置と学生特別支援室運営要項を制定し、特別な支援を必要とする学生のための体制を整備しました(資料3)。また、平成24年度スタートとなる本学と東京農工大学との共同獣医学科に関連する多くの学内規則の見直しを審議、決定しました。

専任教員の採用と辞職

大学教育総合センター入試部門の専任教員に関しては、平成23年4月以降欠員となっていましたが、公募を行い、平成23年12月の運営委員会で姫路獨協大学キャリアセンター事務部長の岡本崇也氏を准教授として最終候補者に決定しました。岡本氏は平成24年2月1日付けて本学に赴任し、早速入試関係の業務に従事しています。一方、全学共通教育部門の山崎憲治教授から辞職の申し出があり、3月の運営委員会で辞職を了承しました。

その他

平成 23 年度 FD 合宿研修会を 8 月 25 ~ 26 日に、 4 学部教員のほか、いわて高等教育コンソーシアムに所属する大学の教員も参加し、開催しました。平成 23 年度高大連携ウインターセッションを「震災復興と大学の力」というテーマで 12 月 25 ~ 27 日に開催し、200 名近い参加者がありました。

資料1

岩手大学「学位授与の方針:学士課程」(ディプロマ・ポリシー) (案)

岩手大学は、地域における知の府として、国際的な視野を持ち、幅広い教養と深い専門性を備えて持続可能な共生社会の形成に寄与する人材の育成を目指しています。

そのために岩手大学は、人文社会科学部、教育学部、工学部、農学部の4つの学部を置き、すべての学生が履修する全学共通教育と学部別の専門教育により、下記のような学習成果が修得できるようにしています。

学生は、各学部に所定の期間在学し、全学共通教育科目と専門教育科目の中から必要な 授業科目を履修し、成績の評価を受けて、所定の単位数を修得することにより学士の学位 が授与されます。

1. 幅広い基礎的知識

文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎知識を有する

2. 学問的専門性

所属する学部、学科・課程での学士課程に求められる学問的な専門性を習得する

3. 領域を超えた学際的知識

グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉える ための学際的知識を有する

4. 論理的思考力

自然現象や社会現象等を多面的に考察し、自分の考えを論理的に展開できる

5. コミュニケーション・スキル

日本語や他の言語を運用して、課題解決に向けて他者と効果的に意思疎通を図ることができる

6. 情報リテラシー

多様な情報を適切かつモラルに則って収集・処理・分析し、その結果を有効に活用できる

7. 持続可能な共生社会への志向性

環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対して、持続可能性と共生の観点からその解決に取り組む姿勢を持つ

8. 市民としての社会的責任

人や自然を思いやり、自己の良心にしたがって市民として責任ある判断や行動ができる

9. 課題探求力

生涯を通じての持続的な学習に備え、課題を主体的に探求できる

資料2

復興支援ボランティアの単位認定について(案)

大学教育総合センター長 玉 真之介

1. 本学におけるボランティア活動の単位認定

本学は平成19年度より、大学で認めるボランティア活動に対して「コミュニティーサポート実習」という名称で単位認定を行ってきた。大学が認めるボランティアとは、①ピアサポート、②図書館サポーターズ、③ボランティア・チューターの3つである。

また、認定の要件は、①事前研修に参加していること、②活動時間が記録され、一定時間 (研修時間も含めて 45 時間) を超えていること、③活動の振り返りや提言を内容とするレポートが提出されていること、の3点であり、担当する教員が要件を満たしていることを確認して1単位を認定する (2年間継続した場合は、1年ごとに1単位として、2単位まで認める)。

その場合、成績の評価は行わず、「認定」のみで、かつ卒業要件単位には含まれない。

2. 復興支援ボランティアの継続実施

現在、復興支援のためのボランティア要請が増えており、それに応える学生のボランティア活動も始まっている。ただし、復興支援は長期の課題であり、学生によるボランティアも一時的にではなく、継続されていくことが望ましい。

一方、文部科学省は、「将来の社会の担い手となる学生の社会への移行促進の観点から 意義がある」として、学生のボランティア活動に対して参加しやすい環境作りや授業に組 み込んだ単位認定について配慮を求める通知を出している(別紙)。

このことから、被災地への継続的な支援とその教育的意義の両面から、学生の復興支援 ボランティアを単位として認定する道を開くことが求められている。

3. 単位としての認定方法

復興支援ボランティアの単位認定にあたっては、ボランティア活動を単位認定してきた実績に基づいて、「コミュニティーサポート実習」の対象に復興支援ボランティアを含めることがもっとも有効な方法と考えられる。

すなわち、復興支援ボランティアについても、認定の3要件(①事前研修、②活動時間、③レポート)を教員が確認し、「コミュニティーサポート実習」として1単位を認定する。 具体的には、別紙の様式に学生が必要事項を記入して、レポートと一緒に学生支援課に提出する。その際、活動時間や活動内容を確認できる資料等があれば、添付する。提出資料に基づいて、学生支援部門会議で3要件を確認し、単位認定を行う。

以上

資料3

岩手大学学生特別支援室運営要項(案)

(平成23年 月 日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、岩手大学大学教育総合センター学生支援部門会議の下に特別な支援を要する学生への支援(以下「特別支援」という)。に関する業務を行う組織として、学生特別支援室を置くこと、並びに同支援室の運営に関する必要な事項を定めるものである。 (業務)

- 第2 学生特別支援室は、次に掲げる業務を行う。
 - 特別支援に関する支援ニーズの把握に関すること。
 - 二 特別な支援を要する学生(以下「要支援学生」という。)への個別支援計画の作成 に関すること。
 - 三 要支援学生への支援チーム体制づくりに関すること。
 - 四 要支援学生への学習・生活環境の調整に関すること。
 - 五 要支援学生への修学・生活サポートに関すること。
 - 六 特別支援に関する広報・研修に関すること。
 - 七コミュニケーションルームに関すること。
 - 八 その他,特別支援に関すること。

(組織)

- 第3 学生特別支援室は、次に掲げる者をもって組織する。
 - 一 室長・・・保健管理センター長
 - 二 学生特別支援室委員・・・各学部から選出された教員各1名
 - 三 学生特別支援室コーディネーター
 - 四 保健管理センター教員
 - 五 学生支援部門会議構成員から選出された者1名
 - 六 学務課長
 - 七 教務企画主幹
 - 八 学生支援課長

(任期)

第4 第3に定める構成員のうち,第二号及び第五号の者の任期は,2年とし,再任を妨げない。ただし,欠員が生じたときの補欠の任期は,前任者の残任期間とする。

(運営会議)

- 第5 学生特別支援室の運営のため、第3に掲げる者を構成員とする運営会議を置く。
- 2 運営会議に議長を置き、室長をもって充てる。
- 3 議長は、運営会議を招集し、主宰する。

- 4 運営会議に副議長を置き、議長が指名する者をもって充てる。
- 5 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、その職務を代理する。
- 6 運営会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
- 7 運営会議が必要と認めたときは、構成員以外の者を運営会議に出席させ、その意見を聴くことができる。
- 8 運営会議は、第2に掲げる業務に関することを審議決定する。
- 9 運営会議の審議結果は、学生支援部門会議に報告するものとする。
- 10 運営会議は、必要に応じて開催する。

(庶務)

第6 学生特別支援室の庶務は、学生支援課において処理する。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、学生特別支援室に関し必要な事項は、学生特別支援室が別に定める。

附則

- 1 この要項は、平成23年 月 日から施行する。
- 2 この要項施行後,最初に委嘱される第3第二号及び第五号の者の任期は,第4の規定に かかわらず平成25年3月31日までとする。

入試部門

入試部門会議委員名簿

(平成 24年 2月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	髙 畑 義 人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本崇宅	大学教育総合センター
	吉村泰樹	人文社会科学部
*************************************	土 屋 明 広	教育学部
兼務教員	伊藤 歩	工学部
	庄 野 浩 資	農学部
	髙橋宏一	人文社会科学部
	家 井 美千子	人文社会科学部
	境 野 直 樹	教育学部
各学部入試委員会	我 妻 則 明	教育学部
(正・副委員長)	平塚貞人	工学部
	水 野 雅 裕	工学部
	喜 多 一 美	農学部
	倉島栄一	農学部
入試課長	長 代 健 児	学務部

活動報告

部門長 髙畑 義人

平成23年度入試について

平成23年度入試は、後期試験の前日の3月11日に起きた東日本大震災で、後期試験の実施をとりやめ、センター試験の成績のみで合否を決定しました。平成23年度入試の志願者は、一般・推薦・AO入試の総計が3,483人で志願倍率は3.2倍でした。平成22年度が3,323人と最も低い志願者数であったことの反動で増加しましたが、一般入試についてみると、志願者は2,860人であり平成21年度までの3,000人には届かず、まだ例年より少ない志願者数には変わりありませんでした。詳細については、入試部門が中心となって作成した「平成23年度入学試験実施結果報告書」をみていただくようお願いいたします。

入試部門会議

作題体制、入試電算処理・日程、志願票、審査資料について確認を行いました。また、入試部門の専任教員選考に関して協議し、その後、運営委員会のもとに選考委員会を設置し、運営委員会で最終候補者を決定しました。

各学部で検討していた平成24年度大学入試センター試験における「地理歴史」「公民」「理科」の成績利用について確認を行いました。また、新学習指導要領に対応した入試教科・科目を平成23年度中に公表することに関して学習会を行うことを決め、7月22日に㈱進研アド企画営業部統括の安永研司氏を話題提供者として、本変更が及ぼす影響や全国的な動向について講演していただきました。なお、新学習指導要領に対応した各学部の入試教科・科目については入学者選抜全学委員会で決定しました。

入試広報活動

入試部門の専任教員が平成 22 年度末で転出し不在となったため、入試広報についてはその後任が決まるまでは入試課事務職員(再任用)である松井照雄氏が中心となり、今までと異なった対応で進めることとしました。具体的には、4年間本学独自の企画・運営で実施してきた「岩手大学説明会」の実施は困難と判断し取りやめ、その代わり以前参加していた東北地区新聞社連合企画「東北の著名大学進学説明会」への参加を決め、15地域のうち、7会場に参加しました。その結果は、本学ブース訪問者は平成 22 年度の本学企画説明会と変わりない数でした。また、高校訪問は、主として岩手・青森・宮城・北海道の延べ77 校を訪問し、他に38 会場でのガイダンスと2会場での基調講演を行いました。





全学共通教育部門

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

		(十)从 23 平 4 万 20 日)
	氏 名	担当部局等
部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
専任教員	山崎憲治	大学教育総合センター
	齋 藤 博 次	外国語分科会
	鎌田安久	健康・スポーツ分科会
	鈴 木 正 幸	情報基礎分科会
	中 村 安 宏	思想と文化分科会
	織田信男	心と表象分科会
兼務教員	髙橋宏一	公共社会分科会
	三 井 隆 弘	現代の諸問題分科会
	西山賢一	生物の世界分科会
	八木一正	自然と数理の世界分科会
	柳岡英樹	科学技術分科会
	河 合 成 直	環境分科会
	横山英信	人文社会科学部
夕	菊 地 洋 一	教育学部
各学部教務委員会	鈴 木 正 幸	工学部
	三 浦 靖	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

活動報告

部門長 河田 裕樹

第2回岩手大学全学共通教育シンポジウムの開催

昨年の第1回岩手大学全学共通教育シンポジウムに続いて、第2回のシンポジウムを開催しました。基調となるテーマは前年と同様に「『21世紀型市民』の育成と質保障」とした上で、昨年度の議論の中にあった「岩手大学の全学共通教育は専門教育と結びついたものとしてとらえられているのか、またそのような関連性を議論する場はあるのか」という問題提起から、今年度は、重要性が認識されつつあるディプロ・マポリシーや甚大な被害をもたらした東日本大震災を念頭に置きながら、専門教育と全学共通教育との連携に向けて全学的な議論を行いました。

第1部で「専門教育と全学共通教育との連携に向けて」という副題で、各学部から人材養成目的を踏まえた全学共通教育への期待を予め提示し、それに対する回答を全学共通教育分科会から行い、専門教育と全学共通教育との連携について全学的な議論を行うという形式をとりました。「外国語教育の充実に向けて」「人間性の陶冶に向けて」「自然科学の基礎的認識」など、4年間の大学教育を通じて身に着けるべき課題に対して6つの分科会から議論すべき点、問題点が提示されました。

第2部では「持続可能な共生社会のための教育(ESD)」という副題で、東日本大震災の被災地域を抱える大学として、復興を担う人材育成に全学共通教育がいかに寄与できるのかについて5つの分科会から議論を深めるための論点が提示されました。最後に岩手大学が全学共通教育の旗印として掲げてきたESDについて、全学的な議論が必要という事で、次回以降の課題が出されました。

シンポジウムの詳しい内容は、印刷物「第2回岩手大学全学共通教育シンポジウム 専門教育と全学共通教育との連係に向けて」としてまとめ、全教員に配布しました。

平成24年度新規開講科目

教養科目「人間と社会」から「ボランティアとリーダーシップ」、また、「人間と文化」から「女性と科学の関係史」の2科目が、また後述のように総合科目から2科目、計4科目が平成24年度から新規開講されます。「ボランティアとリーダーシップ」は、いわて高等教育コンソーシアムが実施する「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業のコア科目として開講されます。

総合科目の維持発展

総合科目については、特定の分科会は設けず、各分科会に所属する教員が横断的に協力して担当することになっています。平成19年度からは各分科会の担当者と代表者による「総合科目企画・ 実施委員会」によって、必要な連絡調整が行われています。

本年度の会議では「総合科目特別講義(危機管理と復興)」と「国際研修-エネルギーと持続可能な社会-」の2科目を平成24年度の新規科目として開講することになりました。「危機管理と復興」は、いわて高等教育コンソーシアムが実施する「地域復興を担う中核的人材育成プラン」における中核的人材育成事業のコア科目として、「国際研修」は特別運営費交付金による新設科目です。

FD活動について

全学共通教育については各分科会が実施主体と位置づけられ、その活動を促進するための経費として従来は各分会に一律 10万円の配分としていましたが、本年度から分科会が担当する授業改善に資する(FD活動)経費請求した分科会に予算をつけることにしました。各分科会の積極的なFD活動を期待します。

大規模クラスの対応

全学共通教育科目では、各科目・曜日の履修者数の分析を毎年行っております。特定の曜日、時間等に片寄らないよう、教養科目の開講数、開講曜日等を調整していますが、現在の「開講科目数」、「学生の意思を尊重した履修制度」では大人数クラスの出現は避けられない状況です。平成22年度以降はいくらか減少しており、調整の成果は上がっているように見受けられます。また、教員が「教育活動」に力を注げるように、履修人数の多い授業への支援(TAの配置、抽選等における事務補助)も実施しております。

今後も、教養科目については開講コマ数を確保するとともに、新設科目の提供を図りながら、本 部門では大規模クラスの解消に向けて検討を引き続き行います。

日常的な業務について

全学共通教育のカリキュラムの円滑な実施のため、分科会や学務課と連携して以下の審議・策定 を行いました。

①翌年度授業計画の策定、②時間割の変更、③非常勤講師の採用、④資格試験等による単位認定、 ⑤高大連携科目の選定、⑥北東北国立3大学単位互換集中講義の実施、⑦放送大学利用科目の選定、 ⑧学年歴の策定、⑨ガイドラインに基づく成績評価の検証、ガイドラインの見直し、⑩年度計画達成状況の把握など。

全学共通教育分科会名簿

(平成24年3月31日現在) 外国語分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	齋藤 博次	人文社会科学部
2	秋田 淳子	人文社会科学部
3	海老澤 君夫	人文社会科学部
4	大友 展也	人文社会科学部
5	金子 百合子	人文社会科学部
6	川本 榮三郎	人文社会科学部
7	北村 一親	人文社会科学部
8	GRAS Alexandre Jean	人文社会科学部
9	後藤 尚人	人文社会科学部
10	小林 葉子	人文社会科学部
11	齋藤 伸治	人文社会科学部
12	Schwamborn, Frank	人文社会科学部
13	中里 まき子	人文社会科学部
14	長野 俊一	人文社会科学部
15	能登 惠一	人文社会科学部
16	橋本 学	人文社会科学部
17	Farr Alan	人文社会科学部
18	松林 城弘	人文社会科学部
19	MULVEY Bern Martin	人文社会科学部
20	山口 春樹	人文社会科学部
21	山本 昭彦	人文社会科学部
22	横井 雅明	人文社会科学部
23	梁 仁實	人文社会科学部
24	UNHER MICHEL	教育学部
25	犬塚 博彦	教育学部
26	大河原 清	教育学部
27	菊地 悟	教育学部
28	境野 直樹	教育学部
29	HALL JAMES	教育学部
30	山崎 友子	教育学部
31	加藤 大雅	工学部
32	鈴木 忠彦	農学部
33	原科 幸爾	農学部
34	岡崎 正道	国際交流センター
35	尾中 夏美	国際交流センター
36	松岡 洋子	国際交流センター

		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
履	修区分	授業科目名	備考
外国	語科目	英語総合 I (上級)	
		英語総合Ⅱ (上級)	
		英語総合 I (中級)	

英語総合Ⅱ (中級)	
英語総合 I (初級)	
英語総合Ⅱ(初級)	
英語コミュニケーションI(上級)	
英語コミュニケーションⅡ (上級)	
英語コミュニケーション I (中級)	
英語コミュニケーションⅡ (中級)	
英語コミュニケーション I (初級)	
英語コミュニケーションⅡ (初級)	
初級ドイツ語(入門)	
初級ドイツ語 (発展)	
中級ドイツ語	
初級フランス語 (入門)	
初級フランス語 (発展)	
中級フランス語	
初級ロシア語 (入門)	
初級ロシア語 (発展)	
中級ロシア語	
初級中国語 (入門)	
初級中国語 (発展)	
中級中国語	
初級韓国語(入門)	
初級韓国語(発展)	
中級韓国語	
上級日本語A	
上級日本語B	
上級日本語C	
上級日本語D	
上級日本語E	
上級日本語F	
上級日本語G	
上級日本語H	

健康・スポーツ分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	鎌田 安久	教育学部
2		浅沼 道成	人文社会科学部
3		浅見 裕	教育学部
4		上濱龍也	教育学部
5		栗林 徹	教育学部
6		澤村省逸	教育学部
7		清水 茂幸	教育学部
8		大川井 宏明	工学部
9		佐々木 誠	工学部
10		立身 政信	保健管理センター
11		立原 聖子	保健管理センター
12		早坂 浩志	保健管理センター

履修区分	授業科目名	備考
健康・ス ポーツ科目	健康・スポーツA	
ポーツ科目	健康・スポーツB	
	健康・スポーツC(シーズン)	集中講義

情報基礎分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	鈴木 正幸	工学部
2	遠藤 教昭	人文社会科学部
3	五味 壮平	人文社会科学部
4	白倉 孝行	人文社会科学部
5	天木 桂子	教育学部
6	井上 祥史	教育学部
7	宮川 洋一	教育学部
8	明石 卓也	工学部
9	小栗栖 太郎	工学部
10	小山 猛	工学部
11	佐藤 拓己	工学部
12	清水 友治	工学部
13	関本 英弘	工学部
14	出戸 秀明	工学部
15	中谷 直司	工学部
16	平山 貴司	工学部
17	本間 尚樹	工学部
18	松山 克胤	工学部
19	山口 明	工学部
20	伊藤 幸男	農学部
21	伊藤 芳明	農学部
22	佐藤至	農学部
23	鈴木 忠彦	農学部
24	関野 登	農学部
25	立川 史郎	農学部
26	築城 幹典	農学部
27	塚本 知玄	農学部
28	三宅 諭	農学部
29	三浦 靖	農学部
30	今井 潤	地域連携推進センター
31	中西 貴裕	情報メディアセンター
32	吉田 等明	情報メディアセンター

履修区分	授業科目名	備考
情報科目	情報基礎	

思想と文化分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	中村 安宏	人文社会科学部
2	池田 成一	人文社会科学部
3	海妻 径子	人文社会科学部
4	音喜多 信博	人文社会科学部
5	佐藤 芳彦	人文社会科学部
6	砂山 稔	人文社会科学部
7	樋口 知志	人文社会科学部
8	開龍美	人文社会科学部
9	藤本 幸二	人文社会科学部
10	宇佐美 公生	教育学部
11	菅野 文夫	教育学部
12	今野 日出晴	教育学部
13	佐藤 由紀男	教育学部
14	武田 京子	教育学部
15	室井 麗子	教育学部
16	安井 もゆる	教育学部
17	藪 敏裕	教育学部
18	古賀 潔	農学部
19	江本 理恵	大学教育総合センター

王于共进教育		
履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	哲学の世界	
	倫理学の世界	
	日本の思想と文化	
	アジアの思想と文化	
	欧米の思想と文化	
	日本の歴史と文化	
	アジアの歴史と文化	
	欧米の歴史と文化	
	ジェンダーの歴史と文化	
	大学の歴史と現在	
	岩手大学ミュージアム学	
	人類の歴史と地球の現在	
	日本事情A	
	日本事情B	
	思想と文化	

心と表象分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	織田信男	人文社会科学部
2	家井 美千子	人文社会科学部
3	小島 聡子	人文社会科学部
4	佐藤 正恵	人文社会科学部
5	砂山 稔	人文社会科学部
6	中里 まき子	人文社会科学部
7	松岡 和生	人文社会科学部
8	山口 浩	人文社会科学部
9	山本 昭彦	人文社会科学部
10	阿久津 洋巳	教育学部
11	我妻 則明	教育学部
12	阿部 裕之	教育学部
13	岩木 信喜	教育学部
14	牛渡 克之	教育学部
15	大河原 清	教育学部
16	大野 眞男	教育学部
17	鎌田文聰	教育学部
18	川口 明子	教育学部
19	菊地 悟	教育学部
20	木村 直弘	教育学部
21	近藤 克義	教育学部
22	境野 直樹	教育学部
23	佐々木 正利	教育学部
24	重野 和彦	教育学部
25	白石 文子	教育学部
26	神常雄	教育学部
27	煤孫 康二	教育学部
28	田中 隆充	教育学部
29	玉澤 友基	教育学部
30	平田 光彦	教育学部
31	宮﨑眞	教育学部
32	本村健太	教育学部
33	山崎浩二	教育学部
34	山本 獎	教育学部
35	藁谷 収	教育学部
36	立原 聖子	保健管理センター
37	早坂 浩志	保健管理センター

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	心の理解	
	日本の文学	
	言葉の世界	
	中国の文学	

欧米の文学	
欧米の言語論	
芸術の世界	
日本語表現技術入門	
心と表象	

公共社会分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	髙橋 宏一	人文社会科学部
2	井上 博夫	人文社会科学部
3	内田 浩	人文社会科学部
4	江原 勝行	人文社会科学部
5	小野澤 章子	人文社会科学部
6	菊池 孝美	人文社会科学部
7	杭田 俊之	人文社会科学部
8	齊藤 彰一	人文社会科学部
9	笹尾 俊明	人文社会科学部
10	高野 修	人文社会科学部
11	田口 典男	人文社会科学部
12	塚本 善弘	人文社会科学部
13	西牧 正義	人文社会科学部
14	深澤 泰弘	人文社会科学部
15	藤原 千沙	人文社会科学部
16	藤本 幸二	人文社会科学部
17	古川務	人文社会科学部
18	松岡 勝実	人文社会科学部
19	丸山 仁	人文社会科学部
20	宮本 ともみ	人文社会科学部
21	横山 英信	人文社会科学部
22	遠藤 匡俊	教育学部
23	菊地 洋	教育学部
24	佐藤 眞	教育学部
25	岩渕明	工学部
26	鈴木 忠彦	農学部
27	山崎憲治	大学教育総合センター
28	小野寺 純治	地域連携推進センター
29	早川 智津子	国際交流センター

履修区分	授業科目名	備考
人間と社会	市民生活と法	
	憲法	
	経済のしくみ	
	現代社会と経済	
	市民と政治	
	現代政治を見る眼	
	社会的人間論	
	地域と生活	
	地域と社会	
	社会統計学	
	対人関係の心理学	
	知的財産入門	集中講義

著作権法概論	
知財ワークショップ	集中講義
持続可能なコミュニティーづくり実践学	
地元の企業に学ぶESD	
社会と知的財産	
公共社会	

現代の諸問題分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	三井 隆弘	教育学部
2	小野澤 章子	人文社会科学部
3	海妻 径子	人文社会科学部
4	竹村 祥子	人文社会科学部
5	遠藤 孝夫	教育学部
6	鎌田 文聰	教育学部
7	田代 高章	教育学部
8	立花 正男	教育学部
9	塚野 弘明	教育学部
10	土屋明広	教育学部
11	土屋 直人	教育学部
12	土井 宣夫	教育学部
13	名古屋 恒彦	教育学部
14	新妻 二男	教育学部
15	藤井 知弘	教育学部
16	HALL JAMES	教育学部
17	麦倉 哲	教育学部
18	渡瀬 典子	教育学部
19	小山 猛	工学部
20	平井 寛	工学部
21	岡田 啓司	農学部
22	佐藤和憲	農学部
23	大川 一毅	評価室
24	岡本 崇宅	大学教育総合センター
25	岡崎 正道	国際交流センター
26	松岡 洋子	国際交流センター
27	田中 吉兵衛	教員養成機構

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
人間と社会 現代社会の社会学		
	キャリアを考える	
	多文化コミュニケーションA	
	多文化コミュニケーションB	
	地場産業・企業論	集中講義
	現代の諸問題	

生物の世界分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	西山 賢一	農学部
2	荒木 功人	工学部
3	一ノ瀬 充行	工学部
4	坂田 和実	工学部
5	松浦 哲也	工学部
6	若林 篤光	工学部
7	山口 昌樹	工学部
8	居在家 義昭	農学部
9	磯貝 雅道	農学部
10	礒部 公安	農学部
11	板垣 匡	農学部
12	上村 松生	農学部
13	宇塚 雄次	農学部
14	大澤 健司	農学部
15	岡村 泰彦	農学部
16	重茂 克彦	農学部
17	片山 泰章	農学部
18	加藤 一幾	農学部
19	河村 幸男	農学部
20	木村 賢一	農学部
21	黒田 榮喜	農学部
22	小森 貞男	農学部
23	御領 政信	農学部
24	斎藤 靖史	農学部
25	佐川 了	農学部
26	佐々木 淳	農学部
27	佐藤繁	農学部
28	佐藤 れえ子	農学部
29	澤井 健	農学部
30	島村 俊介	農学部
31	下野 裕之	農学部
32	白旗 学	農学部
33	壽松木 章	農学部
34	鈴木 幸一	農学部
35	高畑 義人	農学部
36	立澤 文見	農学部
37	立石 貴浩	農学部
38	谷口和之	農学部
39	堤 賢一	農学部
40	長澤 孝志	農学部
41	中牟田 信明	農学部
42	橋爪 一善	農学部
43	橋爪 力	農学部
44	平田統一	農学部

平成23年度分科会メンバー表・開講科目一覧

45	平野 紀夫	農学部
46	古濱 和久	農学部
47	松原 和衛	農学部
48	村上 賢二	農学部
49	村元 隆行	農学部
50	安田 準	農学部
51	山岸 則夫	農学部
52	山田 美鈴	農学部
53	山田 美和	農学部
54	山本 欣郎	農学部
55	横井 修司	農学部
56	RAHMAN ABIDUR	農学部
57	渡邉 学	農学部

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	生命のしくみ	後期1クラスは放送大学科目
	生物の世界	

自然と数理の世界分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	八木 一正	教育学部
2	石垣 剛	人文社会科学部
3	尾臺 喜孝	人文社会科学部
4	河田 裕樹	人文社会科学部
5	北爪 英一	人文社会科学部
6	奈良 光紀	人文社会科学部
7	西崎 滋	人文社会科学部
8	花見 仁史	人文社会科学部
9	三浦 康秀	人文社会科学部
10	吉村 泰樹	人文社会科学部
11	押切 源一	教育学部
12	川田 浩一	教育学部
13	重松 公司	教育学部
14	武井 隆明	教育学部
15	土谷 信高	教育学部
16	土井 宣夫	教育学部
17	中嶋 文雄	教育学部
18	中村 好則	教育学部
19	山崎 浩二	教育学部
20	岩渕 明	工学部
21	宇井 幸一	工学部
22	小笠原 敏記	工学部
23	長田 洋	工学部
24	鎌田 康寛	工学部
25	小林 宏一郎	工学部
26	小林 悟	工学部
27	坂田 和実	工学部
28	嶋田 和明	工学部
29	鈴木 映一	工学部
30	高木 浩一	工学部
31	高橋 和貴	工学部
32	田野崎 真司	工学部
33	谷口 宏	工学部
34	内藤智之	工学部
35	中村満	工学部
36	成田 晋也	工学部
37	萩原 義裕	工学部
38	藤原 民也	工学部
39	三好扶	工学部
40	三輪護二	工学部
41	向川 政治	工学部
42	八代 仁	工学部
43	吉澤 正人	工学部
44	譯田 真人	工学部

平成23年度分科会メンバー表・開講科目一覧

45	金	鈴木	忠彦	農学部
46	清	冓田	智俊	農学部
47	=	三輪		農学部
48	1	1 /11	薫	地域連携推進センター
49	7	木村	毅	地域連携推進センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	自然のしくみ	
	自然と数理	
	数理のひろがり	
	宇宙のしくみ	
	物質の世界	
	自然と法則	
	自然と数理の世界	

科学技術分科会名簿

	氏 名	専任担当	
1 代表者	柳岡 英樹	工学部	
2	山崎 浩二	教育学部	
3	會澤 純雄	工学部	
4	安倍 正人	工学部	
5	叶 榮彬	工学部	
6	伊藤 歩	工学部	
7	井山 俊郎	工学部	
8	岩崎 正二	工学部	
9	内舘 道正	工学部	
10	瓜生 誠司	工学部	
11	大石 好行	工学部	
12	岡英夫	工学部	
13	小川 智	工学部	
14	小山田 哲也	工学部	
15	門磨 義浩	工学部	
16	兼岩 憲	工学部	
17	菊池 弘昭	工学部	
18	木村 彰男	工学部	
19	厚井 裕司	工学部	
20	越谷 信	工学部	
21	今野 晃市	工学部	
22	堺 茂樹	工学部	
23	佐藤 淳	工学部	
24	佐藤 宏明	工学部	
25	佐藤 信	工学部	
26	芝﨑 祐二	工学部	
27	嶋田 和明	工学部	
28	末永 陽介	工学部	
29	菅野 良弘	工学部	
30	関本 英弘	工学部	
31	大坊 真洋	工学部	
32	谷口 英夫	工学部	
33	谷口宏	工学部	
34	千葉 則茂	工学部	
35	恒川 佳隆	工学部	
36	土岐 規仁	工学部	
37	永田 仁史	工学部	
38	中西良樹	工学部	
39	七尾 英孝	工学部	
40	西川 尚宏	工学部	
41	西館 数芽	工学部	
42	西谷 泰昭	工学部	
43	西村 文仁	工学部	
44	西山 清	工学部	

4.5	司压 粉牡	777 4-11
45	羽原俊祐	工学部
46	晴山 巧	工学部
47	平塚 貞人	工学部
48	平原英俊	工学部
49	廣瀬 宏一	工学部
50	藤岡 豊太	工学部
51	藤代 博之	工学部
52	藤田 尚毅	工学部
53	藤本 忠博	工学部
54	船崎健一	工学部
55	細貝 拓也	工学部
56	松川 倫明	工学部
57	水野 雅裕	工学部
58	水本 将之	工学部
59	南 一郎	工学部
60	村岡 宏樹	工学部
61	森 誠之	工学部
62	山口 明	工学部
63	山口 勉功	工学部
64	山田 弘	工学部
65	山中 克久	工学部
66	山本 英和	工学部
67	湯川 俊浩	工学部
68	横田 政晶	工学部
69	吉野 泰弘	工学部
70	吉原 信人	工学部
71	吉本 則之	工学部
72	吉森 久	工学部
73	虚忻	工学部
74	脇裕之	工学部
75	渡邊 孝志	工学部
76	武田 純一	農学部
77	原澤 亮	農学部
78	山下 哲郎	農学部
79	比屋根 哲	連合農学研究科
80	対馬 正秋	地域連携推進センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	科学と技術の歴史	
	くらしと科学技術	
	科学技術	

環境分科会名簿

	氏 名	専任担当
1 代表者	河合 成直	農学部
2	西崎 滋	人文社会科学部
3	井上 博夫	人文社会科学部
4	竹原 明秀	人文社会科学部
5	開龍美	人文社会科学部
6	松岡 勝実	人文社会科学部
7	丸山 仁	人文社会科学部
8	宇佐美 公生	教育学部
9	内山 三郎	教育学部
10	梶原 昌五	教育学部
11	金澤 俊成	教育学部
12	菊地 洋一	教育学部
13	菅原 悦子	教育学部
14	土谷 信高	教育学部
15	長澤 由喜子	教育学部
16	中村 一基	教育学部
17	名越 利幸	教育学部
18	三井 隆弘	教育学部
19	山崎 浩二	教育学部
20	石川 奈緒	工学部
21	大河原 正文	工学部
22	大塚 尚寛	工学部
23	海田輝之	工学部
24	鴨志田 直人	工学部
25	熊谷 直昭	工学部
26	齊藤 貢	工学部
27	清水 健司	工学部
28	成田 榮一	工学部
29	中澤 廣	工学部
30	晴山 渉	工学部
31	南正昭	工学部
32	松林 由里子	工学部
33	青井 俊樹	農学部
34	東淳樹	農学部
35	安嬰	農学部
64	伊藤 菊一	農学部
36	井良沢 道也	農学部
37	岡田 秀二	農学部
38	岡田 益己	農学部
39	小田 伸一	農学部
40	木崎景一郎	農学部
41	喜多 一美	農学部
42	木下 幸雄	農学部
43	國崎 貴嗣	農学部

平成23年度分科会メンバー表・開講科目一覧

44	倉島 栄一	農学部
45	小出 章二	農学部
46	小林 沙織	農学部
47	小藤田 久義	農学部
48	颯田 尚哉	農学部
49	佐野 宏明	農学部
65	澤口 勇雄	農学部
50	庄野 浩資	農学部
51	関野 登	農学部
52	出口 善隆	農学部
53	橋本 良二	農学部
54	濱上 邦彦	農学部
55	廣田 純一	農学部
56	前田 武己	農学部
57	松木 佐和子	農学部
58	松嶋 卯月	農学部
59	三宅 諭	農学部
60	武藤 由子	農学部
61	山本 清龍	農学部
62	山本 清二	農学部
66	山本 信次	農学部
63	吉川 信幸	農学部

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
環境教育	「環境」を考える	
科目	生活と環境	
	都市と環境	
	地域の環境保全を考える	
	地球環境と社会	
	水と環境	
	廃棄物と環境	
	植物栽培と環境テクノロジー	
	森林と環境	
	動物と環境	
	人の暮らしと生物環境	
	環境マネジメントと岩手大学	新規科目

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考
総合科目 文 3 現 岩 三 科 現 岩 図 宮 環 い	文化の伝統と現在	
	コミュニケーションの現在	
	現代社会をみる視角	
	岩手の研究	
	これからの健康科学	
	科学技術と現代社会	
	現代職業選択論	
	岩手大学論	
	図書館への招待	
	宮沢賢治の思想と文学	
	環境マネジメント実践学	
	いわて学I	集中講義
	いわて学Ⅱ	集中講義
	総合科目特別講義	

全学共通教育科目 開講一覧 (H 2 3)

履修区分	授業科目名	備考				
高年次課題	男女共同参画の実践を学ぶ	集中講義				
科目	都市の自然再生プランニング					
	北上川流域学実習	集中講義				
	津波の実際から防災を考える	集中講義				
	環境都市盛岡づくりプロジェクト					
	社会のなかの法律問題を考える					
	日本の文化・社会と国際ボランティア					
	高年次課題科目特別講義 I					
	高年次課題科目特別講義Ⅱ	放送大学科目(問題発見と解決の技法)				

平成23年度 分科会FD担当者名簿

外国語分科会	松	林	城	弘
健康・スポーツ分科会	浅	沼	道	成
情報基礎分科会	鈴	木	正	幸
思想と文化分科会	菅	野	文	夫
心と表象分科会	織	田	信	男
公共社会分科会	横	Щ	英	信
現代の諸問題分科会	小里	予澤	章	子
生物の世界分科会	御	領	政	信
自然と数理の世界分科会	八	木	_	正
科学技術分科会	柳	岡	英	樹
環境分科会	梶	原	昌	五

平成 2 3 年度総合科目企画·実施委員会委員名簿

全学共通教育部門長	河	田	裕	樹
(分科会からの代表)				
外国語分科会	齋	藤	博	次
健康・スポーツ分科会	澤	村	省	逸
情報基礎分科会	鈴	木	正	幸
思想と文化分科会	江	本	理	恵
心と表象分科会	小	島	聡	子
公共社会分科会	藤	本	幸	
現代の諸問題分科会	小	Щ		猛
生物の世界分科会	松	原	和	衛
自然と数理の世界分科会	八	木	_	正
科学技術分科会	柳	岡	英	樹
環境分科会	木	崎	景-	一郎
(授業担当者(代表))				
文化の伝統と現代	齋	藤	博	次
コミュニケーションの現在	橋	本		学
現代社会をみる視角	杭	田	俊	之
岩手の研究	砂	Щ		稔
これからの健康科学	澤	村	省	逸
科学技術と現代社会	河	合	成	直
現代職業選択論				
岩手大学論	江	本	理	恵
図書館への招待	Щ	崎	憲	治
宮澤賢治の思想と文化	砂	Щ		稔
岩手大学の環境マネジメント	梶	原	昌	五.

〈平成23年度検証後〉

分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン

「外国語」分科会

(1) 教育目標

1) 英語

「英語」は、学生の習熟度に応じ、a) 十分な英語力を身につけていない学生に対しては、英文法や基礎的表現の復習を通して、読み書きの基礎的な能力、および簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力を育成し、b) 基礎的な運用能力を身につけている学生に対しては、各学問分野の入門的な書物を十分に読みこなせる読解力、平易な英語を使って正しく書ける作文力、身近な話題について説明したり意見を述べたりすることができる能力を養い、c) 高度な学力を有する学生に対しては、各学問分野のより精緻な英文や時事英語を早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力、さらには自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。また、全ての授業を通して異文化理解の促進を図る。

2) 英語以外の外国語

「英語以外の外国語」は、

- a) 日常生活に必要な簡単な会話ができるようにすること
- b) 外国語の基礎的な文法を習得し、簡単な文章を読むことができるようにすること
- c) 日常生活で使う簡単な文章を書けるようにすること
- d) 外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること

の4点を身につけることを教育目標とする。具体的には、初級では「入門・発展」を修めることにより各語学検定試験の4級程度、また中級では3級程度をマスターしたと認められる程度のレベルをめざす。

3) 日本語

「日本語」は、受講学生(外国人留学生)が既に初中級レベルの日本語をマスターしていることを前提に、上級レベルの会話・読解・作文等の指導を行うこととしております。日本人学生や教師、一般市民等と十分な会話を交わすことができ、日本語の新聞・雑誌・教科書等を概ね読むことができ、作文やレポートも日本人学生にあまり劣らない程度に書くことができるという日本語力を修得させることを教育目標としてめざします。

(2) 授業科目の位置づけと到達目標

1) 英語

- · 英語総合 I (初級), 英語総合 II (初級)
 - → 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心 にして英語力の向上を図る。
- ・英語コミュニケーション I (初級), 英語コミュニケーション II (初級)
 - → 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心 にして英語力の向上を図る。
- 英語総合Ⅰ(中級), 英語総合Ⅱ(中級)
 - → 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心 にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーション I (中級), 英語コミュニケーション II (中級)
 - → 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心 にして更なる英語力の向上を図る。
- ・英語総合 I (上級), 英語総合 II (上級)
 - → 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心に して英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーション I (上級), 英語コミュニケーション II (上級)
 - → 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして,「聞くこと」と「話すこと」を中心に して更なる英語力の向上を図る。

2) 英語以外の外国語

- ・初級ドイツ語(入門),初級フランス語(入門),初級ロシア語(入門),初級中国語(入門), 初級韓国語(入門)
 - → それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を養う。
- ・初級ドイツ語(発展),初級フランス語(発展),初級ロシア語(発展),初級中国語(発展), 初級韓国語(発展)
 - → それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の4級程度の力を養う。
- ・中級ドイツ語,中級フランス語,中級ロシア語,中級中国語,中級韓国語
 - → それぞれの言語において基礎的能力を身に付けた者に対して、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の3級程度の力を養う。

3) 日本語

- ·上級日本語 A, 上級日本語 E
 - → 口頭表現(プレゼンテーション, 討論, 高度な会話)の能力を養う。
- ·上級日本語 B, 上級日本語 F
 - → アカデミックリーディング(論文, 資料読解)の能力を養う。
- ・上級日本語 C, 上級日本語 G
 - → 文系・理系別専門日本語(基礎専門用語)の能力を養う。
- •上級日本語 D, 上級日本語 H
 - → アカデミックライティング(論文,レポート作成)の能力を養う。
- ・各授業は技能別に編成され、それぞれ日本語能力試験1級合格以上の知識、技能と基礎的なアカデミックジャパニーズ(専門日本語)の習得を到達目標とする。すなわち、高度の文法・漢字(2,000 字以上)、語彙(10,000 語以上)を習得し、大学生活を送る上で必要な総合的な日本語の知識・技能を習得させることを到達目標とする。

(3) 成績評価基準のガイドライン

1) 英語

出席,授業中の言語活動 (積極的な参加),課題,試験 (ミニテストなども含む)の結果を総合的に判断し、上級、中級、初級のレベルごとに設定された目標 (下記参照) に照らし合わせて成績を付ける。

- · 英語総合 I (初級), 英語総合 II (初級)
 - → 英文法の知識や基礎的表現力が身に付き、基礎的な読み書き能力が身に付く。
- ・英語コミュニケーション I (初級), 英語コミュニケーション II (初級)
 - → 英語を使って簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力が身に付く。
- · 英語総合 I (中級), 英語総合 II (中級)
 - → 各学問分野の入門的な書物など比較的レベルの高いテキストを読みこなせる読解力があり、また平易な英語を使って正しく書ける作文力がある。
- ・英語コミュニケーション I (中級), 英語コミュニケーション II (中級)
 - → 英語を使って、身近な話題について説明したり意見を述べたりできる能力がある。
- ・英語総合 I (上級), 英語総合 II (上級)
 - → 各学問分野のより精緻な英文や時事英語などのテキストを早く正しく読める読解力, 様々なトピックについて,明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力が身 に付く。
- ・英語コミュニケーション I (上級), 英語コミュニケーション II (上級)
 - → 英語を使って自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション 能力が身に付く。

2) 英語以外の外国語

それぞれの段階で、定期試験、小テスト、出席、それ以外の平常点などの中から2つ以上の基準をもって多角的に判断する。

3) 日本語

出席,授業参加態度,課題の3つの観点から総合的に評価する。教員の意見を一方的に聞くだけでなく,授業に積極的に参加し,課される課題に対して十分に取り組み,成果を示すことに対して評価を行う。

成績評価は以下のように行う。

「秀」: 出席の基準を満たし、授業に積極的に関与し、課題に対して授業を通じて得た知識を生かして自らの知見を十分に表現した。

「優」: 出席,授業態度が優秀で,授業中に得た知識を十分に活用して課題に取り組んだ。

「良」: 出席,授業態度が良好で,授業内容を十分理解し,課題に取り組んだ。

「可」: 出席,授業態度に問題がなく,授業内容をある程度理解し、課題に取り組んだ。

「健康・スポーツ」分科会

(1) 教育目標

健康・スポーツ科目は、スポーツの実践を通して、健康と体力の保持増進を図るとともにコミュニケーション能力を高め、スポーツの科学的方法やスポーツ文化についても理解を深め、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

		割	評(田 の	観	点	
育	評価方法		関心・ 知識 意欲・ 態度 理解		技能 ・ 表現	•	評価の具体的な基準
健康・ス	平常点	75 %	©	0	0	0	S:授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A:授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B:授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C:授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D:授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
ポーツA	課題	25 %		0	0	0	S:課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A:課題・レポートの内容が秀でている。 B:課題・レポートの内容が普通である。 C:課題・レポートの内容が低い。 D:課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・ス	平常点	75 %	©	0	0	0	S:授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A:授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B:授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C:授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D:授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
ポーツ B	課題	25 %		©	0	0	S:課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A:課題・レポートの内容が秀でている。 B:課題・レポートの内容が普通である。 C:課題・レポートの内容が低い。 D:課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スプ	平常点	75 %	©	0	0	0	S:集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A:集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 B:集中講義に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 C:集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D:集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが全く不足している。
ポーツC	課題	25 %		0	0	0	S:課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A:課題・レポートの内容が秀でている。 B:課題・レポートの内容が普通である。 C:課題・レポートの内容が低い。 D:課題・レポートの内容がかなり低い。

平常点・課題のうち、「D」がある場合は不可とする。

「情報基礎」分科会

(1) 教育目標

「情報基礎」は、高度情報通信社会において主体的に学生生活、社会生活を送る上で必要とされる基礎・基本的な能力を育成するために開設された科目です。

この科目は、情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得することを通して、情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につけること、さらには、情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解して今後の情報社会に参画する上で望ましい態度を身につけることを教育目標としています。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1)授業の目的

授業の目的にあたっては、分科会の教育目標に従って、この授業科目を学ぶ目的を、授業を行う側の視点から明記する。

全学共通教育の基礎としての部分で、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を 習得すること」「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な科学的な見方や 考え方を身につけること」「今後の情報社会を参画する上で望ましい能力と態度を身につけるこ と」は共通する授業の目的であると考えられる。

しかし、同時に専門教育の基礎として、最終的にどのようなことができるようになって欲しいのか(「実験データを分析し、レポートを作成する」という場面において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して、目的を達成できるようになって欲しいのか、「授業で用いる教材を作成する」という場面において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して目的を達成できるようになって欲しいのか、など)については、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で決定し、明記することとする。

2) 到達目標

授業の目的に沿って、今度は、具体的に「学生が何をできるようになるのかを自分自身で確認できるような形で」到達目標を記述する。授業の目的が、授業をする側(教員側)からの視点で書かれたものであれば、到達目標は、学生側の視点で書かれたものとなる。その意味では、学生自身の自主学習に対する指針ともなるべき部分である。

上記の「授業の目的」と関連して、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得」でどの程度の知識や技能を習得しなければならないのか(ワード、エクセルを使える、UNIXの基本的なコマンドが使える、など)、「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につける」ために、どのような題材を学習し、どこまでできるようにならなければいけないのか(「実験データを分析し、レポートを作成する」という課題において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、「授業で用いる教材を作成する」という課題において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して時間内に目

的を達成できる,など),「情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解」でどのような理解を求めるのか(開発者の立場から人間や社会に及ぼす影響を考えるのか,ユーザ(消費者)の立場から考えるのか,など)など,具体的な到達点として何を要求するのかについては,各学部,学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で具体的に示すようにする。

情報基礎分科会においては、この「到達目標」を明確にすることが要求されている。少なくても、同じ学部もしくは学科内では、一定の到達目標を持つ必要がある。

3) 成績評価の方法と基準

○成績評価方法

出席点(授業に出席したことによる点数)は不可だが、平常点として、授業中に実施した課題 (指示されたことができたかどうか)による評価を加えることは十分に考えられる。また、実践 的な能力を身につけることを目指す意味より、最終テストによる評価だけではなく、できる限り、 通常の授業及び授業時間以外に学生が行う課題を評価方法として加えるようにする。

○観点

- ・それぞれの評価方法に対して、複数の観点からの評価を行うことを意識する。 (人間の身体を測定するのに、身長(長さ)を測定したり、体重(重さ)を測定したりするように、できるだけ色々な観点で測定した方が実態に近づける、という考え方に基づく。)
- ・4つの観点(「関心・意欲」「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」)をバランス良く 含むこと。
- ・「知識・理解」もしくは「技能・表現」だけに偏らないように配慮すること。
- ・情報基礎では、特に「思考・判断」(自分で選択できる)の観点を取り入れ、そのような実習を行わせるようにする。

○基準

- ・それぞれの「方法」において、具体的に何をどのように評価するのかを明記すること。
- ・それぞれの「方法」において、全体(100%)に対して、どのぐらいの割合(例えば30%など)を占めるものなのかを明記すること。

○秀,優,良,可

設定した到達目標に照らし合わせて、「秀」「優」「良」「可」の基準を明記すること。例えば、「秀:与えられた課題に対して、使うソフトウェアを自分で選択して時間内に解決できる」、「優:与えられた課題に対して、使うソフトウェアの候補を指示すれば、その中から選択して、時間内に解決できる」など、それぞれの「到達目標」に照らし合わせておおよその「像」を示すこと。

特に「可」の学生は最低限どの程度の能力が身についているのかについては、できる限り明記すること。

情報基礎分科会では、「到達目標への達成度を基準とした絶対評価」を行うことを基本とするが、秀、優、良、可のバランスが極端にならないよう(ほぼ全員が秀、ほぼ全員が不可など)、常に到達目標及び評価の基準を見直すこととする。

「思想と文化」分科会

(1) 教育目標

「思想と文化」は、人間と思想・文化との関係を主題とする教養科目です。

すなわち、これは、主として思想・文化・歴史の観点から、人間の生み出す思想と文化およびその歴史をめぐるさまざまな問題を主題として扱う科目です。この科目では、学生の皆さんが現代の思想や文化に特徴的な課題や、それを理解するために必要な歴史的な課題にふれるとともに、あわせて思想・歴史・文化にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標「特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1)到達目標

- ・学生の皆さんが、思想・文化・歴史にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようになる。
- ・学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、思想・文化・歴史との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことができるようになる。

2) 成績評価基準

(A)成績評価の方法について

- ・現行のシラバス手引き等にある評価項目をふまえて評価を行うが、個々の授業科目において評価方法の選択の余地が実質的に残されるよう配慮する。
- ・評価項目としては、出席、テスト、レポート、レスポンスカードなど、共通の評価項目を踏ま えて評価していく。
- ・各評価項目の重みづけについては、授業担当者が自身で決定できるものとする。

(B)成績評価の基準について

・シラバスで定めた「到達目標」の達成度を基準として成績評価を行う。

評価基準

秀 所期の「到達目標」にほぼ完全に達しているか、または傑出した水準に達している。

優 やや問題はあるが,所期の「到達目標」に十分に達している。80~89点に対応。

良 誤りや不十分な点があるが、所期の「到達目標」にかなりの程度まで達している。 $70 \sim 79$ 点に対応。

可 所期の「到達目標」に最低限ではあるが達している。60~69点に対応。

不可 単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。60点未満に対応。

「心と表象」分科会

(1) 教育目標

「心と表象」は、人間の心の世界とその具体的な表れ(表象)としての言葉・文学・芸術の世界を主題とする教養科目です。すなわち、これは心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界の諸相とその背景にある諸問題を主題として扱う科目です。

この科目では、学生の皆さんが、人間の心に関する諸問題と人間の表象(表現)活動としての言葉、文学および芸術の諸相を理解するとともに、あわせて心、言葉、文学、芸術にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標[特に①と②]の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- a) 学生の皆さんが、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界にかかわる学問分野の「ものの 見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意 味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことが できるようにする。
- b) 学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤となっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら養うことができるようにする。

2) 成績評価基準のガイドライン

- a) 科目間の不均衡をさけるため、各授業担当者は、成績評価が(ほぼ全員がAとかDなど)極端に偏らないよう配慮する(この点はシラバス等には記載しない)。
- b) 各授業担当者は、担当科目の成績評価の方法と基準をあらかじめシラバスに明示する。[シラバスに入力する成績評価の方法と基準は、基本的にアイアシスタントでのシラバス入力の枠組みに準拠する。]
- c) 評価方法の項目としては、①試験、②レポート、③講義への貢献度(出席回数、課題発表、質疑・討論等)、④その他講義内容に応じ各担当教官が指示した事項、が挙げられるが、これらの中から各授業担当者が授業の内容に応じて、できるだけ複数の評価方法を適宜選択し、シラバスに明示する。

「公共社会」分科会

(1) 教育目標

「公共社会」分科会は、個々人の単なる集合ではなく、人と人との関係を含んだ概念である「社会」を扱う授業科目を担当します。

「公共社会」分科会は、一見混沌としているように見える現代の複雑な社会現象について、 その表層部分にのみ注目するのではなく、広い視野をもって個々の社会現象間の連関を認識す ることを通して、現代社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を習得し、 もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養を身 につけることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 成績評価の方法

出席点(授業に出席したことによる点数)のみでの成績評価は行わないこととするが、最終試験・最終レポートだけではなく、出席状況やレスポンスカードの内容、中間試験・中間レポートなども評価の対象とする。

2) 成績評価の基準

- ・秀 社会現象・社会問題に関する基礎知識や主要見解を十分に理解するとともに、自分なりの観点で社会現象・社会問題を分析する能力を身につけている。
- ・優 社会現象・社会問題に関する基本知識や主要見解を十分に理解するとともに、一定 の観点から社会現象・社会問題を分析する能力を身につけている。
- ・良 社会現象・社会問題に関する基本知識や主要見解を十分に理解するとともに、社会 現象・社会問題を論理立てて説明する能力を身につけている。
- ・可 社会現象・社会問題に関する基本知識や主要見解を理解するとともに、社会現象・ 社会問題の背景を一通り説明することができる。

「現代の諸問題」分科会

(1) 教育目標

「現代の諸問題」は現代社会に生起する様々な問題を主題とする教養科目です。

「日本事情 A・B」においては、留学生を主たる対象とする日本語教育をとおして日本の歴史・ 文化・風俗等を理解させるとともに、「現代社会の社会学」では、地域社会や現代家族の変容過程 を社会学的視点から把握することによって「現代をみる眼」の習得を教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「現代の諸問題」分科会は、以下のような成績評価基準と成績評価方法を作成します。

1) 成績評価基準

秀:到達目標(各教員が定める)のすべてにおいて特に高い水準にある。(90点)

優:到達目標のすべてにおいて高い水準に達している。(80点)

良:到達目標をある程度達成している。(70点)

可:到達目標の一部を達成しているが、学習成果が十分でない。(60点)

2) 成績評価方法

平常点20%レスポンスカードの内容40%期末試験40%

なお、教員の判断により、レポートを課し、レスポンスカードの得点に含めても良い。

「生物の世界」分科会

(1) 教育目標

「生物の世界」は現代社会に生きている人、すなわちこれから社会にでて生きていこうとしている理科系、文科系を問わず全ての学生に教養としての現代生物学あるいは生命科学を様々な角度から複眼的、鳥瞰的かつ総合的に概説することによって、学生が生命のしくみを日常生活と関連づけて理解し、いのちのあり方を見つめ、改めて自分を知ることができるような講義内容とし、科学的な生命観を養うことを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「生物の世界」の分科会は以下に示した成績評価基準と成績評価方法を採る。本分科会の教育目標に従い、生命のしくみに対する科学的な「ものの見方・考え方」の習得を測定するために多様な評価方法を採る。

1) ガイドライン

秀:生命のしくみについて十分に理解し、自分なりの観点で生命現象を科学的に分析し、十分に理解する能力を身につけていること。(90点)

優:生命のしくみについて十分に理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する 能力を身につけていること。(80点)

良:生命のしくみについて理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を 身につけていること。(70点)

可:生命のしくみについて理解し、科学的に思考する能力を身につけていること。(60点) 不可:上記「可」の到達目標を達していない。

2) 成績評価法

平常点,小テスト,レポート,期末試験等により評価する。これらの成績評価の比重については、担当教員の総合判断による。

「自然と数理の世界」分科会

(1) 教育目標

「自然と数理の世界」分科会は、自然科学的な自然認識の到達点を踏まえつつ、自然科学における各学問分野、とりわけ、数学・物理学・化学の分野を中心として、それぞれの学問分野に特有な基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解を図り、論理的な思考力を養成することを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「自然と数理の世界」分科会は、以下に示した範囲内で成績評価基準と成績評価方法を作成する。 本分科会の教育目標に照らし、基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解や論理的な思考力を測 定するために多様な評価方法を採るものとする。

- ※ 到達目標に対応した基準を設定する。どのような到達目標に到達すれば、「秀」、「優」、「良」、「可」なのかを明記する。
- ※ 成績評価の方法を示す。平常点、小テスト、レポート、期末試験など。
- ※ 複数の方法で評価する場合には、それぞれの方法でどのような基準で判定し、およそどのくらいの割合で集計するかを明示する。

「科学技術」分科会

(1) 教育目標

科学技術と人間社会の関わりをテーマに、現代社会の繁栄を担う様々な科学技術開発の歴史と現 状そして将来を、社会や経済との関連も含めて理解し、幅広い教養とものの見方・考え方を習得す ることを目指します。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標・・・中世・近世以降の科学と技術の歴史と、先端科学技術(例えば、ロボット、コンピュータ、エレクトロニクス、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、新材料など)の現状を、講義と自宅学習を通じて理解する。さらに、人間社会との関わりの中から科学技術の将来のあるべき姿について、自らの考えをまとめることが出来る能力を習得する。

2) 成績評価の基準

本分科会では以下に示す評価基準で評価する。

- ・これまでの科学と技術の歴史と、先端科学技術のいくつかの分野の歴史と現状を理解出来ているか。(「可」、「良」の評価基準とする)
- ・科学技術の歴史と現状の理解に基づき、将来のあるべき姿について自らの考えをまとめることが出来るか。(「優」、「秀」の評価基準とする)
- ・成績は平常点(レスポンスカードの提出や授業中の発言など)20%、レポートや期末テスト

80%で総合評価する。

・関連する内容に関する書籍や論文を自ら読んでまとめるレポートを課し、評価に加える。

「環境」分科会

(1) 教育目標

「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられる教育科目です。 この科目では、教育科目全体としての上記の教育目標に沿い、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことをめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) ガイドライン

秀: 到達目標(各教官が定める)のほぼすべてにおいて特に高い水準に達している。(90点)

優:到達目標のほぼすべてにおいて高い水準に達している。(80点)

良:到達目標をある程度達成している。(70点)

可:到達目標の一部を達成しているが、学習成果が十分でない。(60点)

不可:到達目標を達成していない。

2) 成績評価方法

平常点 20%

レスポンスカード 40%

学期末試験 40%

なお、教員の判断により、レポートを課し、レスポンスカードの得点に含めても良い。

平成20年3月3日

オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン

複数の教員が一つの授業科目を担当するいわゆるオムニバス授業は、多角的・学際的視野を学生に提供できるなど長所が多い反面、一つの授業科目としての統一性に欠けるという欠点も指摘されてきた。事実、各講義担当者が自分の担当分以外には無関心で、受講者の立場からすると前後に脈絡のないバラバラな話を聞かされたという印象しか残らない授業科目も皆無ではなかったと思われる。

こうした反省を踏まえて、平成17年に大学教育センター全学共通教育企画・実施部門では、総合科目担当者を対象にしたアンケート調査や当時の「総合科目分科会」の検討を経て、「オムニバス方式の学際的な授業科目における講義間の密接な連携について」(平成17年9月)を策定し、総合科目の授業方法の改善に活用してきた。

以下に箇条書きされている新たなガイドラインは、旧「総合科目分科会」に替る「総合科目企画・実施委員会」が従来の指針を再検討するとともに、課題として残された点にも検討を加えて策定したものであり、平成20年度開講科目から活用することとする。

- 1 オムニバス方式授業科目の講義間の連携は以下のような方法で当該科目の代表者を通じて達成を図る。
 - (1) 各授業科目の担当代表者は科目の責任者及びコーディネーターの役割を担い、各 科目は、原則として、一人の担当者による通常の科目と同じように担当代表者の 科目として扱う。なお、代表者及び授業担当者の教育貢献度等については別途検 討する。
 - (2) 担当代表者は授業の目的・到達目標・授業の概要・成績評価基準などについて講義担当者間で共通理解を図り、シラバス記載や成績提出等に責任を持つ。
 - (3) 担当代表者は初回のオリエンテーション等により受講者に対して授業の目的等について周知を図る。
 - (4) 担当代表者は原則として2回程度講義担当者全員を招集して授業の趣旨・内容等について検討会など(授業に組み入れることも可)を開催し、講義担当者全員が授業科目全体の把握に努める。講義担当者に学外者がいる場合も何らかの方法で相互理解を図る。
 - (5) その他、担当代表者は可能な範囲内で他の担当者の講義に出席するなど連携に必要と思われる措置を講ずる。
- 2 各講義担当者は上記の役割を担う代表者に協力するとともに、以下の点に留意する。
 - (1) 各講義担当者は授業科目全体における自分の担当分の位置と意義を十分理解する。
 - (2) アイアシスタントなどの有効活用により、講義内容や学生への配付資料等を担当者間で共有する。
 - (3) その他連携に必要と思われる措置を講じる。
- 3 大学教育総合センターは担当代表者が円滑に役割を果たせるように協力する。
 - (1) 大学教育総合センターは「総合科目企画・実施委員会」を通じてオムニバス方式 授業の実施状況を把握する。
 - (2) その他連携に必要と思われる措置を講じる。

平成20年3月3日

「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン

(1) 教育目標

多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を学生が自ら培うことを支援する。(『履修の手引き』より)

(2) 成績評価のガイドライン

1)授業科目の目的

上記の「総合科目」全体の教育目標を踏まえて、授業科目ごとに目的を設定する。

2)授業科目の到達目標

授業の目的に沿って、「具体的に何を出来るようになるのかを学生自らが確認できる形で」到達目標を記述する。言い換えれば、教員が設定した目的に対して学生は何が出来れば到達したことになるのかを具体的に記述して、自主的な学習の指針を与える。

3) 成績評価の方法と基準

- ・ 到達目標を踏まえた絶対評価とする。
- 期末試験だけでなく、複数の方法で評価する。
- ・ 平常点については出席回数だけではなく、レスポンスカード、i カード等も 利用する。
- ・ レポートやテストなども複数の観点(関心・意欲、知識・理解、技能・表現、 思考・判断など)から評価する。
- ・ 上記の評価方法について何(平常点、テストなど)をどの程度の割合(例えば平常点30%など)で評価するかを明示する。

4)授業担当者間の確認

オムニバス形式授業科目では「オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン」を踏まえて、成績評価についても一つの授業科目としての統一を図れるよう成績評価基準等を確認する。

第2回岩手大学 全学共通教育シンポジウム

テーマ:「21世紀型市民」の育成と賃保証

~ 専門教育と全学共通教育との連携に向けて~

日時:平成23年11月2日(水)

午後3時~5時半

場所:総合教育研究棟(教育系)北桐ホール

第1部 専門教育と全学共通教育との連携に向けて

高畑 義人 大学教育総合センター長

発表者:「外国語」「思想と文化」「心と表象」「生物の世界」

「自然と数理の世界」「科学技術」 分科会

各学部から人材養成目的を踏まえた全学共通教育への期待を予め提示し、 各分科会からそれに対する回答を行ったうえで、専門教育と全学共通教育 との連携について議論を行います。

第2部 持続可能な共生社会のための教育(ESD) 一大震災を受けて一

山崎 憲治 大学教育総合センター教授

発表者:「健康・スポーツ」「情報基礎」「公共社会」

「現代の諸問題」「環境」 分科会

今回の震災で、「持続可能な共生社会の構築」を改めて強く意識させる ものになりました。大震災を受け、様々な分野で問題等が発生しておりま す。今後、復興に向けて、どのような教育が必要なのか、各分科会の発表 を基に意見交換を行います。

主催:岩手大学大学教育総合センター

岩手大学大学教育総合センター全学共通教育部門



教育改善部門

教育改善部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

	氏 名	担当部局等
部門長	後藤尚人	人文社会科学部
全学共通教育部門長	河 田 裕 樹	人文社会科学部
専任教員	江 本 理 恵	大学教育総合センター
	砂 山 稔	人文社会科学部
	五 味 壮 平	人文社会科学部
	岩木信喜	教育学部
兼務教員	宮川洋一	教育学部
(学部選出委員)	松 浦 哲 也	工学部
	吉澤正人	工学部
	横井修司	農学部
	塚本知玄	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

活動報告

部門長 後藤 尚人

教育改善部門は、全学共通教育を中心としつつも、全学的な視座に基づいて FD 活動等を行っています。平成 23 年度の活動を、定例事業、審議案件、特記事項の 3 点に大別すると概ね次のようになります。定例事業は、学生アンケートの実施とそれに基づく優秀授業の選出、FD 合宿研修会などの業務です。審議案件は、平成 20 年度に定めた「岩手大学 FD プラン」の見直しです。そして特記事項としては、平成 20 年度から始まった「大学教員向けの教授技術学習システム ― 教授技術「匠の技」伝承プロジェクトー」のコンテンツ作成が挙げられます。

以下に個別事項毎に概略を説明します。各事項の詳細は、資料編をご参照下さい。

【定例事業】

*全学共通教育科目の授業アンケートの実施

→ 例年前期及び後期の学期末に全学共通教育科目の全授業を対象とした「学生による授業アンケート」を実施しています。平成 22 年度からは、科目ごとに隔年調査となるように工夫し、前期の対象科目は7月中旬~8月上旬に、後期の対象科目は1月中旬~2月上旬に実施しました。アンケートの集計結果は学期ごとにを授業担当者へ返却し、次学期の授業実施に係る判断材料になっています。

*全学共通教育科目の授業アンケートに基づく優秀授業の選出

→ 上記アンケートに基づき、優秀授業を学期毎に選定・表彰し、優秀授業担当教員と大学役員&センター長との懇談会を行ってきました。平成22年度前期のアンケートに基づく優秀授業の表彰・懇談会は7月29日に髙畑義人理事(教育・学生担当)・副学長を迎えて行いました。

*全学共通教育科目の授業公開

→ 学期毎の約 1 週間ずつ全学共通教育科目の全ての授業を公開し、一般市民や保護者の方々に全学共通教育への理解を深めて頂くと共に、保護者によるモニター制度を設け、助言を頂く機会としています。また、教員へは前年度の優秀授業を含めた授業へのピアレビューの機会ともなっています。前期の公開は6月6日~10日、後期は11月7日~11日でした。

* FD 合宿研修会

→ 毎年夏に全学部から教員の出席を募り 40 ~ 50 人規模で実施している事業です。平成 23 年度は、いわて高等教育コンソーシアムとの共催事業として実施し、「地域の復興に貢献できる教育機関の在り方を考える」をテーマに、前・葛巻町長の中村哲雄氏の基調講演をはじめ、県内 5 大学から、教員 30 名、職員 8 名が参加して、8 月 25 日~ 26 日にかけ、八幡平ハイツで実施しました。

* FD 講演会・学習会等

- → 必要に応じて随時開催しているもので、平成 23 年度は、平成 25 年度に受審予定の「認証 評価」への対応として以下の4つの学習会を企画・実施しました。
- ※ 9月2日(金):学びのマネジメントWG学習会:ロールモデル型 e ポートフォリオシステムを用いたマルチキャリアパス支援:日本女子大学理学部准教授 小川賀代氏
- ※11 月7日(月):大学教育総合センター学習会:学士課程教育の構築に向けて.この10年の政策動向.:文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長 高橋浩太朗氏
- ※12月14日(水):大学教育総合センター学習会:3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の開発と一貫性構築手法:愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長佐藤浩章氏
- ※ 3月22日 (木):評価室学習会:これからの「大学評価」:大阪大学大学教育実践センター 准教授 齊藤貴浩氏

*入学前教育

→ 推薦入試及び AO 入試合格者を対象に、課題図書のレポート作成および数学の e ラーニングによる自主学習(工学部は必修)を課しています。平成 23 年度は、256 名の合格者が対象で、入学前教育実施小委員会が課題図書の選定及び提出されたレポートのコメント(平成 24 年 2 月~3 月)を受け持っています。レポート提出率は 99%でした。

*卒業時アンケート

→ 平成 21 年度から統一フォーマットにより 2月~3月にかけて実施しているアンケートで、 平成 22 年度から Web で回答する方式にしています。紙ベースのアンケートと比べると、 回答率が伸び悩んでいる(平成 23 年度は 40%台)点が課題です。

*その他

- → 学科やコース、分科会単位で成績評価基準のガイドラインの検証に役立てるため、全学共 通教育並びに専門教育科目の全授業の成績評価比率を学期毎に専任教員へアイアシスタン トを通して配付しています。
- → 平成 18年度に岩手大学が東北地区大学の大学教育センター等に呼びかけて交流会「東北地区大学教育支援施設等交流会議」を行うことになりました。平成 23年度は「東北地区大学教育推進連絡会議」として、9月 28日に福島大学の主催で行われました。

【審議案件】

*岩手大学 FD プランの見直し

→ 平成 20 年度に策定した FD プランで想定された諸活動がどれくらい実行されているのか、また当初予定されていた活動が実体に応じたものになっているのか等について検証し、FD プランを見直す作業が平成 22 年度に始まり、各部局の FD 実施状況を持ち寄り、既存の FD プランの問題点を確認する作業が行われましたが成案を得るに至らず、平成 23 年度への継続事項となりました。本年度は、第3回の部門会議から第6回の部門会議にかけて集中的に審議し、現状に則した「FD ガイドライン」としてまとめました。

【特記事項】

*匠の技伝承プロジェクト

→ 教員の教授技術をコンパクトに映像化したりデータベース化して活用する「大学教員向けの教授技術学習システム — 教授技術「匠の技」伝承プロジェクト — 」(特殊要因経費:政策課題対応経費)が始まり、平成 21 年度、22 年度に引き続き、諸大学でコンテンツのもととなる授業&インタビューの収録を行いました。

平成 23 年度学習会実施報告

教育改善部門では、平成23年度に以下の学習会を実施しました。できる限り「現場に即した学習会を」ということで、今年は平成25年度に受審予定の「認証評価」をターゲットとし、それに対応するための学習会を企画・実施しました。

教育改善部門では、主に「教育」をテーマにした学習会等を企画・実施していますが、例えば学生支援部門で「学生支援(発達障害への対応等)」等の研修等も行っています。大学教育総合センターでは、それぞれの部門で役割分担をしながら、様々な形で先生方の支援に取り組んでおりますので、ぜひ、ご活用ください。

【学びのマネジメントWG学習会】

ロールモデル型 e ポートフォリオシステムを用いたマルチキャリアパス支援

日 時:9月2日(金) 14:00~16:00

会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室

講 師:日本女子大学理学部准教授 小川賀代氏

内 容:日本女子大学で開発・運用しているロールモデル型 e ポートフォリオシステムの紹介と、 実際に利用しての成果についてお話いただきました。全学生に強制しているわけではない のですが、特に女子大生を対象とした就職支援では成果を上げており、このようなポート フォリオシステムを導入し、活用することにより、一定の効果が上がることが紹介されま した。

【大学教育総合センター学習会】

学士課程教育の構築に向けて 一この10年の政策動向一

日 時:11月7日(月) 16:30~18:00 会 場:学生センターB棟1階 多目的室

講師:文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長高橋浩太朗氏

内 容:この学習会では、「この 10 年の政策動向」をサブタイトルに、どのような制作の流れがあったのかを再整理した後、現在、課題とされている「学士課程教育の構築」について、解説をしていただきました。特に、高等教育のグローバル化に伴い、今まで、日本の大学で「言わなくてもわかる」とされてきた数々の事柄について明確化する必要性がでてきており、「組織的な教育課程の実施」を内外に示すことが問われてきています。今後も政策動向をにらみつつ、自分たちが(教育機関として)譲れないモノは何か、組織として整備しなければならないことは何か、を学内にて議論していく必要があるのでは、と考えられます。

【大学教育総合センター学習会】

3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の開発 と一貫性構築手法

日 時:12月14日(水) 15:00~17:30

会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室

講師:愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長佐藤浩章氏

内 容:認証評価に向けて整備が必要な「3つのポリシー」について、その構築プロセスを、愛媛大学の例をご紹介いただきました。講演の中で「3つのポリシー」を策定する際に重要なこととして、「今まで実施してきた『教育課程の見直し』を行い、自分たちで納得がいくまで議論して決めること」が挙げられるのではないかと思いました。つまり、「誰かが」考えて与えてくれるものではなく、「自分たちで」考えるものである、ということです。愛媛大学でも、この取組が、「カリキュラム・学習評価等の開発手法」を学び、そして、「多様な学問分野のディスプリン」を学ぶ、教職員のFDの機会となっていることが紹介されました。

【評価室学習会】

これからの「大学評価」

日 時:3月22日(木) 16:00~18:00

会 場:情報メディアセンター図書館1F会議室

講師:大阪大学大学教育実践センター准教授 齊藤貴浩氏 ※評価室と大学教育総合センターとの共催です。

内 容:この学習会では、「大学評価」を専門とし、実際に大学評価・学位授与機構等で認証評価、法人評価に携わってこられた齊藤先生をお迎えして、「大学評価」に関して、その制度設計や国際的な動向、今後の展望等についてお話をいただきました。今後は、第三者評価については、「質の向上」から「質の保証」「説明責任」「情報提供」に移っていくだろう、ということ、そして「質の向上」は各大学の責任において行う方向に行くだろうことが示されました。

平成 22 年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

教育改善部門では、全学共通教育科目を対象に、いくつかの授業科目を除いて、2年に1回のペースで学生による「授業アンケー ト」を実施しています。平成22年度は前期開講科目、平成23年度は後期開講科目が授業アンケートの対象科目となります。

授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、部門会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」 を選出しています。今回、新しい試みとして、外国語科目(英語)について、コミュニケーションと総合にわけて選出してみました。 平成22年度前期の優秀授業科目は以下の通りです。

今年の7月29日に、新センター長の髙畑理事をお迎えしての全学共通教育優秀授業科目の表彰状の授与と懇談会を行いました。

平成 23 年 7 月 29 日 全学共通教育科目優秀授業表彰状授与式にて

人間と	文化					0364	英語総合 I (初級)	高	橋	敢	也
0010	心の理解	早	坂	浩	志	0332	英語総合 I (上級)	Gav	in Y	oung	5
0003	倫理学の世界	小	林		睦	0363	英語総合 I (初級)	星	野	勝	利
0011	心の理解	Щ	П		浩	■外国語和	斗目(英語以外)				
0006	心の理解	織	田	信	男	0474	上級日本語 C	中	村	ちと	どり
人間と	社会					0468	初級韓国語(入門)	齊	藤	春	佳
0055	対人関係の心理学	Ш	原	正	広	0473	上級日本語 B	岡	崎	正	道
0033	市民生活と法	深	澤	泰	弘	0472	上級日本語A	松	岡	洋	子
0048	現代社会の社会学	塚	本	善	弘	0429	初級フランス語(入門)	横	井	雅	明
0040	現代社会と経済	高	瀬		央	0464	初級韓国語(入門)	崔		在	繕
人間と	白然					0431	初級フランス語(発展)	グラ	ラアレ	ノクサ	トン
0062	自然と数理	岡	部	真	也	0448	初級ロシア語(入門)	長	野	俊	_
0071	物質の世界	吉	澤	正	人	■健康・ス	スポーツ科目				
情報科	Ħ					01035	バレーボール	若	林	美	邨
0117	· 情報基礎	宮	Ш	洋	_	01034	バドミントン	呵	部	令	奈
0118	情報基礎	笹	原		恵子	01054	体力トレーニング	佐人	木	彩	野
0111	情報基礎	五.	味		平	01015	体力トレーニング	佐人	木	彩	野
0119	情報基礎	宮		洋	•	01047	バレーボール	若	林	美	帆
A FEETS		>	٠)			01017	バレーボール	若	林	美	帆
	科目(英語コミュニケーシ				· D 1	01016	バドミントン	阿	部	令	奈
0325	英語コミュニケーション I (上級)			•	nin Reed	01033	バスケットボール	吉	田	裕	太
0313	英語コミュニケーションⅡ(上級)			•	nin Reed	01060	バドミントン	清	水	茂	幸
0327	英語コミュニケーション I (中級)				ERT KEN						
0312	英語コミュニケーション I(初級)			•	nin Reed						
0329	英語コミュニケーション I(初級)		-		ames Franciscus						
0368	英語コミュニケーション I(上級)	Bla	ir Be	njam	nin Reed		平成22年度前期 学生による投票アンケー 全学共通教育科目優秀授業表彰	トに基づく			
0373	英語コミュニケーション I (中級)	ASA	ANO	ROB	ERT KEN		D D D D D D	状投与			
0309	英語コミュニケーション I (上級)	Ishi	ikaw	a Pe	ggy Marrie	A		6			
外国語	科目(英語総合)					(1) (1) (1)			1	4	Y
0318	英語総合 I (上級)	小	Ш	春	美			1	- 1		
0320	英語総合 I (中級)	伊	東	兴=		507				1	1

Gavin Young

橋 本

Blair Benjamin Reed

学

0302 英語総合 I (中級)

0331 英語総合 I (上級)

0355 英語総合 I (上級)

優秀授業選出方針(平成22年度)

大学教育総合センター 教育改善部門

■優秀授業選出方針

- 1:アンケート実施授業科目を対象として、授業科目区分ごとに「優秀授業」を決定します。
- 2: 履修人数の少ない授業科目については対象から外します。授業科目区分毎に履修登録人数の平均を出し、明らかに履修登録人数が少ない授業(履修登録人数の平均の30%以下)については、対象から外します。
- 3:履修登録人数に比べて、アンケート回答者(回収枚数)が少ない授業科目については、対象から外します。回答者数が履修登録人数の70%未満の授業科目については、対象から外します。
- 4:各授業科目区分での優秀授業対象科目(アンケートを実施している、履修者数が規定を満たしている、回収率が70%以上)の20%の科目数(四捨五入)が選出されることを基準とします。ただし、区切りとなる科目の集計値とそれ以前、もしくは以降の集計値に差があまりない場合には、対象科目数の15%(四捨五入)~25%(四捨五入)範囲内の科目で、集計値の区切りの良いところまでを選出することとします。また、対象科目数が5科目未満の場合は、その区分からは選出しないこととします。
- 5:設問Dの各項目について、評点を定め、平均値を算出します。平成20年度は、選択肢の「そう思う」を2点、「まあそう思う」を1点、「あまりそう思わない」を-1点、「全くそう思わない」を-2点と評点を定めました。これを、各項目について、(「そう思う」と回答した人数×2+「まあそう思う」と回答した人数×1+「あまりそう思わない」と回答した人数×-1+「全くそう思わない」と回答した人数×-2)÷(「そう思う」と回答した人数+「まあそう思う」と回答した人数+「あまりそう思わない」と回答した人数+「全くそう思わない」と回答した人数)という式にあてはめ、点数を計算します。
- 6:5で算出した設問Dの各項目の値の平均をとります。 ここでいくつかの項目を集計よりはずしました。集計除外項目(候補)とその理由は裏面の通 りです。
- 7:設問 E についても、5の方法で評定値を算出します。
- 8:6で出した値と7で出した値とを合計します。
- 9:8で算出した値について、上位から並べ、実施授業科目数の20%を基準とし、15%~25%の 範囲以内に収まる範囲で「上位群」を判定し、それらの科目を抽出します。
- 10:1~9で抽出された授業科目を「優秀授業科目」候補科目とします。その後、自由記述項目等を加味して、教育評価・改善部門会議での審議の結果、「優秀授業科目」を決定します。

集計除外項目 (候補)

- f. 板書, ビデオ, プロジェクター等で指示されたものは、わかりやすいものでしたか?
- →板書やビデオ,プロジェクターは、「わかりやすい解説」を行うための「手段」であったり、もしくは教室の「環境」に左右されたりするので、今回は参考情報の1つとして扱いました。
- g. 教科書や参考書,配付資料は,学習の助けになりましたか?
- →教科書や参考書,配布資料は,「わかりやすい解説」を行うための「手段」の1つなので,今回は参考情報の1つとして扱いました.,
- i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか?
- →「学生が参加して活動するような機会」がある授業が好ましい授業形態の1つであることは確かですが、 履修人数等の関係上,「やりたくてもできない」場合もあるので、参考情報の1つとして扱いました。(健康・スポーツ科目: i)
- 1. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか? →アイアシスタント関連項目はデータ収集を目的に導入された項目なので、今回は、参考情報の1つとして扱います。来年度以降、FDプランの1つとして、集計項目になる可能性はあります。(健康・スポーツ科目: k)
- m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか?
- →上記はGPの成果測定のためのデータ収集を目的に導入された項目なので,参考情報の1つとして扱います。 (健康・スポーツ科目: 1)
- q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか?
- →問題解決活動を授業中もしくは授業時間外学習(自習)で行ったかどうかについての項目です。今後,「問題解決活動」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが,大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので,今回は参考情報の1つとして扱いました。
- r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間はありましたか?
- →教養教育の目標の1つでもある、常識・通念を問い直すことができたかどうかについての項目です。今後、これらの目標を達成することも目指すべき授業の1つですが、授業の題材などにもよるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。
- s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会があったと思いますか?
- →課題探求活動を授業中もしくは授業時間外学習(自習)で行ったかについての項目です。今後,「課題探求」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが,大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。
- t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか?
- →授業科目によっては、必ずしも「学生が役に立つと思う授業」=「いい授業」ではないので、今回は参考情報の1つとして扱いました。(外国語科目:q)(健康・スポーツ科目:p)
- u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか?
- →その授業科目で扱う題材や履修学生の所属学部などによって今後に対する意識も変わってくるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。(外国語科目: r)(健康・スポーツ科目: q)

平成23年度前期 授業アンケート(基礎ゼミナール) 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B □ この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は?

	全体	人社	教育	I	農
O回	78.2%	70.9%	65.1%	90.1%	83.2%
1回	16.0%	18.7%	24.5%	8.9%	14.7%
2回	1.9%	3.4%	2.4%	0.6%	2.1%
3回以上	3.9%	6.9%	8.0%	0.3%	0.0%
合計	824	203	212	314	95

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか?その内容はわかりましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
わかった	16.3%	36.8%	14.2%	4.8%	15.8%
だいたいわかった	39.5%	55.9%	43.9%	26.7%	36.8%
あまりわからなかった	16.1%	5.4%	13.2%	28.3%	5.3%
わからなかった	1.0%	0.5%	0.9%	1.0%	2.1%
読まなかった	27.1%	1.5%	27.8%	39.4%	40.0%
合計	826	204	212	315	95

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
ほとんどしなかった	62.7%	47.8%	69.3%	61.7%	83.2%
30分ぐらい	17.3%	20.0%	17.0%	17.4%	11.6%
1時間ぐらい	12.1%	18.5%	8.5%	12.7%	4.2%
2時間ぐらい	4.1%	4.4%	2.8%	5.7%	1.1%
3時間ぐらい	2.1%	3.4%	1.9%	1.9%	0.0%
4時間以上	1.8%	5.9%	0.5%	0.6%	0.0%
合計	828	205	212	316	95

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
よく利用した	3.3%	2.0%	2.8%	5.4%	0.0%
たまに利用した	14.1%	9.3%	16.4%	17.4%	8.4%
ほとんど利用しなかった	19.3%	20.6%	18.8%	17.4%	24.2%
まったく利用しなかった	63.3%	68.1%	62.0%	59.9%	67.4%
合計	829	204	213	317	95

e. (上記の回答が①~③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか?(複数回答可)

	全体	人社	教育	エ	農
授業記録	49.2%	65.6%	54.3%	32.9%	74.4%
i カード	3.7%	0.0%	0.0%	7.5%	2.6%
課題・レポート	29.4%	8.2%	27.2%	46.6%	2.6%
学習記録	9.8%	16.4%	7.4%	6.8%	15.4%
その他()	8.0%	9.8%	11.1%	6.2%	5.1%
승計	327	61	81	146	39

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
とても役に立った	7%	11.3%	8.5%	4.2%	7.4%
役に立った	23%	29.6%	26.9%	14.7%	23.2%
少し役に立った	30%	24.6%	28.8%	31.4%	38.9%
役に立たなかった	6%	6.9%	5.7%	6.7%	1.1%
使わなかった	34%	27.6%	30.2%	42.9%	29.5%
合計	822	203	212	312	95

g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機械はありましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
あった	62.0%	63.5%	57.5%	62.2%	68.1%
なかった	33.6%	33.0%	38.2%	33.7%	24.5%
はっきり憶えていない	4.4%	3.4%	4.2%	4.1%	7.4%
合計	824	203	212	315	94

h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会はありましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
あった	43.2%	52.2%	37.1%	39.0%	51.1%
なかった	48.6%	39.5%	55.9%	55.9%	27.7%
はっきり憶えていない	8.2%	8.3%	7.0%	5.1%	21.3%
合計	827	205	213	315	94

i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会はありましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
あった	56.2%	73.7%	50.0%	50.0%	52.6%
なかった	26.6%	14.6%	31.1%	33.9%	17.9%
はっきり憶えていない	17.2%	11.2%	19.8%	15.5%	29.5%
合計	827	204	214	314	95

j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会はありましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
あった	85%	94.1%	82.5%	83.9%	74.7%
なかった	7%	1.5%	9.4%	7.6%	8.4%
はっきり憶えていない	8%	4.4%	8.0%	8.5%	16.8%
合計	828	205	212	316	95

k. 班活動を行う機会はありましたか?また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会はありましたか?(複数回答可)

	全体	人社	教育	エ	農
班活動を行う機会があった	38.0%	28.8%	38.5%	36.1%	63.7%
発表する機会があった	55.7%	69.6%	58.3%	51.6%	31.9%
両方ともなかった	4.5%	0.8%	2.5%	9.2%	1.8%
はっきり憶えていない	1.8%	0.8%	0.7%	3.1%	2.7%
合計	1030	257	278	382	113

L レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか?

	全体	人社	教育	エ	農
そう思う	36.8%	45.1%	33.2%	35.4%	31.6%
すこしそう思う	29.4%	25.5%	23.4%	36.1%	29.5%
あまりそう思わない	5.8%	2.5%	6.1%	7.9%	5.3%
そう思う思わない	1.8%	1.0%	1.4%	2.2%	3.2%
機会がなかった	26.2%	26.0%	36.0%	18.4%	30.5%
合計	829	204	214	316	95

m. 提出物(宿題·レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか?

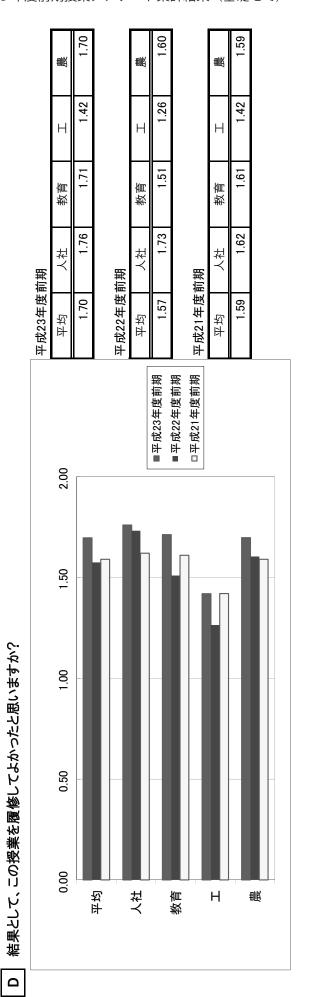
	全体	人社	教育	エ	農
そう思う	31.5%	40.9%	31.8%	24.4%	34.7%
すこしそう思う	44.1%	45.8%	41.1%	44.0%	47.4%
あまりそう思わない	12.7%	9.4%	9.3%	17.7%	10.5%
そう思う思わない	1.8%	1.0%	0.5%	3.2%	2.1%
機会がなかった	9.9%	3.0%	17.3%	10.8%	5.3%
슴計	828	203	214	316	95

n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか?

	全体	人社	教育	エ	農
そう思う	38.6%	39.7%	53.7%	27.1%	40.0%
すこしそう思う	47.2%	48.5%	38.3%	52.4%	47.4%
あまりそう思わない	11.7%	11.3%	6.5%	15.5%	11.6%
そう思う思わない	2.5%	0.5%	1.4%	5.0%	1.1%
合計	830	204	214	317	95

C | この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①~④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均	人社	教育	Н	農
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか?	1.40	1.50	1.41	1.19	0.91
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか?	1.50	1.58	1.51	1.27	1.30
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか?	0.74	0.77	0.75	0.56	0.77
d. この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか?	1.22	1.40	1.17	08'0	1.24
e. 授業中の教員の説明や指示はわかい、やすいものでしたか?	1.64	1.70	1.65	1.40	1.53
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか?	1.44	1.43	1.57	16.0	1.50
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか?	1.36	1.60	1.33	0.84	0.94
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか?	1.68	1.79	1.73	1.10	1.69
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか?	1.41	1.60	1.33	1.09	1.30
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか?	96.0-	-1.25	-0.77	-0.70	-0.86
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか?	0.16	90'0-	0.33	0.22	0.23
1. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか?	1.44	1.60	1.40	1.07	1.27
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか?	1.45	1.62	1.48	0.94	1.02
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか?	1.23	1.45	1.10	0.91	1.30
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか?	1.60	1.71	1.58	1.32	1.51
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか?	1.21	1.31	1.20	1.01	0.99
本	1.16	1.24	1.17	0.87	1.04



平成23年度後期 授業アンケート 学生の学習状況集計結果

大学教育総合センター

B □ この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
指定(指導)されたから	1.7%	4.9%	3.3%	3.9%	37.4%	81.1%	38.6%
単位がとりやすそうだったから	39.1%	30.4%	22.5%	48.6%	15.9%	2.8%	6.9%
自分の専門と関係がなさそうだから	13.8%	11.3%	8.1%	10.5%	6.5%	0.5%	1.4%
先輩などからすすめられたから	9.6%	9.6%	10.4%	6.6%	8.2%	0.8%	6.9%
他にとりたい外国語がなかったから	13.8%	15.3%	23.6%	14.4%	7.3%	13.3%	18.9%
シラバスを読んで興味を持ったから	48.4%	49.1%	48.0%	37.7%	39.3%	2.5%	27.0%
友達が選択するから	14.1%	14.3%	16.4%	11.7%	11.7%	1.3%	3.7%
自分の専門に関係が深そうだから	5.5%	8.3%	9.8%	3.1%	11.5%	7.9%	12.8%
他の外国語で人数制限を受けたから	0.8%	0.7%	0.5%	0.8%	2.8%	0.2%	2.9%
その他(具体的に:)	1.6%	2.8%	2.0%	1.2%	1.7%	4.4%	8.0%
合計(集計枚数)	1403	1525	978	257	1055	2195	814

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
0回	56.2%	50.9%	52.3%	43.1%	58.8%	57.6%	47.0%
1回	22.2%	23.1%	22.2%	22.9%	19.9%	20.2%	22.9%
2回	13.6%	15.1%	14.3%	19.8%	12.4%	12.3%	14.1%
3回以上	8.0%	10.8%	11.2%	14.2%	8.9%	7.9%	16.0%
合計(回答数)	1380	1512	965	253	1046	2150	807

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか? その内容はわかりましたか?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
わかった	22.1%	21.7%	16.7%	26.1%	23.1%	16.0%	19.0%
だいたいわかった	57.9%	58.4%	55.0%	54.5%	52.6%	34.7%	42.9%
あまりわからなかった	6.7%	7.0%	15.4%	7.4%	8.5%	8.3%	5.9%
わからなかった	0.8%	0.8%	1.4%	0.8%	0.9%	1.6%	1.4%
読まなかった	12.5%	12.2%	11.5%	11.3%	14.9%	39.4%	30.9%
合計(回答数)	1400	1523	975	257	1053	2191	812

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
ほとんどしなかった	84.8%	83.4%	80.1%	93.4%	87.5%	34.2%	44.0%
30分ぐらい	13.3%	14.6%	17.0%	5.4%	11.0%	37.5%	38.1%
1時間ぐらい	1.4%	1.6%	2.5%	1.2%	1.0%	20.4%	14.9%
2時間ぐらい	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	5.2%	2.3%
3時間ぐらい	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.6%
4時間以上	0.3%	0.3%	0.1%	0.0%	0.4%	1.2%	0.1%
合計(回答数)	1401	1519	976	257	1050	2193	814

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
よく利用した	8.8%	19.3%	3.5%	2.3%	4.8%	7.7%	2.8%
たまに利用した	9.1%	8.1%	11.0%	7.8%	17.1%	9.0%	9.2%
ほとんど利用しなかった	13.8%	13.9%	16.8%	15.6%	15.7%	11.9%	16.0%
まったく利用しなかった	68.2%	58.6%	68.8%	74.3%	62.4%	71.4%	72.0%
合計(回答数)	1401	1521	976	257	1054	2194	814

e. (上記の回答が①~③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか?(複数回答可)

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
授業記録	42.2%	36.4%	70.4%	63.6%	55.0%	53.9%	60.7%
i カード	29.2%	44.7%	2.8%	1.5%	10.9%	7.6%	1.6%
課題・レポート	10.9%	6.4%	4.9%	7.6%	14.6%	12.7%	8.7%
学習記録	8.5%	7.3%	12.3%	19.7%	10.7%	11.7%	15.9%
その他()	9.2%	5.2%	9.6%	7.6%	8.9%	14.1%	13.1%
合計(回答数)	448	671	324	66	460	660	252

f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	42.0%	35.5%	39.9%	44.4%	47.3%	41.0%	36.7%
すこしそう思う	30.2%	32.6%	41.2%	35.4%	38.0%	37.7%	34.8%
あまりそう思わない	7.3%	8.7%	8.4%	9.3%	7.3%	8.1%	7.9%
そう思わない	2.2%	3.0%	3.1%	2.3%	1.7%	1.6%	2.7%
機会がなかった	18.2%	20.2%	7.4%	8.6%	5.6%	11.5%	18.0%
合計(回答数)	1399	1522	977	257	1054	2192	813

g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか?

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	28.0%	28.1%	25.6%	19.8%	22.4%	30.1%	29.5%
すこしそう思う	27.8%	34.3%	38.7%	17.9%	33.0%	37.6%	33.5%
あまりそう思わない	8.7%	10.7%	13.6%	12.8%	7.5%	11.6%	10.3%
そう思わない	3.0%	2.7%	3.4%	2.7%	1.9%	2.6%	2.9%
機会がなかった	32.5%	24.2%	18.8%	46.7%	35.2%	18.0%	23.7%
合計(回答数)	1401	1524	978	257	1052	2195	814

h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか?

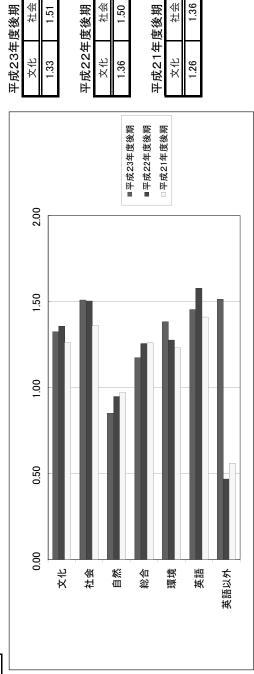
	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	29.1%	27.1%	19.4%	30.0%	25.4%	31.1%	29.1%
すこしそう思う	49.9%	49.8%	45.1%	47.5%	55.7%	51.5%	47.4%
あまりそう思わない	16.0%	18.8%	25.6%	16.7%	14.9%	14.2%	18.6%
そう思わない	4.9%	4.3%	9.8%	5.8%	4.1%	3.2%	4.9%
合計(回答数)	1402	1525	977	257	1053	2194	814

この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①~④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーケ(●)してください。

		文化	社会	自然	総	環境	英語	英語以外
a.	教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか?	1.25	1.41	0.95	1.07	1.09	1.32	1.25
b.	この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか?	1.31	1.46	1.01	1.08	1.27	1.36	1.39
C.	教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか?	1.24	1.43	1.03	1.32	1.21	1.36	1.39
d.	この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか?	1.34	1.37	1.21	1.47	1.37	1.17	1.28
e.	授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか?	1.27	1.43	0.69	1.12	1.20	1.27	1.34
ť.	板書・ビデオ・ブロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか?	1.00	1.31	0.79	0.45	0.68	1.11	1.16
ø	教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか?	1.25	1.46	0.94	0.63	1.07	1.23	1.50
h.	教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか?	1.06	1.30	0.83	1.29	1.45	1.10	1.31
j.	授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか?	0.16	0.54	-0.01	1.39	1.40	1.52	1.43
·-i	教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか?	19.0	06.0	0.30	-1.13	-0.53	96'0	1.14
곳.	この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか?	0.78	1.15	09.0	0.02	1.41	1.22	1.23
_:	この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか?	-0.79	-0.53	-1.01	0.25	0.74	88.0-	-0.90
m.	この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか?	-0.65	-0.04	-0.18	1.10	1.30	69.0-	-0.95
n.	授業開始時間・終了時間とも守られていましたか?	1.42	1.59	1.40	0.49	96.0	1.48	1.57
0.	授業はよく準備されていると思いますか?	1.50	1.64	1.38	1.13	1.38	1.46	1.46
p.	授業に対する教員の熱意を感じますか?	1.51	1.58	1.16	0.65	96.0	1.51	1.47
ď.	授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか?	0.63	96.0	0.67			1.41	1.33
۲.	授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか?	1.13	1.17	1.04			1.07	1.08
S.	授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか?	0.58	0.92	0.48				
t.	この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか?	1.04	1.45	0.79				
'n.	この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか?	69.0	1.02	0.45				
	中均	0.88	1.12	69.0	0.77	1.06	1.06	1.08

結果として、この授業を履修してよかったと思いますか?

ш



2	がこうことに					
文化	社会	自然	総の	環境	英語	英語以外
1.33	1.51	0.85	1.17	1.38	1.45	1.51

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.33	1.51	0.85	1.17	1.38	1.45	1.51
 	· * * * * * * * * * * * * * * * * * * *					
半成22年度後	皮後期					
文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.36	1.50	0.95	1.26	1.28	1.58	0.47

۵

平成23年度後期 授業アンケート 学生の学習状況集計結果 (健康・スポーツ科目)

大学教育総合センター

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	76.4%
経験のない種目だったから	14.6%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	7.4%
他にとりたい種目がなかったから	8.8%
先輩などからすすめられたから	2.0%
友達が選択するから	16.1%
他の種目で人数制限を受けたから	5.3%
その他	3.9%
合計(集計枚数)	929

○ この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は何回ですか?

es artare = respessed if restell species in a second	•
0回	63.4%
1回	21.1%
2回	9.1%
3回以上	6.4%
合計(回答数)	927

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか?

はい	92.3%
いいえ	7.7%
合計(回答数)	899

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか?

そう思う	55.1%
少しそう思う	25.4%
あまりそう思わない	13.5%
そう思わない	6.0%
合計(回答数)	929

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか? その内容はわかりましたか?

わかった	14.7%
だいたいわかった	24.1%
あまりわからなかった	3.8%
わからなかった	0.8%
読まなかった	56.7%
合計(回答数)	928

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを 利用しましたか?

良く利用した	2.5%
たまに利用した	2.8%
ほとんど利用しなかった	8.7%
まったく利用しなかった	86.0%
合計(回答数)	923

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて 予習・復習をしましたか?

ほとんどしなかった	95.8%
30分ぐらい	2.2%
1時間ぐらい	0.4%
2時間ぐらい	0.4%
3時間ぐらい	0.0%
4時間以上	1.2%
合計(回答数)	919

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明がありましたか?

あった	37.9%
あったと思う	45.0%
なかったと思う	12.5%
なかった	4.5%
合計(回答数)	928

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できるものだと 思いますか?

そう思う	55.0%
少しそう思う	37.7%
あまりそう思わない	5.6%
全くそう思わない	1.7%
合計(回答数)	929

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①~④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

a.	教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか?	1.38
b.	この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか?	1.48
C.	教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか?	1.14
d.	授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか?	1.29
e.	安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか?	1.70
f.	教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか?	1.46
g.	教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか?	0.63
h.	教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか?	1.05
i.	学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか?	1.43
j.	教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応をしていましたか?	1.14
k.	この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか?	-1.14
I.	授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか?	-0.96
m.	授業開始時間・終了時間ともに守られていましたか?	1.71
n.	授業はよく準備されていると思いますか?	1.51
0.	授業に対する教員の熱意を感じましたか?	1.59
p.	この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか?	1.38
q.	この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか?	1.22
	平均	1.06

平成22年2月22日

全学共通教育 学生による授業アンケート 実施スケジュール (案)

大学教育総合センター 教育評価・改善部門

■趣旨・目的

平成16年度より大学教育総合センターにて実施している「全学共通教育:学生による授業アンケート」は、平成21年度で丸6年を迎える。この間、めざましい授業の改善が行われ、ほぼ当初の「改善」の目的は達成されたと考えてもよいだろう。「授業アンケート」は授業の「点検」の意味では必要であるが、教員にとっては授業中にそのための時間を割かなければならないし、学生にとっても受講している様々な授業でアンケートに回答することになり、負担が大きい。

そこで、授業アンケートの実施の目的を授業科目の「改善」から「点検」へ変更し、実施回数を減らして教員・学生双方の負担の軽減をはかり、授業アンケート効果を高めるものとする。

■実施ルール

- ・通常の科目は2年に1回のペースでアンケートを実施する。
- ・新規開講授業科目はアンケートを実施する
- ・転換教育科目(基礎ゼミ、初年次ゼミ)は、しばらくの間、毎年実施する。
- ・隔年開講科目(総合科目)は開講の度に実施する。
- ・アンケートを希望する科目があれば、実施する。
- ・優秀授業の選出は年に1回とする。

■実施スケジュール

平成22年度	前期	教養科目(文化, 社会, 自然)				
		共通基礎科目(情報基礎、外国語、健・スポ)				
		転換教育科目(基礎ゼミナール)				
	後期	転換教育科目(初年次自由ゼミナール)				
		新規開講科目/アンケート実施希望科目				
		教養科目(総合)※隔年開講科目のみ				
平成23年度	前期	転換教育科目(基礎ゼミナール)				
		新規開講科目/アンケート実施希望科目				
	後期	教養科目(文化, 社会, 自然, 総合, 環境)				
		共通基礎科目(外国語、健・スポ)				
		転換教育科目(初年次自由ゼミナール)				
		アンケート実施希望科目				
平成24年度	前期	教養科目 (文化, 社会, 自然)				
		共通基礎科目(情報基礎、外国語、健・スポ)				
	転換教育科目(基礎ゼミナール)					
	後期	転換教育科目(初年次自由ゼミナール)				
		新規開講科目/アンケート実施希望科目				
		教養科目(総合)※隔年開講科目のみ				

平成23年度前期 全学共通教育授業公開実施報告

2011/6/16 大学教育総合センター

■実施日程

平成23年6月6日(月)~6月10日(金)

■参加者数(のべ人数)

	月	火	水	木	金	合計
モニター	1	1	1	1	0	4
一般	3	6	4	2	1	16

※受付通過人数

■授業公開を知ったきっかけ

・入学式で配布されたちらし 5人・岩手大学のHP 8人・その他(友人より) 1人

■授業を参観された方々からのご意見等

◎ 教養科目(人間と文化) 月1・2 [モニター]

行動心理学の学習理論についてでしたが、古い記憶を呼びおこされると共に、研究のビデオなど貴重なものを初めて拝見し、参考になりました。古典的条件づけは、日常生活での人間関係の円滑なコミュニケーションに役立てたいと思います。

- 教養科目(人間と文化) 月1・2
 おもしろかった。用語も説明がわかりやすかった。
- ◎ 教養科目(人間と自然) 月3・4 [モニター]

高校で物理をとっていなかったので、ケプラーやニュートンの法則について学習するよい機会が持てました。パワーポイントや板書、ビデオ等様々な方法で講義が進み、わかりやすいと思いました。

◎ 教養科目(人間と自然) 月3・4思っていたのと違い、物理的なアプローチだったので、ちょっと難しかったが興味はわいた。

◎ 教養科目(人間と自然) 月3・4

39年ぶりの大学講義。多くの事を忘れている事に気付かされました。ビデオを見ることにより、私でもある程度の理解を得ることができました。面白かった。

◎ 教養科目(人間と文化) 月3・4先生の説明がわかりやすかったので、資料がなくても理解できた。

◎ 教養科目(人間と文化) 月3・4

共通科目のレベルに合った授業をされていると感じました。(あらかじめ書きなおされた 文などを使用するなど)

- ◎ 共通基礎科目(外国語科目) 月7・8 表記と発音の変化が興味深かった。
- ◎ 教養科目(人間と文化) 月9・10楽しかった。神社仏閣の一つの面の見方が興味深かった。
- ◎ 教養科目(総合科目) 月9・10 [モニター]

盛岡市立図書館の館長さんのお話は概要の説明のところは、少々退屈(すみません)でしたが、小泉八雲のお話は大変興味深く、また絵本や八ミリの用意をしてわかりやすく伝えようとしてくださること(準備も含めて)が大変ありがたかったです。津波についてのタイムリーな事柄と故事から学ぶには図書が有効であることを再確認しました。

◎ 教養科目(人間と社会) 火1・2 [モニター]

1年生の時から出口を考えて「自分のキャリアについて」学ぶことは大変良いことだと 思います。今は大卒でも就職難といわれていますから、準備は大切です。いくつになって も今の自分を知ることは必要ですね過去を宝として、整理・充電していきたいと思います。

- ◎ 教養科目(人間と自然) 火1・2機械工学が医療分野で貢献しているのがすごい。
- ◎ 教養科目(人間と文化) 火3・4 [モニター]

「おろしや国酔夢譚」という日露合作の映画を視聴しながら留学生とのやりとりをきく ことができて面白かったです。少人数で教官が質問しながら理解を深める工夫があり、日 本人の私も知らないことばかりでした。

◎ 教養科目(人間と社会) 火3・4人が人に持つ印象のあいまいさ、不確かさがわかった。

◎ 教養科目(人間と文化) 火5・6

"山川菊栄さん"についての映像を上映するということを教えていただいたので参加しました。時間がたりないくらい充実した90分でした。

◎ 共通基礎科目(情報科目) 火5・6 [モニター]

「情報基礎」は、パソコンの Excel でしたが、教科書にそっての説明のあと、演習でしたので、大学生の自主性にまかされていて、一般の人には難しかったです。

◎ 教養科目(人間と文化) 水1・2 [モニター]

大学生の考えていることや悩んでいる事は、私が大学生だった頃と大差ない、と感じました。しかし、今は悩みを相談する所も増えているし、講義内容にもメンタルヘルスにかかわる内容が多くなっていると思う。それでも孤独を感じるというのは、大学生の特質であるうから、社会人になる前の自己充実のための貴重な時間であると感じられた。

◎ 共通基礎科目(外国語科目) 水3・4 [モニター]

初級なのにさすが大学生、脚本を考えて英文にして英語劇のように発表するというものでした。グループでメー交換などして、Home work で頑張ることが求められていて、うかうか遊んでいられないと感じました。先生はフレンドリーで楽しかったですし、学生たちも仲良く頑張っていました。

◎ 共通基礎科目(外国語科目) 水5・6

私事ですが、韓国語を習い始めて3年になります。娘が入学いたしましていい機会と思い参加させていただきました。先生が韓国の方なんですね。娘の授業は日本の方なのでどちらがいいのだろうと思いました。

◎ 共通基礎科目(外国語科目) 水5・6

優しくわかりやすい授業だと思いました。もう少し若ければ頑張って勉強をしてたくさん受けたい授業でした。ありがとうございました。

◎ 工学部専門教育科目 水5・6 [モニター]

工学部の授業は難しい!黒板のみで計算が多い。学生に質問することで、授業中良い緊 張感が保てていました。

◎ 教養科目(人間と社会) 木1・2 [モニター]

社会人として、もう一度憲法の内容を学習することは大切であると思う。日常生活のきまりごとや保障が何を根拠に想定されているかを再確認できた。教育の義務については自分の解釈のまちがいを正されたが、義務教育の定義のあいまいさは、現状の混乱を招くものであると感じた。

◎ 教養科目(人間と文化) 木3・4 [モニター]

芸術と定義されるものについて、どんな人の思想が根拠になっていたかがよくわかりました。論理的に理解することは大事であると思いました。これから芸術鑑賞をするときに思い出して役立ててみたいと思います。

◎ 教養科目(人間と社会) 木3・4

"行政への市民参加"についての授業で、身近な生活に関係のある内容で大変興味を持って聴講できました。また、私は理科系学科大学卒業で、一般教養科目の授業は久々には良かったと思いました。

■全般

- ◎ 公開することをもうすこし大きく宣伝すればいいと思った。
- ◎ 教室を探すのが大変でうろうろしていたら授業が始まってしまいました。[モニター]
- ◎ 参観される方が少なく残念に思います。
- ◎ ディスカッション形式、少人数形式(ゼミのような)の授業はコミュニケーションがとれて、楽しく面白いと思いました。
- ◎ 30年以上ぶりの大学のキャンパスの空間は非常にいいですね。岩手大学は緑が多く、 学生もおおらかのようで良い環境と思いました。機会があれば(特に時間があれば)これ からも授業聴講したいと思います。
- ◎ 初めて授業公開と授業モニターに参加したが、とてもよかったと思う。遠く離れた大学生の娘がどんな講義を受けて、どんなことを考えたり、感じたりしているのかを、親なりに想像し、理解していく助けになると感じる。このような開かれた大学への取り組みは大変有難い。機会があれば、自分の向上のためにも使ってみたいと思う。[モニター]
- ◎ 私の席の後ろに座っていた男子学生が教科書を貸してくれた。彼の思いやりがうれしく、良い学生だと思った。教育学部ということで、将来は教師になるのだろうか。良い先生になるだろうと想像できて、またそれがうれしく感じられた出来事だった。大学は授業を通して学生を育てる所であるから、このような学生が増えるように今後も頑張っていただきたいと思う。学内でのリサイクルへの取り組みや、障がいのある学生の優先席など、細かな配慮がとても良いと思います。ありがとうございました。[モニター]

平成23年度後期 全学共通教育授業公開実施報告

2011/11/14 大学教育総合センター

■実施日程

平成23年11月7日(月)~11月11日(金)

■参加者数(のべ人数)

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	0	1	0	0	1
一般	0	1	0	1	6	8

※受付通過人数

・在校生の家族 6人

■授業公開を知ったきっかけ

- ・入学式で配布されたちらし 2人
- ・岩手大学から送付された案内 4人

■ご参観された授業へのご感想等

◎ 教養科目(人間と自然) 月1・2

はじめての参観です。大学の講義には興味がありましたので。なかなかむずかしい所が 多々あり、なるほどと思う所等、少しだけですが生徒の様子が分かりました。私には、と てもよい授業でした。機会があれば、又受けて見たいと思います。(コースが沢山あるため 迷います)

◎ 共通基礎科目(英語以外の外国語) 金1・2

先生が情熱的で生徒がそれに引っ張られている感じがしたが、研究発表もよく調べてき ている様で感心しました。

◎ 共通基礎科目(英語) 金1・2

とても楽しかったです。学生たちも積極的に楽しそうに会話をしていて、こういう授業を継続していれば、英語(英会話)を抵抗なく受け入れて、将来職場など、身近な場所にいる外国の方々に英語で楽しく会話のできる人材になっていってもらえるだろうと希望を持てました。プリントまでいただき、どうもありがとうございました。

◎ 共通基礎科目(英語以外の外国語) 金1・2子どもの話を聞いているだけでなく、実際の大学での授業を見ることができ良かったです。授業もわかりやすそうでした。

■その他のご意見、ご感想等

- ◎ 今回、拝見させていただいた様な英会話の授業は、大学生時代に本当に必要だと思います。現在もそうですが、将来はますます日本の中においても外国の方々と様々な場面で(職場だけでなく)会話できなければならないでしょう。読めて、書けるだけでなく、自分の考えを自由に英語で抵抗なく話せるようになるために、このような授業をぜひとも、このまま存続させていってほしいと思いました。
- ◎ 教室に入っていいのか迷いました。発音などへの面から言うと、母国語の先生方の方が良いと思いますが、分かりやすく教えることは、日本人の先生もいいと思いました。ひととおり、廊下からは見学させていただきました。

平成 23 年度 ファカルティ・ディベロップメント 合宿研修会

実施報告

- 平成23年度テーマ -

地域の復興に貢献できる教育機関の在り方を考える







FD合宿研修会の開催にあたって

岩手大学学長 藤 井 克 己

岩手県内の国公私立5大学からなる『いわて高等教育コンソーシアム』の FD·SD 推進委員会と岩手大学教育総合センターとの共催による FD 合宿研修会に、今年も多くの先生方に参加申込みを頂き、有難うございます。

FD、すなわち Faculty Development ですが、岩手大学が単独で合宿研修を岩手山青少年交流の家で始めたのは、一昔以上前のことです。その実施は既に大学設置基準の一部改正により義務化されているにも関わらず、その実質化は広く進んでいないように思われます。これは FD 研修が、大学の教員集団(Faculty)から自覚的・内発的に生まれたものではないことによるようです。

アラ探しをするわけではありませんが、どうも Development という英語にも原因がありそうです。発達、発展、展開、開発などの訳語はあるものの、適語がなく、どうも腑に落ちない。だから FD の語が今も使われているのか・・と、半ば諦めながら辞書の項目をたどったとき、【写】現像という文字を見て、本来の意味がつかめたように思えました。

つまり、形の明らかでなかったものが次第に姿を現してくる、というイメージなのでしょう。教育学がな 世発達科学なのかという疑問も、これで氷解しました。さてこの Development、自分の心の中にある見え ないものが、外部からの知的刺激を受けるとき、我がこととして応答しないかぎり具現化しません。講話を 聞き流したり単に知識を増やすという姿勢では、真の Development は得られないことでしょう。『何でも知っている馬鹿もいる』(内田百閒)の警句を改めて心に刻む必要がありそうです。

今年の FD 研修のテーマは「地域リーダー育成プログラムを具体的に考える」です。前・葛巻町長の中村哲雄氏の基調講演「組織を率いるリーダーの役割」も予定されています。2日間の研修を通じて、教員の皆さんが学部や専門の壁を越えて意見交換し、互いに触発・啓発され、研修の実をあげられることを期待するものです。

FD合宿研修会スケジュール

□1日目 (25日)

10:20~開会・オリエンテーション11:10~12:00報告「地域リーダー像について」

12:00~13:00 昼食·休憩 13:00~14:20 基調講演

「地域を率いるリーダーの役割」

14:30~16:00 プログラム I 16:10~18:10 プログラム I 20:20~20:50 ナイト・セッション

21:00~ 情報交換会

□2日目 (26日)

9:00~11:20 プログラムII 11:20~11:50 研修会総括 11:50 閉会

報告

「地域リーダー像について」

プログラムの最初に、いわて未来作り機構「地域力を支える人材育成」作業部会座長の後藤尚人先生より、作業部会で検討された「いわて高等教育コンソーシアム『地域リーダー育成プログラム』に係るリーダー像について (提言)」の説明がありました。この中では、地域社会を牽引していくリーダー像、及び、そのリーダーに求め

られる能力と資質について、10 項目にわたって提言がなされています。また、これらのリーダーを育てるための『地域リーダー育成プログラム』についての説明も行われました。今回の研修では、この『地域リーダー育成プログラム』について、各班で議論し、プログラムを構築します。



基調講演

「地域を率いるリーダーの役割」

昼食後の基調講演では、前・葛巻町長の中村哲雄さんから、「地域を率いるリーダーの役割」というタイトルでお話をいただきました。「北緯 40 度ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」として知られる葛巻町長時代の具体的な取り組みの数々をご紹介いただき、中村さんの考える「リーダーは○○が必要」の○○を挙げていただきました。具体的には、「独創的な生き方」「大量の情報」「具体的な実績」「独走的発想」「覚悟」「身を削るよ



うな苦労と絶望」「実績、成果」などです。このような覚悟の元、電車、高速道路、ゴルフ場、スキー場、温泉といった資源をもたない町で、公共牧場の事業から、クリーンエネルギー、くずまきワインといった実践を通して、世界に注目される町作りを牽引してきたわけです。また、組織を率いるリーダーとして、人材の育成こそが重要であることを強調され、「リーダーは後継者を育ててこそ」というお話もいただきまし

プログラムI

「『地域リーダー育成プログラム』の骨格を考える」

今回の研修では、参加者は7つのグループに分かれ、それぞれグループで活動を行いました。プログラムIでは、今回構築する『地域リーダー育成プログラム』の骨格を、KJ法を用いて発想する活動を行いました。プログラムを構成する具体的な科目等をカードに書き出し、それをどのように組み合わせて学生に履修させるのかについて、模造紙上に並べながら検討しました。

このグループ活動後、各班毎に、模造紙を手に発表を行い、各班がそれぞれの参加者の持ち

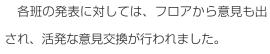
味を活かした授 業科目名やその 構成のアイデア について説明を 行いました。





「『地域リーダー育成プログラム』の中心となる授業科目を設計する」

プログラム II では、『地域リーダー育成プログラム』の中で、中心となる授業科目について、具体的に設計する活動を行いました。発表では、「問題解決実習」、「地域産業実習」、「コミュニケーション学」、「リーダー論」、「地域リーダー実習総論」、「地域リーダー論」、「地域交流論」などの授業科目のアイデアが出されました。





プログラムⅢ

「『地域リーダー育成プログラム』を構築する」

プログラムⅢでは、『地域リーダー育成プログラム』の完成度を高めていく活動を行いました。プログラムⅡで 提案された科目を中心に、各グループからは、地域リーダーを育成するために必要な様々な科目からなる魅了的



ナイト・セッション

ナイト・セッションでは、大学教育総合センターが取り組んでいる「匠の技」伝承プロジェクトにて作成した映像コンテンツについて視聴しました。コンテンツの授業が必ずしもお手本となるべき「いい授業」というわけではありませんが、「教育」について考えるための「きっかけ」を提供することができます。

いわて高等教育コンソーシアム学長宣言

岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で!

3月11日に発生したマグニチュード9という大地震とその後の大津波により、岩手県では4500人を超える方が亡くなられ、また2千人以上の方が依然として行方不明となっています。私たちは、いわて高等教育コンソーシアムを構成する5つの大学を代表して、この地震と津波で亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

いわて高等教育コンソーシアムは、①大学進学率の向上、②地域社会への貢献、③地域の中核を担う人材育成、の3つを設立目的として、Web を活用した教育基盤の整備や5大学の共通科目「いわて学」の開講、学生による地域課題解決プロジェクトの推進などに取り組んできました。いま、震災からの復興という課題を前に、私たちは改めてコンソーシアムが3つの設立目的に即して力を尽くしていかねばならないと決意を新たにしています。何よりも被災により大学進学を断念する高校生が出ないように沿岸地域の高校と連携して取り組みます。また、被災地の復興に対しては、学生ボランティアの派遣や専門家による調査研究、提言の活動など、高等教育機関としての役割を積極的に担って行きます。さらに長期間にわたる復興を担う人材を育成する教育プログラムの開発に連携して取り組みます。

いわて高等教育コンソーシアムは、分野の異なる学部をもつ5大学が自らの特徴を最大限に生かしつつ、連携の力で「地域の知の拠点」を目指すものです。その意味で、今回の震災は、まさにコンソーシアムの真価を問うものとして、私たちはそれぞれの特徴を生かしながら連携の力で復興を担う人材育成を推進していきます。

平成23年6月15日

 岩手大学長
 藤 井 克 己

 岩手県立大学長
 中 村 慶 久

 岩手医科大学長
 小 川 彰

 富士大学長
 藤 原 隆 男

 盛岡大学長
 望 月 善 次

いわて高等教育コンソーシアムにおける地域復興を担う中核的人材育成プラン

事 業 例

I. 大学進学事業

- 1. テレビ会議システムを活用した沿岸地域の高校生への進学案内
- 2. 大学生ボランティアによる沿岸地域の高校生への学習指導

Ⅱ. 中核的人材育成事業

- 1. 震災復興の視点を取り入れた「いわて学」(地域人材育成)の展開
- 2. 地域課題解決プロジェクトのテーマを「震災復興」として公募
- 3. ボランティア論・リーダー論等の授業開発
- 4. 被災地の自治体職員、教員の経験を共有するワークショップの開発
- 5. 被災地の学校で高校生・大学生がともに学ぶワークショップの開発
- 6. コーディネート力を備えた人材育成のプログラムを3年間で開発

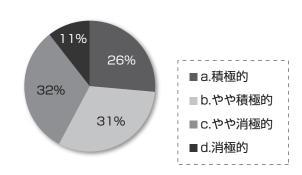
Ⅲ. 地域貢献事業

- 1. 専門家の派遣による調査研究
- 2. 調査研究に基づく提言

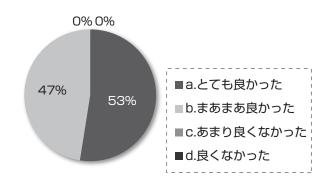
参加者アンケート集計結果

(アンケート回収枚数:19枚)

○今回の研修会について、どのような意識で 参加されましたか?

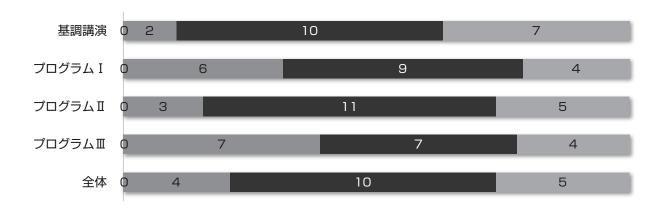


○結果的に、今回の研修会に参加して良かったと 思いますか?



○今回の研修会の各プログラムについて、5段階で評価し、○で囲んでください。

(低) ■1 ■2 ■3 ■4 ■5 (高)



参加者からの 感想 (一部抜粋)

- ○とても疲れましたが、とても面白い内容でした。どうもありがとうございました。
- ○様々な分野の方々と交流できて良かった。
- ○来年から無線LAN環境を使えるようにしてはどうでしょう? Twitter や FB などで実況、オンラインの議論、意見交換、Q&Aなどができるような仕組みをためしてみるのも面白いのではないでしょうか。
- ○グループ内での討論、設定についても、有意義かつ頭の訓練になりました、プログラム I については、動機付けについてもっと説明して欲しかったと思いました。その結果が、プログラム II 、II を考え、発展させる上で有効だったかなと感じました。
- ○個人的に、いろいろ考えたい時期に、いい刺激をもらいました。ありがとうございました。

平成 23 年度 ファカルティ・ディベロップメント 合宿研修会

実施報告

1. 目的

いわて高等教育コンソーシアムとして、教育の質の充実を図るために、大学の理念や目標、教育課程のあり方、教育の内容や方法について教員の共通理解を深めるとともに、日頃接点の少ない他大学の教員相互の意思疎通を図ること、そして、教員自身の「教育者」としての責任を相互に確認することを目的とした教員研修会を実施する。

今年度は、平成23年3月11日に起きた震災を受けてコンソーシアム構成大学の学長が出した「いわて高等教育コンソーシアム学長宣言」に従って、「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域復興を担う中核的人材育成プラン」を考える機会とする。

2. 内容

テーマ: 地域の復興に貢献できる教育機関の在り方を考える

基調講演 「組織を率いるリーダーの役割」

中村牧場·中村家畜診療所(前·葛巻町長) 中村哲雄氏

報 告 「地域リーダー像について」

いわて未来作り機構 後藤 尚人

プログラム [「『地域リーダー育成プログラム』の骨格を考える」

プログラムⅡ「『地域リーダー育成プログラム』の中心となる授業科目を設計する」

プログラムⅢ「『地域リーダー育成プログラム』を構築する」

3. 日時

平成23年8月25日(木)·26日(金)

4. 参加者

○教員

岩手大学 24名 岩手医科大学 2名 富士大学 2名 盛岡大学 2名 ○スタッフ

岩手大学7名 盛岡大学 1名

5. 場所

八幡平ハイツ 〒 028-7302 岩手県八幡平市八幡平温泉郷

6. 主催

岩手大学大学教育総合センター 教育改善部門 いわて高等教育コンソーシアム FDプロジェクト委員会

平成23年度FD合宿研修会実施報告書

発行日: 平成24年3月26日

発 行:国立大学法人岩手大学大学教育総合センター

岩手大学FDガイドライン(案)

2012/02/06

大学教育総合センター 教育改善部門

岩手大学は、平成19年度の大学院設置基準の改定及び平成20年度の大学設置基準の改定により「教育内容等の改善のための組織的研修等」が義務化されたことを受け、平成20年度からFDプランに基づいて、組織的に研修等を行ってきた。このプランをさらに実行性のあるものにするために、平成22年度に検証を行い、その結果に基づいて平成23年度に新しいFDガイドラインを作成した。平成24年度からは、FDガイドラインに基づき、FDを推進することとする。

1. FDの目的

1.1. FDの目的

岩手大学のFD (Faculty Development) は、以下を目指すものとする。

- ① 学生に対してより良い教育を提供するために、以下のことに取り組む。
 - a. 個別の授業における授業計画や内容、方法等を改善する。
 - b. 学生に提供する教育課程の開発、実施、検証、改善等を行う。
 - c. 入試から学生支援、キャリア支援等の学生の正課外教育を含め、学生に接する教員 として必要な資質を向上させる。
- ② 個々の教員が、より効果・効率的に教育を実施できるよう、教育能力の向上を図る。
- ③ 上記が円滑に実施できるよう、個々の教員及び組織に対する支援体制を整える。
- ④ 上記が円滑に実施できるよう、組織的な研究や研修を行える環境を整える。

2. FDの実施組織と責任体制

岩手大学のFDは、教育担当の理事のもと、大学教育総合センター、全学共通教育分科会、 学部及び研究科、全教員が、お互いに協力して実施するものとする。

2.1. 理事

① 教育担当の理事は、岩手大学におけるFDの責任者であり、大学教育総合センター長として、大学全体のFDを統括する。

2.2. 大学教育総合センター

- ① 大学教育総合センターは、主に教育改善部門がFDに関することを担当し、全学におけるFDを担当する。
- ② 全学におけるFDは、全学の教員を対象とする。
- ③ 全学共通教育部門は各分科会と連携し、全学共通教育におけるFDを担当する。
- ④ 全学共通教育におけるFDは、全学共通教育の担当者を対象とする。

2.3. 全学共通教育分科会

① 分科会は、大学教育総合センター全学共通教育部門と連携し、分科会毎にFD担当責

任者を定め、分科会におけるFDを担当する。

② 分科会におけるFDは、全学共通教育の担当者を対象とする。

2.4. 学部 • 研究科

- ① 学部・研究科は、FDを担う委員会を整備し、当該委員会が学部・研究科におけるFDを担当する。
- ② 学部・研究科におけるFDは、学部・研究科が開講する専門教育科目の担当者を対象 とする。

2.5. 教員

① 個々の教員は、担当する授業科目、教育活動等において、自らのFDを推進する。

3. FDの内容

各実施組織は、FDとして下記の内容を実施することとする。

- 3.1. 全学におけるFD:大学教育総合センター
 - ① 大学教育総合センターは、全学の教員を対象とした研修会等を行う。

例:FD含宿研修会、学習会

② 大学教育総合センターは、FDに必要な教育情報を、分科会、学部・研究科、教員へ 提供する。

例:成績評価比率データ、授業アンケート集計データ

③ 大学教育総合センターは、事務局と調整して、全学の新規採用教員に対して教員研修 等を行う。

例:新規採用教員研修

- ④ 大学教育総合センターは、FDに関する相談等に応じる。
- ⑤ 大学教育総合センターは、全学規模での教育支援体制の整備・改善に努める。

例:アイアシスタント(教育支援システム)、学務情報システムの改善等

⑥ 大学教育総合センターは、他大学で行われているFD関連事業の情報提供を行い、全学の教員の参加を支援する。

例:外部研修受講制度

- ⑦ 大学教育総合センターは、他機関と共同して、FD関連事業に取り組む。
- ⑧ 大学教育総合センターは、その他、必要なFDに取り組む。

3.2. 全学共通教育におけるFD:大学教育総合センター&分科会

- ① 分科会は、大学教育総合センター(全学共通教育部門)と連携し、各分科会の教育目的や学生に修得させるべき能力等について組織的に策定し、構成員に周知する他、必用に応じて検証・改善を行う。
- ② 分科会は、大学教育総合センター(全学共通教育部門)と連携し、全学共通教育の教育目的の実現に向けて、開講科目の整備、授業内容や方法の改善、成績評価の検証を行う。
- ③ 大学教育総合センター(教育改善部門)は、全学共通教育科目について、学生による 授業アンケートを実施する。

- ④ 大学教育総合センター(教育改善部門)は、授業アンケートの結果を集計して各授業 担当者に返却する他、優秀授業科目を選定し表彰する。
- ⑤ 大学教育総合センター(教育改善部門)は、学期毎に授業公開週間を設定し、教員、 保護者、一般市民への授業参観を促す。
- ⑥ 分科会は、必要に応じてFD研修、FD講演会等を行う。
- ⑦ 大学教育総合センター(全学共通教育部門)は、分科会のFD活動を支援する。
- ⑧ 分科会は、その他、必要なFDに取り組む。

3.3. 学部・研究科におけるFD:学部・研究科

- ① 学部・研究科は、教育課程実施単位(専攻、学科、課程、コース等)で、教育目的や 学生に修得させるべき能力、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受 入の方針等を組織的に策定し、構成員に周知する他、必要に応じて検証・改善を行う。
- ② 学部・研究科は、教育課程実施単位(専攻、学科、課程、コース等)で、教育目的の実現に向けて、開講科目の整備、授業内容や方法の改善、成績評価の検証を行う。
- ③ 学部・研究科は、開講している授業科目について、学生による授業アンケートを実施する。
- ④ 学部・研究科は、必要に応じてFD研修、FD講演会等を行う。
- ⑤ 学部・研究科は、その他、必要なFDに取り組む。

3.4. 教員のFD

- ① 教員は、各自の担当科目等について、授業内容や方法の改善、成績評価の検証等を行う。
- ② 教員は、大学教育総合センターが提供するFD等に参画し、教育力の向上に努める。 例:FD合宿研修会
- ③ 教員は、所属する分科会、学部・研究科が提供するFD等に参画し、教育力の向上に 努めるとともに、組織的な教育の実施に尽力する。
 - 例: FD講演会、教育課程の開発・検証、成績評価の検証等
- ④ 教員は、大学教育総合センター及び学部・研究科が実施する授業アンケートに協力し、 結果を分析して、授業内容や方法等の改善に努める。
- ⑤ 教員は、担当科目についてシラバスを作成し、授業に関する記録等を蓄積して、自身 の授業改善記録を作成する。
- ⑥ 教員は、その他、必要なFDに取り組む。

4. FD報告書

上述のFDについて、自らの活動を自己評価し、報告書を作成する。

4.1. 大学教育総合センター

- ① 大学教育総合センターは、担当する全学及び全学共通教育のFDについて報告書を作成する。
- ② 大学教育総合センターは、分科会、学部・研究科からのFD報告書の提出を受け、岩

手大学のFD報告書としてまとめる。

4.2. 分科会

① 分科会で行ったFDについて、報告書を作成し、大学教育総合センターへ提出する。 報告内容等は別紙参照のこと。

4.3. 学部 • 研究科

① 学部・研究科で行った専門教育でのFDについて、報告書を作成し、大学教育総合センターへ提出する。報告内容等は別紙参照のこと。

4.4. 教員

① 教員は、自身のFDに関する記録を作成し、認証評価やその他の外部評価等の際に必要があれば提出できるようにする。

平成23年度入学前教育実施及び小委員会の設置について

大学教育総合センター

■経緯

- ・平成18年度:大学教育総合センターによる、入学前教育の試行的取組。(「第8回大学教育総合センター運営委員会(平成18年11月1日)」にて承認)
- ・平成18年度教育研究支援施設経費による「プレ・アイアシスタント」の構築等、入学前教育実施のための準備を行う。
- ・平成19年度:入学前教育実施小委員会を設置し、全学体制にて本格的に実施。(「第6回大学教育総合センター運営委員会(平成19年10月4日)」にて承認)
- ・平成20年度:入学前教育実施小委員会を設置し、全学体制にて本格的に実施。(「第7回大学教育総合センター運営委員会(平成20年11月5日)」にて承認)

■入学前教育の目的

○学生の大学教育への円滑な移行を支援する。

大学審議会答申「大学入試の改善について」(平成12年11月)

- →「合格者に対して入学前から学習指導等を行うことも望まれる」
- ○合格から入学までの期間が長いことによる「学習意欲」の低下を防ぐ。
 - ※「不足している学力を補う」といった目的も考えられるが、「不足している学力」については、各学部で異なることが考えられるため、全学体制で行う入学前教育は、主に「学習意欲の維持・向上」の目的達成のために行うものとする。

■体制・スケジュール等

- 〇運営委員会の下に、入学前教育実施小委員会を設置する(「第6回大学教育総合センター運営委員会(平成19年10月4日)資料8」)。各学部1名ずつの委員を選出する。
- 〇入学前教育実施小委員会には,大学教育総合センターより,委員長と委員を1名ずつ選出する。
- 〇小委員会が扱う入学前教育実施の内容は、推薦・AO入試合格者を対象とした「読書レポートの作成」とする。ただし、各学部で実施する取り組みに対してはできる限り支援する。また、センターとして「e-Learning を活用した教科学習」に実験的に取り組む。
- 〇AO入試合格者のみを対象とした入学前教育については、小委員会では扱わない。
- 〇平成23年度:スケジュール(案)

6月 運営委員会:入学前教育の実施・小委員会設置の確認と委員選出依頼

(6月末まで:学務課木村さんまで)

7月 入学前教育実施小委員会:業務内容・スケジュールの確認等

11月 入学前教育実施小委員会:課題図書の選定等

12月下旬 入学前教育対象者への課題の発送,高校長への文書発送

2月中旬 読書レポート提出〆切:委員への読書レポートの分配

3月上旬 コメント作成〆切

3月中旬 対象者へのコメントの返送・希望者のみ再提出受付

5月中旬 入学前教育実施小委員会:実施状況についてのまとめ

「読書レポート」の作成と提出について

岩手大学大学教育総合センター

1. 「読書レポート」の目的

この「読書レポート」の作成は、図書を1つの情報資料として読み込み、そこから適切な情報を取り出して、簡潔でわかりやすい文章としてまとめることを通して、本を読むことで「自分の考えを深める」ことのできる力を養うことを目的としています。この力を養うためには、問題関心を深めていくことが重要です。問題関心が深まることによって情報が持っている意味や重要性が的確に捉えられるようになります。

2. 「読書レポート」の作成の仕方

- (1)課題図書の中から1冊を選び、下記の手順に従って、レポートをまとめます。
- (2) 第1章には、その課題図書を選んだ理由を200字程度にまとめます。
- (3)第2章には、本の各章ごとの要約文を作ります.以下の手順でまとめてみましょう。 (全体で2,000字程度になるようにまとめます)
 - ①本の各章ごとに、キーワードを3つ以内で選びます。
 - ②そのキーワードを基に、その章の内容を要約します。

【アドバイス1】選んだ課題図書によって「章」と明記されていないものもありますが、目次を見て、「最も大きなくくり」を「章」としてとらえてみてください。また、「小説」のように「大きなくくり」が明確でないものは、内容の区切りの良いところで「章」を区切ってください。

【アドバイス2】第2章は、選んだ本の「章」に相当する複数の「節」から構成されます。レポートの構成を意識して、見た目にもわかりやすく書いてください。

(例) 第1章 「OO××」を選んだ理由 · · · · 本文 第2章 1. 序章 ウェブ社会 キーワード:チープ革命、ネット社会、リアル社会 · · · 本文 2. 第1章 「革命」であることの真の意味 キーワード:オープンソース、三大潮流、シリコンバレー · · · 本文 第3章 · · · · · 本文 第4章 · · · · · 本文 第5章 · · · · 本文

- (4) 第3章では、その本の内容全体から得られた知識や考え方を総括的にまとめます(4 00字程度)。ここはあくまでも「本の内容」に沿ってまとめてください。
- (5) 第4章では、著者の主張(本の中で繰り返し書かれている著者の考え方)に対する自分の考えをまとめます(400字程度)。ここは、「自分の考え」を書いてください。
- (6) 最後の章では、次に読んでみたい本の題名や分野を挙げ、その理由をまとめます(2 00字程度)。理由を書くときには、今回読んだ本との関係を示すのがポイントです。

3. 「読書レポート」作成上のアドバイス

- (1) レポートは、A4版のレポート用紙を使って作成します。原稿用紙でもかまいませんが、枚数が増えてしまいますので、「自分で判断して」選んでください。
- (2) レポートには、「選んだ図書名」「レポートのタイトル」「入学予定学部」「受験番号」 「名前」を明記した表紙をつけてください。
- (3) レポートの最初には、「レポートのタイトル」「受験番号」「名前」を明記してください。本文は、章分けをし、小見出しを付け、適宜段落分けをして、丁寧な字で読みやすく作成してください。
- (4)電子ファイルで作成する場合は、ワープロソフト(ワード、もしくは、一太郎)で作成してください。同じように、(2)の表紙をつけ、(3)の小見出し等をつけて読みやすいレポートを作成してください。
- (5) レポートの各項目について、文字数の目安が指定されています。それよりも極端に長く/短くならないように注意してまとめてください。目安として、2割以内と言われています(1000字の場合は800~1200字の範囲内)。
- (6)上記レポートをまとめるにあたって、「批判的に本を読む」ことを意識してください。 本に書かれていることは常に正しいとは限りません。具体的には、以下の手順で考え てみましょう。
 - ①書いてあることの中で、どれが情報の提示で、どこが著者の意見なのかを区別してみましょう。
 - ②提示されている情報(事実)が確かかどうか、確かめる方法を考えます。本やインターネット等を利用して実際に確かめてみましょう。
 - ③著者の考えが踏まえられた事実(根拠)と矛盾していないか、考えてみましょう。
- (7) 1冊の本について「読書レポート」を作成し、提出したら、他の本にも挑戦してみましょう。期限内に提出されたレポートは、何冊分でも受け取ります。
- (8) プレ・アイアシスタント(別紙参照)にアクセスすると、レポート作成のアドバイス等が参照できます。機会があれば、アクセスしてみましょう。

4. 提出期限と提出方法

以下の2つの方法より、都合のよい方を選択して提出してください。提出方法によって提出 締め切り日が変わりますが、扱いが変わることはありません。

■方法1:プレ・アイアシスタント(別紙参照)を利用して提出

岩手大学が用意した入学前の生徒専用のe-Learningサイト(http://pre-ia.iwate-u.a c.jp/)にアクセスして、ワープロソフト(Word、一太郎等)を用いて作成したレポートを提出してください。この「プレ・アイアシスタント」には、岩手大学の教員によるレポート作成に関するアドバイスや図書の紹介などが随時掲載されていきます。ぜひ、積極的にアクセスし、読書レポートの作成に役立ててください。

提出期限:平成24年2月14日(火) 23:00

■方法2:郵送で提出

郵送で提出する場合には、レポートを下記の宛先まで送ってください。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 大学教育総合センター

※「読書レポート在中」と封筒の表面に赤字で記入すること。

提出期限:平成24年2月10日(金) (消印有効)

入学前教育課題図書一覧

2011/12/26 大学教育総合センター

杉山 茂(著) 『スポーツは誰のためのものか』 (慶應義塾大学出版会)

筆者は、はじめにで、日本ではあまり「スポーツ」というもの自体が理解されていない現状にも気づ かされる、と問題提起し、自己陶酔的にスポーツの枠内で動くだけでほかの社会とのコミュニケーションを図ろうとしなかったと述べている。本書では、第1章で日本のスポーツ観について検討し、これを踏まえながら他の社会として教育の現場、企業、地域社会、マスコミを取り上げている。各章で「スポーツは誰のためのものか」について示唆に富む一文を挙げ、読者に思慮をうながしている。(人文社会科学 部教員)

『タテ社会の人間関係- 単一社会の理論』(講談社現代新書) 中根千枝 (著) 【内容紹介】

「日本論」の不朽の名著。出版から半世紀近く、現代の日本は欧米化が進んだといわれるが、今読ん でも全く古くは感じられない。それは「単一性」という社会の特徴が根本的なところではあまり変化していないからだろう。先輩・後輩関係、場による集団帰属意識(「ウチ」)、「ヨソ」との関わり方から政 治家・学者らの非論理的・感情的発言まで、様々な問題が幅広く取り上げられており、現代日本社会に 興味のある人には必読の教養書といえる。(人文社会科学部教員)

『社会とは何か ーシステムからプロセスへー』(中公新書) 竹沢尚一郎 (著) 【内容紹介】

本書は、「社会」の概念が歴史上どのように生み出され、そして現代の諸問題に対処するためにどのように捉え直されるべきか、という関心をテーマとしている。この関心の展開において、ヨーロッパの啓 蒙思想家が描いた「社会」観、および「社会」を分析対象とする社会科学の近代ヨーロッパにおける発 達過程が跡づけられ、それを前提に、社会的弱者の排除という基本的な社会問題と「社会」の概念との関係につき論じられる。したがって、社会的弱者排除の原因について考える契機となるとともに、経済学、社会学、法律学等々から成る社会科学の基本的性質について知ることのできる一書といえよう。(人 文社会科学部教員)

『100年の難問はなぜ解けたのか― 天才数学者の光と影』(新潮文庫)春日真人(著)

ミレニアム懸賞問題であった「ポアンカレ予想」が解決された。しかし、解決したロシア人数学者は 数学におけるノーベル賞と言われるフィールズ賞の受賞を拒否し、社会との関わりをも断ってしまう。 -体彼に何が起こったのか?本書は数学の非専門家である著者が世紀の難問「ポアンカレ予想」の解決 に至る過程を、長年に渡る幾多の数学者たちの挑戦の軌跡を辿るように、丁寧な取材をもとに綴ったノ ンフィクションである。(人文社会科学部教員)

『思考の整理学』(ちくま文庫) 外山滋比古 (著)

【内容紹介】

とても多くの大学生や大学関係者に読まれ続けている本です。小さな文庫本ですが、その内容は深い と思います。皆さんが高校で勉強していることと、大学で身に付けることがどのように違うのかを教えてくれるものです。大学では知識の幅をより広げて深めることができますが、このようなこととは質の 異なる「研究」の意味について知ることができると思います。(教育学部教員)

『新編 教えるということ』(ちくま学芸文庫) 大村はま(著)

【内容紹介】

日本を代表する国語教師、大村はまが50年に及ぶ教師生活、そして退職後も精力的に教育に携わって きた中で、教師の仕事「教える」とは何かを問いかけた図書です。表題作「教えるということ」の他、「教師の仕事」「教室に魅力を」などが収録されています。教師という職業に限らず、責任ある職業人のあり 方を考えさせてくれる名著です。(教育学部教員)

『遠野物語へようこそ』(ちくまプリマー新書) 三浦佑之、赤坂憲雄 (著) 【内容紹介】

2010年に刊行100年を迎えた『遠野物語』。私たちの日常と異界の接点を考えさせるこの図書の成立 背景、代表的なエピソードなどの平易な解説から説き明かす入門書です。歴史学、社会学、民俗学等々 の学問の入門書としても読めますし、『遠野物語』の物語としての面白さの案内書としても最適です。岩 手に学ぶみなさんが、岩手の魅力を新たに発見できる好著です。(教育学部教員)

『『量子論』を楽しむ本』(PHP文庫) 佐藤勝彦 (監修)

現代文明は科学技術の進展とともに発展してきたが、20世紀の科学の大きな発見は量子力学である。この量子力学はミクロな世界を記述してくれているが、我々が日常的に体験してきた常識や感覚とはか け離れており、理解することは簡単ではない。しかし、この本は難解な数学を一切使うことなく通快な 表現で量子力学の不可思議にもみえる本質を見事に解説してくれている。自然の深遠さを知り、引き込 まれていくことだろう。(工学部教員)

『二重らせん』 (講談社文庫) ジェームス・D・ワトソン (著)、 中村 桂子、 江上 不二夫 (訳)

私たちの体内には遺伝をつかさどる核酸(ポリエステル)が存在する。核酸の研究は、化学と生命科 学者の中で、もっとも興奮をよぶ物質であることは間違いない。単純な炭化水素化合物が遺伝という信 じられないような機能を発現するからである。ワトソン博士とクリック博士はポーリングの仮説に従い、 核酸の二次構造解明に関する研究を行い、最終的に、それが二重らせん構造であることを突き止めた。 科学者は重いベールで包まれた自然の真の姿を覗き見することができる。科学者とは何か、研究とは何 か、大学生が読むにふさわしい本である。(工学部教員)

『ゾウの時間ネズミの時間-サイズの生物学』(中公新書) 本川達雄(著) 【内容紹介】

動物が変われば時間が変わる。私たちにとっては絶対不変だと思われる時間が、それぞれの動物にと って違っているようだ。動物のサイズが違うと機敏さや寿命が違い、総じて時間の流れる速さが違って くる。ところが一生の間に心臓が打つ総数や体重あたりの総エネルギー使用量は、サイズによらず一定 である。エネルギー量は物理学的に仕事量であるから、動物にとってはエネルギーを使って仕事をする ことで意味のある時間が生まれる。だとすると、機械にたよって生きている現代人の時間は、イキモノ として意味のあるものだろうか?本書は、人類の将来についても貴重なヒントを提供している。(工学部 教員)

『科学者という仕事 - 独創性はどのように生まれるか』(中公新書) 酒井邦嘉 (著) 【内容紹介】

大学に進学しても、研究を職業とする人はごく少数の限られた人だと思います。しかし本書は、研究 のプロになりたいと思う人はもちろん、そうでなくても社会で充実した人生を送りたい人にとって、独 創性がいかに重要かについて大学で学ぶための重要な提言を論理的に述べています。感情のみが支配す る社会ではなく、論理性が今後は益々重要視されると思いますので、文系、理系を問わず必読の1冊と思 います。(農学部教員)

『生き方 - 人間として一番大切なこと』(サンマーク出版) 稲盛和夫 (著) 【内容紹介】

時代は変わっても変わらないものがあり、経済発展や競争社会、弱者・強者などと言った表層的な環 境に惑わされない、人間として生きる意味をわかりやすく説いています。京セラの設立者でもある著者 は、人格二「性格+哲学」と述べており、この混迷の時代を一人一人が充実した実りの多い、幸福な人 生を送るための指針になると思います。人間形成と勉学は車の両輪であり、大学で学ぶ意義はそこにあ ります。(農学部教員)

『竹中式 マトリクス勉強法』(幻冬舎文庫) 竹中平蔵(著) 【内容紹介】

受験勉強という天井のある勉強、受身の勉強法から、自分を高めるための能動的な勉強法とへと切り 替えていくこと(パラダイムシフト)が大学で学ぶことの重要な一つだと思います。特に理系では、研 究室配属が重要な意味を持ち、社会で必要とされる能動的な行動パターンを身に付ける最後のチャンス であると考えます。大学の教員から政治家(大臣)を経験した筆者は、勉強というものの社会における 真の意味での重要性を、わかりやすく述べています。(農学部教員)

『国家の品格』(新潮新書) 藤原正彦(著)

【内容紹介】

現代の社会で、当たり前のように正しいとされている「論理」と「合理性」に疑問符を投げかけ、かつての日本人の特徴であった「情緒と形」「武士道精神」を尊ぶことを提言した書。作者の藤原 氏は「論理」を何より重んじる数学者であるところが興味深い点です。作者は「論理」、「合理性」、 「自由」、「平等」、「民主主義」等々、現代の先進国社会で「正しい」とされていることに疑問符を 投げかけています。さて、これからの日本人に必要なものはなんでしょうか?この本を読んで、「当 たり前」に疑問を抱きながら、考えてみてください。 (高畑副学長)

『ボローニャ紀行』(文春文庫) 井上ひさし(著)

【内容紹介】

文化による都市再生のモデルとして世界に知られるイタリアの小都市ボローニャ。この街を訪れ た著者による紀行文です。本書の中にもでてきますが、世界で最初にできた大学が「ボローニャ大 学」です。ボローニャでは、「ボローニャ方式」と言われる方式で様々な工夫を凝らしながら街を作り上げていますが、そこには、ボローニャ大学の学生さんも大活躍しています。この本を読みな がら、大学生時代に勉強に加えて何をしたいか、考えてみましょう。(高畑副学長)

※各書籍紹介末尾の()には各図書を推薦した教員の専任担当学部等が書かれています。これらの情報も参考に、みなさんは、 進学予定学部にかかわらず、自由に「読みたい」と思った本を選んでください。

入学前教育用

e-Learning教材紹介

大学教育総合センター

岩手大学の入学前教育では、読書レポートの他に数学と英語のe-Learning教材を用意しました。これらの教材は、受験のためではなく、入学後の大学での学びに必要となる内容で構成しました。環境が整えば、ぜひ、挑戦してみてください。もちろん、手持ちの参考書等で学習を進めていただいてもかまいません。大学に入学したら勉強が終わるわけではないので、入学後に備えて、学習を続けるように心がけてください。

これらのe-Learning教材へは、岩手大学の入学前教育専用サイト「プレ・アイアシスタント」の左側のメニュー「教科学習」の各項目からアクセスすることができます。ID、パスワードは、「プレ・アイアシスタント」と同じです。

■もう一度数学

♦特徵

高校数学で学ぶ単元から、大学各分野で要求される計算力を養うために作成された、完全自習用教材です。学生が「理解できる」「計算できる」を主眼において作られているため、定理や公式の証明が丁寧に説明されています。また、例題やイラストを用いて、わかりやすく解説してあります。また「問題集」がついていますので、自身の学習の成果を確認しながら進めることができます。(平成24年1月4日より使えるようになります。)

◇内容

- ・数と数列(1)、(2)
- ・関数と2次曲線
- ・三角比と三角関数
- 指数関数 対数関数
- 微分入門(1)、(2)
- 積分入門(1)、(2)
- ・ベクトル入門(1)、(2)、(3)
- 複素数と複素数平面(1)、(2)

※金沢電子出版が提供する「もう一度数学」の教材を使っています。 ※工学部の入学予定生徒は、必ず、この数学教材に取り組んでください。

■English Preparatory Course

◇特徴

高校英語の範囲を押さえながら、受験のための英語ではなく、大学で学問を修めるために必要な英語の基礎力を鍛えます。(平成24年1月15日より使えるようになります。)

◇内容

次の3つのパートに分かれています。各配信時期にあわせて、アクセスしてください。時期を すぎるとアクセスできなくなりますので、ご注意ください。

◎テストシリーズ1

1月15日~1月20日

◎テストシリーズ2

2月11日~2月29日

◎テストシリーズ3

3月1日~3月10日

終了したら、アンケートにご回答ください。

読書しポート提出状況一覧 入学前教育 平成23年度

入学前教育実施小委員会 2012/2/15

推薦学部	書籍名	人社	教育	Н		AO (人社)	
	スポーツは誰のためのものか	m	12	C	0	0	
_	タテ社会の人間関係	2	~	2	0	_	
<	社会とは何か	m	0	S	0	0	Ŋ
	100年の難問はなぜ解けたのか	m	N	10	~	0	16
	思考の整理学	<u></u> ර	00	7-	N	0	30
蒸	新編 教えるということ	0	24	4	0	_	29
	遠野物語へようこそ	~	0	9	N	_	0,1
	「量子論」を楽しむ本	0	0	16	0	0	16
Н	二重らせん	0	0	2	9	0	00
	ゾウの時間ネズミの時間	က	7	15	7	_	38
	科学者という仕事	0	0	6	7	0	10
眽	生き方	~	9	4	0	~	12
	竹中式 マトリクス勉強法	8	1	8	2	0	14
<i>‡</i>	国家の品格	9	က	2		4	21
Ŋ	ボローニャ紀行	8	2	2	0	0	10
合計 (通)		42	28	100	27	6	256
提出者数 (人)	2	42	92	100	27	6	254
対象者数 (人)	2	42	77	100	28	0	256
提出率		100%	%66	100%	%96	100%	%66
読書しポート	レポート担当数(通)	49	48	62	36		

侧(2) 画 1 5 7 6 1 5 1 6 1 ω ↓ 1 ... ※大学教育総合センター担当分※「新編 教えるということ」※「思考の整理学」 → センタ・

平成23年度 卒業時アンケート集計結果			人文 社会 科学 部 44.6%		教育学部		工学部		農学部		合計	
有効回答数	回答率		104	44.6%	79	29.7%	197	43.6%	94	43.1%	474	40.5%
	男性		33	31.7%	24	30.4%	170	86.3%	54	57.4%	281	59.3%
A. 性別	女性		71	68.3%	55	69.6%	27	13.7%	40	42.6%	193	40.7%
	未記入		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	2004		3	2.9%	0	0.0%	1	0.5%	1	1.1%	5	1.1%
	2005		1	1.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	2	0.4%
B. 入学年度	2006		1	1.0%	1	1.3%	7	3.6%	11	11.7%	20	4.2%
5. 77 1 1/2	2007		3	2.9%	1	1.3%	8	4.1%	5	5.3%	17	3.6%
	2008		96	92.3%	77	97.5%	180	91.4%	77	81.9%	430	90.7%
			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	推薦		24	23.1%	15	19.0%	51	25.9%	8	8.5%	98	20.7%
			55	52.9%	48	60.8%	91	46.2%	67	71.3%	261	55.1%
	一般後期		20	19.2%	15	19.0%	42	21.3%	16	17.0%	93	19.6%
C. 入学形態			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.2%	3	0.6%
	編入(一般)		0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
			3	2.9%	0	0.0%	12	6.1%	0	0.0%	15	3.2%
			2	1.9%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	3	0.6%
	未記入	T	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	課程(学科)	選択	104	100.0%	79	100.0%	197	100.0%	93	98.9%	473	99.8%
D. 所属する「課程・コース」	#IVI = (3 11)	未選択	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.2%
- 17171-17 3 1111-12 1 1 1 1	コース	選択	96	92.3%	73	92.4%		0.0%	49	52.1%	218	46.0%
		未選択	8	7.7%	6	7.6%		0.0%	45	47.9%	59	12.4%
	国内		104	100.0%	79	100.0%	196	99.5%	93	98.9%	472	99.6%
E. 出身都道府県	外国		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1 8=1 1		0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	1	1.1%	3	0.6%
	民間企業		43	41.3%	15	19.0%	81	41.1%	30	31.9%	169	35.7%
	公務員		26	25.0%	4	5.1%	17	8.6%	23	24.5%	70	14.8%
			2	1.9%	26	32.9%	0	0.0%	1	1.1%	29	6.1%
	自営業(実家など) フリー(特立)の専門職 大学院 研究生		0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%
			0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
F. 卒業後の進路			8	7.7%	10	12.7%	88	44.7%	27	28.7%	133	28.1%
			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	0.2%
	専門学校 未定(わからない)		1	1.0%	2	2.5%	2	1.0%	0	0.0%	5	1.1%
	–	ない)	21	20.2%	18	22.8%	6	3.0%	8	8.5%	53	11.2%
	その他 未記入		3	2.9%	3	3.8%	2	1.0%	4	4.3%	12	2.5%
			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
 QA1:全学共通教育科目の	少なすぎる ちょうどいい		3	2.9%	2	2.5%	4	2.0%	3	3.2%	12	2.5%
必要取得単位数についてど			82	78.8%	71	89.9%	140	71.1%	69	73.4%	362	76.4%
う考えますか?	多すぎる		19	18.3%	6	7.6%	53	26.9%	22	23.4%	100	21.1%
			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	満足		21	20.2%	11	13.9%	10	5.1%	6	6.4%	48	10.1%
QA2:全学共通教育科目の	やや満足	= t>1 \	55	52.9%	35	44.3%	68	34.5%	30	31.9%	188	39.7%
内容をトータルにみたときど の程度満足度しています		えない	17	16.3%	15	19.0%	66	33.5%	32	34.0%	130	27.4%
か?	やや不満		9	8.7%	17	21.5%	41	20.8%	21	22.3%	88	18.6%
	不満		2	1.9%	1	1.3%	12	6.1%	5	5.3%	20	4.2%
	未記入		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	そう思う		44	42.3%	29	36.7%	26	13.2%	27	28.7%	126	26.6%
QB1:入学時に期待してい	少しそう思う		37	35.6%	31	39.2%	66	33.5%	36	38.3%	170	35.9%
た通りの教育を受けられま	どちらとも言えない		14 7	13.5%	10 7	12.7%	54	27.4%	16	17.0%	94	19.8%
したか?	あまりそう思わない			6.7%		8.9%	40	20.3%	10	10.6%	64	13.5%
	そう思わない	1	2	1.9%	2	2.5%	11	5.6%	5	5.3%	20	4.2%
	未記入		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	そう思う		11	10.6%	3	3.8%	21	10.7%	8	8.5%	43	9.1%
QB2:他の「課程」に進路を	少しそう思う		13	12.5%	10	12.7%	40	20.3%	15	16.0%	78	16.5%
QB2:他の「謀程」に進路を 変更したいと思ったことはあ りましたか?	どちらとも言	えない	4	3.8%	8	10.1%	20	10.2%	15	16.0%	47	9.9%
りましたか?	めまりそう思	わない	22	21.2%	13	16.5%	39	19.8%	15	16.0%	89	18.8%

平成23年度 卒業時アンケ	一卜集計結果	1 1 1 1		1	教 育 学 部	-	工 学 部	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	隻 学 部	11	슴 計
	そう思わない	54	51.9%	45	57.0%	77	39.1%	41	43.6%	217	45.8%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	満足	62	59.6%	18	22.8%	18	9.1%	23	24.5%	121	25.5%
QB3:「コース」での教員の	やや満足	33	31.7%	38	48.1%	72	36.5%	46	48.9%	189	39.9%
教育に対する姿勢について	どちらとも言えない	6	5.8%	20	25.3%	58	29.4%	12	12.8%	96	20.3%
どの程度満足しています か?	やや不満	2	1.9%	2	2.5%	39	19.8%	9	9.6%	52	11.0%
<i>λ</i> , :	不満	1	1.0%	1	1.3%	10	5.1%	4	4.3%	16	3.4%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	満足	52	50.0%	28	35.4%	25	12.7%	25	26.6%	130	27.4%
QB4:「コース」の授業の成	やや満足	41	39.4%	32	40.5%	83	42.1%	40	42.6%	196	41.4%
績評価の仕方についてどの	どちらとも言えない	6	5.8%	13	16.5%	50	25.4%	24	25.5%	93	19.6%
程度満足していますか?	やや不満	4	3.8%	5	6.3%	29	14.7%	5	5.3%	43	9.1%
	不満 未記入	0	1.0%	0	1.3%	10	5.1%	0	0.0%	12	2.5%
	木記人 いろいろと接触することが多く、親密である	0	0.0%	0 50	0.0%	0 27	0.0%	0 41	0.0%	0 184	0.0% 38.8%
ops [o# []	接触はあるが、親密ではない	34	63.5% 32.7%	22	63.3% 27.8%	121	13.7%	42	43.6% 44.7%	219	46.2%
QB5:「コース」の教員と学 生の関係についてどのよう	接触はあまりない	4	3.8%	6	7.6%	44	22.3%	9	9.6%	63	13.3%
に思っていますか?	その他	0	0.0%	1	1.3%	44	2.0%	2	2.1%	7	1.5%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	いろいろと接触することが多く、親密である	_	57.7%	63	79.7%	112	56.9%	62	66.0%	297	62.7%
QB6:「コース」の学生間の	接触はあるが、親密ではない	34	32.7%	13	16.5%	61	31.0%	26	27.7%	134	28.3%
関係についてどのように	接触はあまりない	9	8.7%	1	1.3%	20	10.2%	6	6.4%	36	7.6%
思っていますか?	その他	1	1.0%	2	2.5%	4	2.0%	0	0.0%	7	1.5%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
QB7:「コース」で開講されて	十分な選択肢が用意されている	46	44.2%	37	46.8%	76	38.6%	49	52.1%	208	43.9%
いる授業科目のバリエー	やや少ない	55	52.9%	41	51.9%	96	48.7%	42	44.7%	234	49.4%
ションについてどう思います	大いに少ない	3	2.9%	1	1.3%	25	12.7%	3	3.2%	32	6.8%
か?	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	満足	44	42.3%	22	27.8%	14	7.1%	21	22.3%	101	21.3%
OD0.[- 7.	やや満足	49	47.1%	44	55.7%	96	48.7%	49	52.1%	238	50.2%
QB8:「コース」で受けた教育を全体としてみたときど	どちらとも言えない	4	3.8%	11	13.9%	59	29.9%	14	14.9%	88	18.6%
の程度満足していますか?	やや不満	5	4.8%	2	2.5%	17	8.6%	10	10.6%	34	7.2%
	不満	2	1.9%	0	0.0%	11	5.6%	0	0.0%	13	2.7%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
QC1:「コース」で学んだ内	は、関連される	18	17.3%	44	55.7%	82	41.6%	57	60.6%	201	42.4%
容はあなたの卒業後の進	少し関連がある 関連はない	33	31.7%	18	22.8%	72	36.5%		22.3%	144	30.4%
路にどの程度関連があると	対理はない どちらとも言えない/わからない	33 20	31.7% 19.2%	9	11.4%	29 14	14.7% 7.1%	9	9.6% 7.4%	80 49	16.9%
思いますか?	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	満足	9	8.7%	18	22.8%	31	15.7%	10	10.6%	68	14.3%
	やや満足	32	30.8%	16	20.3%	67	34.0%	27	28.7%	142	30.0%
QC2:「学部」の就職や進学	どちらとも言えない	40	38.5%	23	29.1%	67	34.0%	39	41.5%	169	35.7%
に関する支援にはどの程度 満足していますか?	やや不満	10	9.6%	16	20.3%	19	9.6%	12	12.8%	57	12.0%
Marker Co. Or 3 M. I	不満	13	12.5%	6	7.6%	12	6.1%	6	6.4%	37	7.8%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	入学前から	11	10.6%	26	32.9%	24	12.2%	8	8.5%	69	14.6%
000 ×+11 + 7) + 15 / + 1 = +	1~2年次	3	2.9%	5	6.3%	17	8.6%	8	8.5%	33	7.0%
QC3:希望する進路(就職 先、進学先)はいつ頃決め	3~4年次	74	71.2%	43	54.4%	148	75.1%	69	73.4%	334	70.5%
ましたか?	5~6年次(獣医のみ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	16	15.4%	5	6.3%	7	3.6%	9	9.6%	37	7.8%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	入学前から	1	1.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	1.1%	3	0.6%
QC4:進路の準備(就職活	1~2年次	8	7.7%	2	2.5%	10	5.1%	2	2.1%	22	4.6%
	3~4年次	88	84.6%	71	89.9%	176	89.3%	81	86.2%	416	87.8%
動、進学するための勉強)	「・C左右(獣匠のない	_	0.00/								
動、進字するための勉強) はいつ頃から始めました か?	5~6年次(獣医のみ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
はいつ頃から始めました	5~6年次(獣医のみ) その他 未記入	0 7 0	0.0% 6.7% 0.0%	0 5 0	0.0% 6.3% 0.0%	0 10 0	0.0% 5.1% 0.0%	10	10.6%	32	6.8% 0.0%

平成23年度 卒業時アンケ	一卜集計結果			:	教 育 学 部		工 学 部	:	豊 学	i	合 計
	やや満足	31	29.8%	17	21.5%	68	34.5%	31	33.0%	147	31.0%
QC5:決定した進路(就職	どちらとも言えない	18	17.3%	22	27.8%	27	13.7%	24	25.5%	91	19.2%
先、進学先等)に対してどの 程度満足していますか?	やや不満	7	6.7%	3	3.8%	6	3.0%	1	1.1%	17	3.6%
「主文/写たしてい ひ / 73 ・	不満	9	8.7%	3	3.8%	8	4.1%	0	0.0%	20	4.2%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	重視した	33	31.7%	36	45.6%	44	22.3%	23	24.5%	136	28.7%
	少し重視した	44	42.3%	27	34.2%	87	44.2%	48	51.1%	206	43.5%
QD1:どの程度学業を重視したと思いますか?	あまり重視しなかった	20	19.2%	12	15.2%	51	25.9%	16	17.0%	99	20.9%
0722100 6 9 73 .	重視しなかった	7	6.7%	4	5.1%	14	7.1%	7	7.4%	32	6.8%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	重視した	34	32.7%	23	29.1%	50	25.4%	26	27.7%	133	28.1%
QD2:どの程度サークル活	少し重視した	19	18.3%	23	29.1%	44	22.3%	25	26.6%	111	23.4%
動を重視したと思います	あまり重視しなかった	14	13.5%	15	19.0%	35	17.8%	18	19.1%	82	17.3%
か?	重視しなかった	37	35.6%	18	22.8%	67	34.0%	25	26.6%	147	31.0%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	満足	5	4.8%	9	11.4%	9	4.6%	6	6.4%	29	6.1%
opo 1#=75 0 !! . * =	やや満足	34	32.7%	24	30.4%	54	27.4%	29	30.9%	141	29.7%
QD3:大学事務のサービス についてどの程度満足して	どちらとも言えない	23	22.1%	17	21.5%	57	28.9%	28	29.8%	125	26.4%
いますか?	やや不満	26	25.0%	16	20.3%	40	20.3%	20	21.3%	102	21.5%
	不満	16	15.4%	13	16.5%	36	18.3%	11	11.7%	76	16.0%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	満足	20	19.2%	15	19.0%	18	9.1%	21	22.3%	74	15.6%
	やや満足	48	46.2%	34	43.0%	72	36.5%	39	41.5%	193	40.7%
QD4:教室、研究室の施設など学習環境jについてど	どちらとも言えない	11	10.6%	10	12.7%	42	21.3%	14	14.9%	77	16.2%
の程度満足していますか?	やや不満	18	17.3%	17	21.5%	44	22.3%	15	16.0%	94	19.8%
	不満	7	6.7%	3	3.8%	20	10.2%	5	5.3%	35	7.4%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	満足	40	38.5%	20	25.3%	43	21.8%	19	20.2%	122	25.7%
	やや満足	37	35.6%	34	43.0%	76	38.6%	43	45.7%	190	40.1%
QD5:図書館についてどの	どちらとも言えない	14	13.5%	8	10.1%	50	25.4%	19	20.2%	91	19.2%
程度満足していますか?	やや不満	9	8.7%	12	15.2%	18	9.1%	10	10.6%	49	10.3%
	不満	4	3.8%	5	6.3%	9	4.6%	3	3.2%	21	4.4%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	満足	30	28.8%	22	27.8%	41	20.8%	14	14.9%	107	22.6%
	やや満足	47	45.2%	44	55.7%	86	43.7%	45	47.9%	222	46.8%
QD6:学食、生協についてど の程度満足していますか?	とちらとも言えない	15	14.4%	9	11.4%	27	13.7%	15	16.0%	66	13.9%
の性反响だしているすが:		7	6.7%	2	2.5%	33 9	16.8%	14	14.9%	56	11.8%
	不満	5	4.8%	2	2.5%		4.6%	6	6.4%	22	4.6%
	未記入 とても充実していた	0	0.0%	0 35	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	110	0.2%
	を (も	29	27.9% 52.9%		44.3%	33	16.8%	19	20.2%	116 265	24.5%
OD7. 十畳井江内 find つい	どちらとも言えない	55 13	12.5%	39 2	49.4% 2.5%	110 40	55.8% 20.3%	61 11	64.9% 11.7%	66	55.9% 13.9%
QD7:大学生活全般についてどう感じていますか?	あまり充実していなかった	4	3.8%	2	2.5%	8	4.1%	3	3.2%	17	3.6%
CC 7/20 CV 65 7 // 1	充実していなかった	3	2.9%	1	1.3%	5	2.5%	0	0.0%	9	1.9%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%
	感じた	4	3.8%	0	0.070	1	0.570	0	0.070	4	3.8%
	少し感じた	27	26.0%				1			27	26.0%
OU1.「学知: の歩本には学	どちらとも言えない	22	21.2%		1		+			22	21.2%
QH1:「学部」の教育には厳しさを感じましたか?	あまり感じなかった	41	39.4%	-	1		+	-		41	39.4%
	感じなかった	10	9.6%	1			+	1		10	9.6%
	未記入	0	0.0%	1			+	1	-	0	0.0%
	そう思う	35	33.7%	 			+	 	-	35	33.7%
	少しそう思う	49	47.1%	1			+	1		49	47.1%
QH2:この「学部」で幅広く学		8	7.7%				 			8	7.7%
QH2:この「字部」で幅広く字 べたと思いますか?	あまりそう思わない	10	9.6%	1			†	1		10	9.6%
	そう思わない	2	1.9%	1			†	1		2	1.9%
	未記入	0	0.0%	1			+	1		0	0.0%
	そう思う	39	37.5%				 			39	37.5%
İ	~		J 7 . U /U		 	!	1	1	1		37.070

平成23年度 卒業時アンケ	一卜集計結果		人文社会科学部	Ī	教 育 学	 <u> </u>	農学部		合計
QH3:この「学部」で専門的	どちらとも言えない	7	6.7%					7	6.7%
な勉強・研究ができたと思いますか?	あまりそう思わない	9	8.7%					9	8.7%
(, y à y, ;	そう思わない	2	1.9%					2	1.9%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%
	効果あり	30	28.8%					30	28.8%
QH4:副専攻制度には総合	少し効果あり	50	48.1%					50	48.1%
的な視野を育むという意味	どちらとも言えない	14	13.5%					14	13.5%
で効果があると思います	あまり効果はない	6	5.8%					6	5.8%
か?	効果なし	4	3.8%					4	3.8%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%
	そう思う	29	27.9%					29	27.9%
	少しそう思う	56	53.8%					56	53.8%
QH5:この「学部」で学び、	どちらとも言えない	9	8.7%					9	8.7%
総合的視野を身につけられたと思いますか?	あまりそう思わない	9	8.7%					9	8.7%
7.2.1.1.0 6 9 13 .	そう思わない	1	1.0%					1	1.0%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%
	そう思う	23	22.1%					23	22.1%
QH6:この「学部」で学び自	少しそう思う	57	54.8%					57	54.8%
分の専門分野を学問全体	どちらとも言えない	15	14.4%					15	14.4%
の中で相対的に位置づけることができるようになったと	あまりそう思わない	7	6.7%					7	6.7%
思いますか?	そう思わない	2	1.9%					2	1.9%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%
	そう思う	59	56.7%					59	56.7%
QU2. 1 社类如什么终于	少しそう思う	31	29.8%					31	29.8%
QH7: 人社学部は今後も 「総合的な教育・研究を行う	どちらとも言えない	12	11.5%					12	11.5%
学部」であって欲しいと思い	あまりそう思わない	2	1.9%					2	1.9%
ますか?	そう思わない	0	0.0%					0	0.0%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%
	そう思う	74	71.2%					74	71.2%
	少しそう思う	19	18.3%					19	18.3%
QH8:この「学部」で学んで	どちらとも言えない	8	7.7%					8	7.7%
良かったと思いますか?	あまりそう思わない	2	1.9%					2	1.9%
	そう思わない	1	1.0%					1	1.0%
	未記入	0	0.0%					0	0.0%

平成23年度 修了時アンケート集計結果		1 1 1 1 1	人文社会科学研究科,	1 5 1	教育学研究科	÷	工 学 开 究 斗	÷ 5	農学开 农斗		合計
有効回答数	回答率	14	87.5%	20	71.4%	102	52.3%		62.9%	175	58.1%
a All Di	男性	2	14.3%	10	50.0%	91	89.2%	19	48.7%	122	65.9%
A.性別	女性 未記入	12 0	85.7% 0.0%	10 0	50.0% 0.0%	11 0	10.8% 0.0%	20 0	51.3% 0.0%	53 0	28.6% 0.0%
	2008	0	0.0%	4	20.0%	7	6.9%	1	2.6%	12	6.5%
- 1 # <i></i>	2009	1	7.1%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	2	1.1%
B.入学年度	2010	12	85.7%	16	80.0%	94	92.2%	38	97.4%	160	86.5%
	未記入	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
	1.推薦	0	0.0%	0	0.0%	25	24.5%		0.0%	25	13.5%
C 1 学业能。	2.一般	13	92.9%	19	95.0%	74	72.5%	38	97.4%	144	77.8%
C.入学形態:	3.社会人 4.その他(外国人など)	0	0.0% 7.1%	0	0.0% 5.0%	1	1.0%	0	2.6% 0.0%	3	1.6%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
D.所属する「専攻」	選択	14	100.0%	20	100.0%	102	100.0%	39	100.0%	175	94.6%
	国内	2	14.3%	7	35.0%	87	85.3%	26	66.7%	122	65.9%
E.出身の都道府県	外国	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%	0	0.0%	3	1.6%
	未記入	12	85.7%	13	65.0%	12	11.8%	13	33.3%	50	27.0%
	1.民間企業 2.公務員	3	21.4% 0.0%	2	10.0%	87 3	85.3% 2.9%	20 6	51.3% 15.4%	112 10	60.5% 5.4%
	2.公務員 3.教員	0	0.0%	10	50.0%	1	1.0%	1	2.6%	12	6.5%
	4.自営業(実家など)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	5.フリー(特立)の専門職	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
F.卒業後の進路(決定した進路)	6.大学院	0	0.0%	0	0.0%	6	5.9%	0	0.0%	6	3.2%
	7.研究生	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	3	7.7%	4	2.2%
	8.専門学校	0 5	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0 4	0.0%	0 14	0.0%
	9.その他 10.未定(わからない)	5	35.7% 35.7%	3	20.0% 15.0%	3	1.0%	5	10.3%	16	7.6%
	未記入	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
	1.そう思う	12	85.7%	12	60.0%	34	33.3%	24	61.5%	82	44.3%
	2.少しそう思う	1	7.1%	4	20.0%	42	41.2%	9	23.1%	56	30.3%
QB1:「専攻」では入学時に期待していた通り	3.どちらとも言えない	1	7.1%	1	5.0%	12	11.8%	5	12.8%	19	10.3%
の教育を受けられましたか。	4.あまりそう思わない	0	0.0%	1	5.0%	13	12.7%	0	0.0%	14	7.6%
	5.そう思わない 未記入	0	0.0%	0	10.0%	0	1.0% 0.0%	0	2.6% 0.0%	0	0.0%
	1.満足	13	92.9%	9	45.0%	42	41.2%	21	53.8%	85	45.9%
	2.やや満足	1	7.1%	7	35.0%	25	24.5%	13	33.3%	46	24.9%
QB2:「専攻」での教員の研究に対する姿勢	3.どちらとも言えない	0	0.0%	2	10.0%	23	22.5%	1	2.6%	26	14.1%
について、どの程度満足していますか。	4. やや不満	0	0.0%	1	5.0%	9	8.8%	3	7.7%	13	7.0%
	5.不満	0	0.0%	1	5.0%	3	2.9%	1	2.6%	5	2.7%
	6.未記入 1.満足	0 11	0.0% 78.6%	0	0.0% 45.0%	38	0.0% 37.3%	0 24	0.0% 61.5%	0 82	0.0% 44.3%
	2.やや満足	3	21.4%	8	40.0%	35	34.3%	11	28.2%	57	30.8%
 QB3:「専攻」の授業の成績評価の仕方につ	3.どちらとも言えない	0	0.0%	2	10.0%	18	17.6%		7.7%	23	12.4%
いて、どの程度満足していますか。	4. やや不満	0	0.0%	1	5.0%	10	9.8%	1	2.6%	12	6.5%
	5.不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	6.未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.5%
	1.いろいろと接触することが多く、親密 2.接触はあるが、親密ではない	0	100.0%	15	75.0% 15.0%	43 43	42.2% 42.2%	23 11	59.0% 28.2%	95 57	51.4% 30.8%
QB4:「専攻」の教員と学生の関係について、	3.接触はあまりない	0	0.0%	1	5.0%	11	10.8%	3	7.7%	15	8.1%
どのように思っていますか。	4.その他	0	0.0%	1	5.0%	4	3.9%	2	5.1%	7	3.8%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.5%
	1.いろいろと接触することが多く、親密		92.9%	16	80.0%	53	52.0%	27	69.2%	109	58.9%
QB5:「専攻」の学生間の関係について、どの	2.接触はあるが、親密ではない	0	0.0% 7.1%	3	15.0% 5.0%	27 17	26.5%	7 5	17.9% 12.8%	37 24	20.0%
ように思っていますか。	3.接触はあまりない 4.その他	0	0.0%	0	0.0%	5	16.7% 4.9%	0	0.0%	5	13.0%
	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		0.0%	0	0.0%
	1.十分な選択肢が用意されている	7	50.0%	12	60.0%	48	47.1%	19	48.7%	86	46.5%
QB6:「専攻」で開講されている授業科目の	2.やや少ない	4	28.6%	7	35.0%	47	46.1%	19	48.7%	77	41.6%
バリエーションについてどう思いますか。	3.大いに少ない	2	14.3%	0	0.0%	6	5.9%	1	2.6%	9	4.9%
	1.満足	1	7.1% 71.4%	11	5.0% 55.0%	1 24	1.0% 23.5%	0 15	0.0% 38.5%	3 60	1.6%
	2.やや満足	2	14.3%	6	30.0%	43	42.2%	20	51.3%	71	38.4%
 QB7:「専攻」で受けた教育を全体としてみた	3.どちらとも言えない	0	0.0%	2	10.0%	23	22.5%	4	10.3%	29	15.7%
とき、どの程度満足していますか。	4.やや不満	1	7.1%	1	5.0%	9	8.8%	0	0.0%	11	5.9%
	5.不満	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%	0	0.0%	3	1.6%
	未記入	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
	1.強く関連している 2.少し関連がある	2	57.1%	12	60.0% 15.0%	33 47	32.4% 46.1%	15 12	38.5% 30.8%	68 64	36.8% 34.6%
QC1:「専攻」で学んだ内容はあなたの修了後	2.少し関連がめる 3.関連はない	1	14.3% 7.1%	5	25.0%	14	13.7%	7	17.9%	27	14.6%
の進路にどの程度関連があると思いますか。	4.どちらとも言えない/わからない	2	14.3%	0	0.0%	8	7.8%	5	12.8%	15	8.1%
1	未記入		7.1%	0	0.0%	0	0.0%		0.0%	1.	0.5%

平成23年度 修了時アンケート集計結果			λ								
		7	文 吐		教 育		<u>r</u>	Á	豊		
		₹	会 참	<u>.</u>	 学 研		学 开	<u>+</u>	学 研	1	合計
		Ŧ	学 研 究	3	究 科	1	宅 斗		宅 斗		
			料								
	1.満足 2.やや満足	5	35.7% 21.4%	6	30.0% 20.0%	33 38	32.4% 37.3%	7	17.9% 15.4%	51 51	27.6% 27.6%
 QC2:「研究科」の就職や進学に関する支援	3.どちらとも言えない	6	42.9%	9	45.0%	18	17.6%	14	35.9%	47	25.4%
にはどの程度満足していますか。	4.やや不満	0	0.0%	0	0.0%	7	6.9%	7	17.9%	14	7.6%
!	5.不満	0	0.0%	1	5.0%	6	5.9%	5	12.8%	12	6.5%
	未記入 1.修士課程入学前から	2	0.0% 14.3%	12	0.0% 60.0%	0 26	0.0% 25.5%	11	0.0% 28.2%	0 51	0.0% 27.6%
	2.修士課程1年次	3	21.4%	3	15.0%	37	36.3%	9	23.1%	52	28.1%
QC3: 希望する進路(就職先, 進学先)はいつ 頃決めましたか。	3.修士課程2年次	4	28.6%	1	5.0%	32	31.4%	14	35.9%	51	27.6%
ļ	4.その他	4	28.6%	3	15.0%	7	6.9%	5	12.8%	19	10.3%
	未記入 1.修士課程入学前から	0	7.1%	8	5.0% 40.0%	0 15	0.0% 14.7%	6	0.0% 15.4%	29	1.1%
	2.修士課程1年次	4	28.6%	7	35.0%	74	72.5%	27	69.2%	112	60.5%
QC4:進路の準備(就職活動、進学するための 勉強)はいつ頃から始めましたか。	3.修士課程2年次	5	35.7%	1	5.0%	6	5.9%	2	5.1%	14	7.6%
	4.その他	5	35.7%	4	20.0%	7	6.9%	4	10.3%	20	10.8%
	1.満足	2	0.0% 14.3%	0 12	0.0% 60.0%	0 57	0.0% 55.9%	0 18	0.0% 46.2%	0 89	0.0% 48.1%
	1.満足 2.やや満足	5	35.7%	1	5.0%	31	30.4%	8	20.5%	45	24.3%
QC5:決定した進路(就職先、進学先等)に対	3.どちらとも言えない	7	50.0%	4	20.0%	8	7.8%	7	17.9%	26	14.1%
してどの程度満足していますか。	4.やや不満	0	0.0%	2	10.0%	4	3.9%	2	5.1%	8	4.3%
	5.不満	0	0.0%	0	0.0%	2	2.0%	4	10.3%	6	3.2%
	未記入 1.重視した	0	0.0% 57.1%	14	5.0% 70.0%	0 40	0.0% 39.2%	0 22	0.0% 56.4%	84	0.5% 45.4%
1	2.少し重視した	4	28.6%	5	25.0%	50	49.0%	14	35.9%	73	39.5%
	3.あまり重視しなかった	2	14.3%	0	0.0%	9	8.8%	2	5.1%	13	7.0%
1	4.重視しなかった	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9%	1	2.6%	4	2.2%
	未記入 1. 素想 . #-	0	0.0%	2	5.0% 10.0%	0	0.0%	2	0.0%	15	0.5%
1	1.重視した 2.少し重視した	0	0.0%	2	10.0%	11 11	10.8%	3	5.1% 7.7%	16	8.1%
QD2:どの程度サークル活動を重視したと思いますか。	3.あまり重視しなかった	0	0.0%	1	5.0%	17	16.7%	7	17.9%	25	13.5%
6 7 N°	4.重視しなかった	14	100.0%	14	70.0%	63	61.8%	27	69.2%	118	63.8%
	未記入	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
ļ	1.満足 2.やや満足	2	14.3%	6	20.0%	9 21	8.8% 20.6%	7	10.3% 17.9%	19 36	10.3% 19.5%
QD3:大学事務のサービスについて、どの程	3.どちらとも言えない	3	21.4%	6	30.0%	44	43.1%	16	41.0%	69	37.3%
度満足していますか。	4.やや不満	5	35.7%	3	15.0%	12	11.8%	9	23.1%	29	15.7%
ļ	5.不満	2	14.3%	1	5.0%	16	15.7%	3	7.7%	22	11.9%
	1.満足	3	0.0% 21.4%	7	0.0% 35.0%	0 27	0.0% 26.5%	0 15	0.0% 38.5%	0 52	0.0% 28.1%
ļ	2.やや満足	7	50.0%	8	40.0%	33	32.4%	13	33.3%	61	33.0%
	3.どちらとも言えない	3	21.4%	2	10.0%	17	16.7%	5	12.8%	27	14.6%
ついて、どの程度満足していますか。	4.やや不満	1	7.1%	3		16	15.7%	5	12.8%	25	13.5%
ļ	5.不満	0	0.0%	0	0.0%	9	8.8%	1	2.6%	10	5.4%
	1.満足	2	0.0% 14.3%	8	0.0% 40.0%	23	0.0% 22.5%	13	0.0% 33.3%	0 46	0.0% 24.9%
1	2.やや満足	9	64.3%	5	25.0%	33	32.4%	10	25.6%	57	30.8%
QD5:図書館について、どの程度満足していま	3.どちらとも言えない	3	21.4%	3	15.0%	35	34.3%	11	28.2%	52	28.1%
すか。	4.やや不満	0	0.0%	4	20.0%	8	7.8%	3	7.7%	15	8.1%
	5.不満 未記入	0	0.0%	0	0.0%	3	2.9% 0.0%	0	5.1% 0.0%	5	2.7% 0.0%
	1.満足	4	28.6%	5	25.0%	33	32.4%	7	17.9%	49	26.5%
ļ	2.やや満足	6	42.9%	6	30.0%	32	31.4%	18	46.2%	62	33.5%
QD6:学食、生協について、どの程度満足していますか。		3	21.4%	6	30.0%	21	20.6%	7	17.9%	37	20.0%
(' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '	4.やや不満 5.不満	0	7.1%	0	15.0%	8	7.8% 7.8%	1	15.4% 2.6%	18 9	9.7% 4.9%
ļ	未記入	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	1.とても充実していた	7	50.0%	10	50.0%	28	27.5%	13	33.3%	58	31.4%
	2.充実していた	6	42.9%	7	35.0%	57	55.9%	21	53.8%	91	49.2%
QD7:大学生活全般についてどう感じていますか。		0	7.1%	1	5.0%	11	10.8%	0	10.3%	17 5	9.2%
	4.あまり充実していなかった 5.充実していなかった	0	0.0%	1	5.0% 5.0%	2	3.9% 2.0%	1	0.0% 2.6%	4	2.7%
		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	未記入	U					i			3	1.6%
	未記入 1.感じた	3	21.4%								
	未記入 1.感じた 2.少し感じた	3 9	21.4% 64.3%							9	4.9%
QH1:「研究科」の教育には厳しさを感じましたか。	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない	3 9 0	21.4% 64.3% 0.0%							9	0.0%
QH1:「研究科」の教育には厳しさを感じましたか。	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない 4.あまり感じなかった	3 9 0 2	21.4% 64.3% 0.0% 14.3%							9	0.0% 1.1%
	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない	3 9 0	21.4% 64.3% 0.0%							9 0 2	0.0%
	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない 4.あまり感じなかった 5.感じなかった	3 9 0 2 0	21.4% 64.3% 0.0% 14.3% 0.0%							9 0 2 0	0.0% 1.1% 0.0% 0.0% 3.8%
か。	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない 4.あまり感じなかった 5.感じなかった 未記入 1.そう思う 2.少しそう思う	3 9 0 2 0	21.4% 64.3% 0.0% 14.3% 0.0% 0.0% 50.0% 42.9%							9 0 2 0	0.0% 1.1% 0.0% 0.0% 3.8% 3.2%
か。	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない 4.あまり感じなかった 5.感じなかった 未記入 1.そう思う 2.少しそう思う 3.どちらとも言えない	3 9 0 2 0 0 7 6	21.4% 64.3% 0.0% 14.3% 0.0% 0.0% 50.0% 42.9% 7.1%							9 0 2 0 0 7 6	0.0% 1.1% 0.0% 0.0% 3.8% 3.2% 0.5%
か。	未記入 1.感じた 2.少し感じた 3.どちらとも言えない 4.あまり感じなかった 5.感じなかった 未記入 1.そう思う 2.少しそう思う	3 9 0 2 0 0 7	21.4% 64.3% 0.0% 14.3% 0.0% 0.0% 50.0% 42.9%							9 0 2 0 0 7	0.0% 1.1% 0.0% 0.0% 3.8% 3.2%

平成23年度 修了時アンケート集計結果		3 3 3	人文社会科学研究科	李严宁有多禾	育 学 开 宅	二 管 有 3 矛	₽ # ?	是气石马木	분수 开记 각		合計
	1.そう思う	11	78.6%							11	5.9%
	2.少しそう思う	3	21.4%							3	1.6%
QH3:「研究科」で専門的な勉強・研究ができ	3.どちらとも言えない	0	0.0%							0	0.0%
たと思いますか。	4.あまりそう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	5.そう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	未記入	0	0.0%							0	0.0%
	1.そう思う	6	42.9%							6	3.2%
	2.少しそう思う	6	42.9%							6	3.2%
QH4:「研究科」で学び、総合的視野を身につ	3.どちらとも言えない	2	14.3%							2	1.1%
けられたと思いますか。	4.あまりそう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	5.そう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	未記入	0	0.0%							0	0.0%
	1.そう思う	5	35.7%							5	2.7%
	2.少しそう思う	3	21.4%							3	1.6%
QH5:「研究科」で学び、自分の専門分野を学問全体の中で相対的に位置づけることができ	3.どちらとも言えない	4	28.6%							4	2.2%
るようになったと思いますか。	4.あまりそう思わない	2	14.3%							2	1.1%
	5.そう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	未記入	0	0.0%							0	0.0%
	1.そう思う	9	64.3%							9	4.9%
	2.少しそう思う	2	14.3%							2	1.1%
QH6:人文社会科学研究科は今後も「総合的な教育・研究を行う研究科」であって欲しいと	3.どちらとも言えない	2	14.3%							2	1.1%
思いますか。	4.あまりそう思わない	1	7.1%							1	0.5%
	5.そう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	未記入	0	0.0%							0	0.0%
	1.そう思う	12	85.7%							12	6.5%
	2.少しそう思う	2	14.3%							2	1.1%
QH7:「研究科」で学んで良かったと思います	3.どちらとも言えない	0	0.0%							0	0.0%
か。	4.あまりそう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	5.そう思わない	0	0.0%							0	0.0%
	未記入	0	0.0%							0	0.0%





専門教育等連携部門

専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成23年9月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	西谷泰昭	工学部
専任教員	山崎憲司	大学教育総合センター
	三 浦 康 秀	人文社会科学部
兼務教員	犬 塚 博 彦	教育学部
(各学部教務委員会選出教員)	藤代博之	工学部
	板 垣 匡	農学部
学務課長	浅 沼 良 庸	学務部

活動報告

部門長 西谷 泰昭

専門基礎教育の担当体制について

専門基礎科目の開講と担当者(非常勤講師を含む)の調整

組織検討委員会の「教育プログラム検討ワーキンググループ」において専門基礎科目の担当 体制が検討され答申が行われましたが、その後の答申の取り扱い等については議論が行われて いません。具体的な方策が決定されるまでは、本部門が関わって調整を行っています。

・専門基礎科目(専門科目)担当者による懇談会・意見交換会の実施

科目担当者・代表者、担任、学科教務委員等による「専門基礎科目に関する懇談会」(7/8(金)) を開催し、学生の修学状況・今後の対応などについて意見交換を行いました。

その後、人文社会科学部教員と工学部・農学部教員による、次年度の開講についての協議が 科目別・学部別に開かれ、開講コマ数および担当教員等の調整が行われました。

・専門基礎科目担当教員の補充に係る要望書の提出

人文社会科学部の専門基礎科目担当教員(数学担当: H23.4)が転出したため、その教員が担当していた農学部・工学部の「専門基礎科目」については、本部門において調整のもと、急遽、非常勤講師採用で対応しました。しかし、「専門基礎科目」の維持・充実のためには担当専任教員の早期補充が必要であるという結論に達し、同趣旨の要望書を組織検討委員会委員長及び人文社会科学部長宛に提出しました。

第4回基礎ゼミナール情報交換会の実施について

基礎ゼミナールの充実を目的として、「第4回基礎ゼミナール情報交換会」(12/26(月))を開催しました。大学教育総合センターからは、他大学における取り組み状況と副読本「学びのはじめ」改訂が報告され、各学部からは、基礎ゼミ実施内容の事例が紹介されました。次いで、基礎ゼミの全学共通教育科目としての趣旨・教育目標をあらためて確認するとともに、基礎ゼミを含む転換教育の位置づけ、成績評価の考え方について情報交換を行いました。

基礎ゼミナール副読本『大学における「学び」のはじめ』の全面改訂について

全学で基礎ゼミが始まって5年になります。副読本『大学における「学び」のはじめ』は毎年若 干の手直しをして、新入生全員、教員全員に配布されていますが、初版から5年が経過し、執筆者 の中には退職・異動された方も多く、内容の改訂も必要となってきました。そこで、各学部から編 集委員を選んでいただき、学生・教員の双方に使いやすい副読本を目指して全面改訂を行いました。

第二期中期目標・中期計画に基づく新入生アンケートについて

平成 22 年度から、第二期中期目標・中期計画に基づいて実施している「新入生アンケート」について、平成 23 年度も継続して実施しました。これは、「読書」「文章作成」「コミュニケーション」「パソコン使用」等、大学での学習を進めるうえで必要となる能力や意欲について入学生の現状を調べ、教養教育全般の共通認識とするとともに、これらの基礎を1年次にしっかり身につけてもらうため

の方策を検討することを目的としています。

平成22年度のアンケートは、入学時と1年次終了時の2回、ほぼ同じ内容について質問をしましたが、平成23年度は震災の影響で学事日程がずれたこともあり、入学時のアンケート回収率が低く、統計的な分析は出来ないと判断し、1年次終了後のアンケートは実施しないこととしました。入学時のアンケート結果は、初年次教育を担当する教員へ配布しましたが、文章作成、プレゼンテーションの機会を、これからもできるだけ学生に与えていくことが必要であり、PCの使用、表・グラフ作成などのスキルについては、1年次で苦手意識を持たせない工夫が課題であると思います。

理系基礎支援講座の拡充について

平成 18 年度後期から、高校教員の協力を得て始めた高校程度の補習授業「理系基礎支援講座」(数学・物理・化学)を実施しています。本年度は、高校教員 2 名及び本学名誉教授が担当し、前期・後期それぞれ数学 1 コマ、物理 2 コマ、化学 1 コマを開講しました。単位認定のない自主的学習であり、受講生数は多くありませんが、個別指導の基礎学習を行うため、アンケートからは十分な学習効果があることが伺えます。平成 24 年度も引き続き実施しますが、今後の事業のあり方等については、本部門において検討を行っていく予定です。

岩手大学と放送大学との教育協力単位互換について

平成 17 年度~平成 20 年度の「単位互換モデル構築に向けた研究プロジェクト」を引き継いで、 放送大学の授業科目を可能な範囲内で岩手大学の教育課程に位置づけ、かつ組織的に取り組む放送 大学との単位互換制度について、平成 24 年度の実施体制の確認と科目の選定を行いました。

専門基礎科目に関する懇談会(メモ)

日時:平成23年7月8日(金) 16:30~18:00

場所:教育学部第2会議室

【出席者】

専門教育等連携部門長:西谷泰昭

人文社会科学部:山本昭彦、三浦康秀、石垣 剛、奈良光紀、河田裕樹、北爪英一、西崎

滋、花見仁史、尾臺喜孝

教育学部:遠藤匡俊、犬塚博彦、武井隆明

工学部 : 藤代博之、瓜生誠司、柳岡英樹、大坊真洋、芝崎祐二

農学部 : 三輪 弌、板垣 匡

大学教育総合センター:高畑義人、玉真之介、山崎憲治、江本理恵

学務課:浅沼良庸 (計25名)

議題に先立ち、専門教育等連携部門長から趣旨説明があり、次いで資料の確認及び説明があった。

なお、議事の進行について、出席者の関係で最初に議題 2 から行うことの説明があった。 議題に沿って、以下のとおり意見交換を行った。

議題2. 科目の開講状況について

(概況説明)

- ・ 資料1から、専門基礎の担当教員は本来、数学4、物理3、化学3、生物2の12名 体制であるが、今年度は、数学3、物理3、化学3、生物2の11名であり、数学1 名が現在欠員となっていて、その分非常勤講師が担当している。
- ・ 資料2から、現在開講している専門基礎科目が、農学部が28コマ、工学部が44コマとなっていて、担当している教員の所属は、農学部は農学部所属の教員が多く、工学部は人文社会科学部の教員が多くなっている。
- ・ 科目ごとの受講者人数は、おおむね農学部が20、40名、工学部が70、80名と なっていて、昨年度もクラス規模の適正数が話題となったが、今年度も基本的な状況 の変化はない。
- ・ 履修表を見ると農学部は選択科目が多く、工学部はほとんどが必修となっている。 (工学部のクラスサイズについて)
- ・ 今年度は、クラスサイズが一段と大きい。特に「電気情報」は、定員120人で60 人に分けてやるので本来工学部では一番小さいはずだが、実際は72人となっている。 なぜならそれは1年生を145人も採っているから。やむ終えない事情もあるだろう が制限はないのかなと感じた。
- ・ 学生数については、大学全体として定員のプラス10%まで認められている。

(TAの活用について)

- ・ 数学は、添削等で専門基礎の理解を深めるのに役立っている(農学部)。工学部では 前期で500人を超えているが、TAは付いていない。
- ・ 物理は、実験で TA を利用。農学部では、TA 2名。工学部では、クラスが大きいので 教員 2名 TA 2名。講義に関しては、個人的には特に TA の必要を感じない。

・ 化学は、学生実験で農学部は TA 4 名、工学部は 3 名、講義は教員 3 名で担当しているが TA はお願いしていない。農学部の化学入門 1 0 1 名、昨年は 1 5 0 名で化学を受ける学生が減ってきている。選択にしていることも原因としてあるのかもしれないが全体的に化学の人気がない。

(学力のばらつきについて)

- ・ 習熟度アンケートについて、今年度は震災の関係で実施しなかったが、昨年度のアンケートによると、工学部については、あまりばらつきがなく、農学部は物理、化学にばらつきが見られる傾向があった。
- ・ 数学で再履修、再々履修でクラスサイズが大きくなっているが、数学の先生の方で工 学部に対して TA をつけたほうが教育効果が上がるとお考えなのかどうか伺いたい。
- ・ 要望として出している。それがクラスサイズ解消の決定打となるとは考えないが、TA はあった方が教員の選択肢が広がる。

議題1.カリキュラムにおける専門基礎科目の位置づけについて

(専門基礎科目を考える上で)

- ・ 従来から、理系学生としての基礎なのか、学部の専門教育を進める上での基礎なのか どの様に位置づけるのかが話題となってきた。
- ・ 各学部で、専門基礎科目をシラバスの上でどの様に位置づけているのか伺いたい。 (工学部)
- ・ 多様な入試、多様な学力を持った学生に4年間で一定のレベルに如何にもっていくか をカリキュラムの中で考えている。
- ・ 専門基礎科目は学科によらず工学部出身者として習得すべき基礎的なものと捕らえて いる。
- ・ カリキュラム上ほとんど必修となっているが平成21年度の改組でタイトになった。 例えば物理学I、Ⅱが物理学となったり、物理実験、化学実験の両方やらせたいがい ろんな事情でどちらか1つという学科もある。最終的にはどの学科を出ても工学部出 身者としての基本的な学力を身に付けているということが根底にある。
- ・ 工学部では、このような全体の懇談会のほかに科目別の懇談会で意見交換しながら次年度の科目の内容及び担当体制の確認を行っていて、人社の先生とも意見交換させていただいているが、正直言って人社の先生にお願いしている部分に関しては、あまり踏み込まないという意識が若干あるようだ。
- ・ 専門基礎科目の上に立って学部のカリキュラム (専門科目) を積み上げていくという 状態が現状となっている。
- ・ 専門基礎科目と専門科目のカリキュラム上のつながりということまでは、あまり工学 部内で議論をしてこなかったので、今後、フロー図を作りながら関連を明確にしてい きたい。
- ・ 専門基礎科目44コマのうち32コマを人社の先生にお願いしている状況なので、人 社の担当の先生との協力関係を深める必要があると思っている。
- ・ 再履修、再々履修の学生が必修科目ということもあり増えている。この問題をどうするかこれから考えていかなければならない。専門基礎科目を落とさないような履修指導をこの秋から推進することにしている。

(農学部)

資料5-1から、農学生命課程、動物科学課程及び獣医学課程が必修の専門基礎科目

がない。

- ・ 共生環境課程は、基礎数学と生物統計学を必修として課程全体として最低限数学と統計だけは勉強してから専門に進んでほしいというメッセージを送っている。
- ・ 土木系の私としては物理も必修にしてほしいのだけれども、学生には敷居が高いのか そこまでは至っていない。
- ・ このように、課程により専門基礎科目の扱いに違いがあり、農学部全体として、専門 基礎科目を理系の学生にとって最低限必要な科目として、ちゃんと勉強させなければ ならないというところまでの意思統一はできていない。単に専門科目の最初の科目と の意識が根強い。
- ・ それ対する反省として、専門基礎科目の位置づけをはっきりさせて必修化することを 考えたほうがいいんじゃないかという意見もあって、なかなかまとまり切らない状況 にある。
- ・ 今年、組織検討委員会の WG でも専門基礎科目についてや全学共通教育と専門教育のあり方の検討がなされているようなので、農学部の教務委員会としてもきちんと検討していきたいと思っている。

(工・農の比較)

- ・ 農学部は選択が多く、工学部は専門基礎のほとんどが必修。
- ・ 工学部の電気電子と情報は、改組で一緒になったとき、双方の共通集合をとったために、履修単位が他学科より少ない。農学部は特にいろいろな専門の分野の先生がいて 課程・コースの共通集合がとりにくく、コンセンサスが得られないのでは?と予想する。

(農学部補足説明)

- ・【〇〇学と〇〇学入門】:高校のときの勉強が不十分と思う学生には、入門と付いた 科目をそうでない学生には、入門が付いてない科目を取るようガイダンスしている。
- ・ 【基礎数学演習】:基礎数学入門の演習という位置づけではなく復習科目のような高校レベルの微積の演習を行っている。
- ・ この様にいろんな要素がごちゃごちゃに入っていて、もう少し整理したほうがいいの かなと思っている。

(工学部の専門基礎科目と工学基礎科目の違いは?)

- ・ 工学基礎科目は、専門により近い分類としている。
- ・ 高校時代の履修状況の違いへの対応は、例えば工学入門数学(化学、物理) I、Ⅱのようにいわゆる補習授業として高校の内容を集中的に1年次前期に教えている。ただし、単位としては認めるが、卒業要件には含めていない。

(担当教員の意見)

・ 以上の説明から工学部と農学部では、同じ専門基礎科目でもその位置づけや性格が違っている気がするが、その辺のギャップについて、両学部を担当する人社の先生はどの様に考えているか?あるいは、その辺は意識しないでどちらも理系の学生の基礎だと思うのか?

(人社:化学担当)

- ・ 化学担当の3名の教員がいるが、いままでの認識としては、工学部に対しては学部としての科目の意識はあまりなく理系学生として備えておくべき理系的素養として捕ら えている。
- ・ 工学部に対して、学科によらない工学部としての基礎的な素養とは、理系としての基礎的な素養とどの辺に違いがあるのか?どういうものが工学部の素養なのか。また、

より専門に近い工学基礎科目のように、領域を指定した科目(数学)があるが、化学 や物理の専門基礎科目に対しても要望する領域があるのかどうかを教えていただきた い。

(工学部)

・ 例えば工学部の化学と理系の化学と基礎のところでは違いはないと認識している。工 学部を出たということは、理系学部を出ているということで、化学なら化学の基礎を 身に着けてほしいし、物理、数学であっても最低限身につけてほしい点で、工学と理 系の明確な区別はない。

(人社:物理担当)

- ・ そもそも理系の基礎としてやろうとしてもコマ数としてはせいぜい2コマで、すべて の理系の分野をカバーできないという事情がある。なので、専門教育をやるときに専 門基礎科目として最低限何を優先的に教えてほしいのか具体的に示していただいたほ うが学生をあるレベルまで持っていこうとするときに教育プログラムとしてふさわし いものになるのではないか。
- ・例えば高校で物理自体を履修してきた学生が3割しかない。昔と違って共通基盤がないんだという前提に立って考えるしかない。そうした場合、カリキュラムを組むときにどのあたりに重点を置くかは教員によって考え方が違ってくるのはいたし方がない。理系基礎として大学としてあるべきと思う基盤があった方が、さらには学部の要望として明文化されたものがあった方が議論はしやすい。工学部に関しては、専門基礎の内容について違うものが要求されているとは思わないが、学科によって物理学 I、IIを課しているところと物理学のみのところがある。各学科として物理学のどういうところを教えてほしいのかその違いを知らせていただきたい。農学部は、工学部のような積み上げではなく選択必修のために例えば数学的素養がすっぽり抜けたままの状態で高年次に物理学を選ぶ可能性があり、それは学生にはかなりきつい状況となる。その辺をちゃんとガイダンスする必要がある。

(工学部)

- ・ 工学部として、これらの要望について、科目別懇談会等で踏み込んだ話をしたい。 (農学部)
- ・農学部は、物理や数学も(必修として)ちゃんとやったほうがいいんだという人とそうでない人がいてなかなか意思統一が難しい。以前は、「農学のための生物学」とか接続を意識した方法をやっていたときもあったがその後やめた。科目によって考えも違うのかもしれないが、農学部として努力しないといけないと思う。

(教育学部:化学担当)

・ 専門基礎科目として、できるできないではなく、ぜひやってほしいことを掲げて、なぜできないかを議論することが重要ではないか。例えば、高校では理科も選択制でベースがそろっていない。その上での専門基礎や専門教育になる。結局ばらばらの学力のまま一緒になってしまうので、専門教育の中で専門基礎の内容を繰り返して教えることにならざるを得ない。しかしそういう繰り返し(スパイラル)が必要だと思っている。(このことは教育学部では首尾一貫していると思うが。)この様に、こういうことで困っているということをもっとお互いに踏み込んで言い合うことも必要ではないか。

(人社)

私は、人社以外の学生にフランス語を教えているが、そこで感じるのは、エ・農の学

生は、非常に好奇心や意欲を持って授業を受けているということである。あくまで主眼をフランス語をペラペラに使いこなせるようになることを目的としたものではなく、語学を通じて違う文化・価値観に触れ、振り返って日本を見るという内容にしているが、学生は、そこに新しい科学技術を重ね、何が誰にとって便利なのかということを外国の価値観に触れたうえでわかってくることもあるのかなと思いやっている。学生の第2外国語をむしろもっとやりたいという意欲を常々感じている。

(学生のモチベーションを高め、教育効果の上がる具体的方策について)

- ・ 週2回の授業をして3ヶ月で15回終わらせる方法と現在のような週1回の授業をして半期で15回終わらせる方法があるが、もし、週2回とした場合に教える側、学ぶ側双方の立場で教育効果がどうなるのか伺いたい。
- ・ 週 2 回の授業をして 3 ヶ月で終えるほうが、学生は集中して出来るのでいいのではないか。多くの受講科目があって 1 週間開くと前のことを忘れてしまう。
- ・ 1年次の前のところで、例えば数学が出来るのであれば効果がある。
- ・ 微積をリンクしてやらないとたぶん教育効果はないのではないか。
- ・ やらせなければやらない学生には、なか6日でやりなさいというよりもなか3日でや りなさいと言った方が効果はある。担当する教員は大変になるが。
- ・ 専門基礎科目を全体のカリキュラムの中でどうしたいのか。議論を整理してきちんと 説明できるものがないと、単に組織の人数あわせのようになってしまって本来の目的 が消滅(科や課程によってバラバラになる)しかねない。
- ・ 今の学問の体系をそのままの前提として、ただ下ろすように学ばせるだけでは新たな 発展はない。こういう分野が伸びそうだとかもっと夢の部分を学生に伝わるような、 そのためにこの学問が必要なんですよと言うようなメッセージを含めた専門基礎科目 であったらいい。そうお願いしたい。
- ・ フォローする意見として、専門に(授業の方向性を)固定されない数学や物理があってもいい。単に専門の準備としての専門基礎ではない。

第4回「基礎ゼミ」情報交換会(メモ)

日時:平成23年12月26日(月)15:00~16:30

場所:学生センターA棟G29講義室

内容:

1 基礎ゼミ副読本の改訂について

○大学教育総合センター 山崎 憲治

- ・基礎ゼミの位置づけ ピアエデュケーション(導入教育)として、多くの大学で 初年時教育として、あるいはそれぞれの大学の特色作りということでも重視 されている。
- ・東北大学の取り組み例 学部横断で展開、総基礎ゼミ数158、2コマ連続や集中講義形式もある。学生の運営による基礎ゼミ成果発表会の開催など
- ・基礎ゼミにおける Good Practice と Bad Practice
- ・岩手大学の基礎ゼミを考える 学生にとって自ら発見する喜びに、教員にとって も教育力の向上となる。
- ・2つの方向性 学部を超え、範囲を広げる。学生主体の交流会。
- ・副教材「学びのはじめ」の全面改訂 学生・教員双方に使いやすいものへ改訂。 構成:岩手大学の教育の基本事項(目的、特色、期待)、アカデミックスキル (ノート、レポート、プレゼン、ディスカッション)、自主学習の進め(図書館、ミュージアム、レファランス)、ソーシャルスキル(健康、人権、キャリア、eメール、ボランティア)
- ・最後に 基礎ゼミは、初年次教育の核。導入教育3つの側面(全学教育への導入、 専門教育への導入、大学教育への導入)の実現。5年が経過し見直しの検討 が必要。そのひとつとして副読本の全面改訂。

2 各学部「基礎ゼミ」の取組紹介(各学部1名から実施内容の事例報告)

- 〇人文社会科学部:山本昭彦
 - ・基礎ゼミを始めて約10年、20クラスでそれぞれの教員がテーマを決めシラバスに 提示する。
 - ・学生は、初回にそれらの中から第4希望まで選択の上、提出しクラス分けを行う。
 - ・第1、第2希望でクラス分けができるように、情報科学の教員が開発したシステムを利用している。
 - クラスサイズは、4~15人
 - ・ゼミの内容については、自ら課題を発見して探求する能力、自分の意見を持ち発表する能力、他人の意見を聞いて討論する能力、互いに学びあうことなどの向上を目指し、 基本的に各教員にまかされている。
 - ・自分の場合でいえば、テーマを「ミュージアムを考える」とし、公共性、社会的財産 について、被災した文化財はどうなるか、廃れ行く民俗芸能をどうするか等の課題を設

定した。

- ・5 年毎の持ち回りで担当、同じ内容でもその時の学生によって興味の持ち方が違う。 学生の反応を見ながら進めている。
- ・テーマの例:「現代日本の社会と暮らしを考える」「スポーツから学べること」「自然環境中に存在する環境汚染物質についての調査」「働くこと」「日本語」「ソーシャルメディアの現在と未来」「心は何処までわかるか」「自爆テロ」「環境問題」「日本人と異界」「エネルギー問題について」「生と死の決断を問う」「言葉について考える」「ニュースから学ぶ、ニュースを論じる」「米国研究」「ドイツの現代の10の出来事」等
- ・副読本「学びのはじめ」はもちろんだが、私立大学等で広く使われている「知へのス テップ」を活用している先生もいる。
- ・これらを使いながら、調べ方、図書館の利用の仕方、発表の仕方を中心に教える先生 もいれば、ある分野への興味・関心を引き出すことを中心にする先生や学問的サポート として論文の読み方、探し方に中心を置く先生もいて、かなり自由に行っている。
- ・これらのことに関する反省、検証の場は、コース内や教務委員会にとどまり、あまり 無いのが現状である。

【質問】成績評価のガイドラインの検討状況は?

・話し合いという形では行われていないが、学期の最初にA4版1枚の形で配った。 成績評価の指針としては、基礎ゼミへの参加・出席、自主的な学習態度、学習への積極 性・意欲、論理的思考力、自己表現能力、問題点の理解能力、課題探求能力、文章構成 能力を配慮して評価する。

○教育学部:天木 桂子

- ・自身が担当する基礎ゼミ「ライフ・スキル」について
- ・日常生活で起こりうる様々な場面にどのように対処すれば良いか、学生たちが話 し合いながら学んでいく。
- ・友人関係、親子関係、学校生活、社会生活、家庭生活のなかで自分に起こりうる 具体的なシーンを毎回1タイトル想定し、「こんなときあなたならどうしますか?」 と問いかけ自分の体験や考えを出し合いながら最も適切な方法を見つけていく。
- ・場面設定として、アメリカの小中学校の家庭科の教科書(英語)を利用している。
- ・日本語の教科書では、ダイレクトに入りすぎてうまくいかなかった。
- ・最初に基礎ゼミのメンバー同士の名前を90分かけてとにかく覚えることをやる。
- ・そうすることによって、その後のグループ活動においてコミュニケーションやリ ーダーシップを発揮しやすくなる。
- ・2時間目に全体の説明。以降の内容は、
- 「No!」の言い方を学ぶ ピア・プレッシャーへの対処
- ・「意思決定」を学ぶ 迷った時にどうするか、選択への対応方法、ファイブステップスの活用(最良の選択のために)
- ・「人との付き合い」を学ぶ 親との関係、友達との関係
- 「異性との付き合い」を学ぶ セクシャル・アクティビティの考察
- ・「ポジティブ・シンキング」を学ぶ ネガティブになったときどうやって克服し てゆくのか

・「働くことの意味」について学ぶ

○工学部:鈴木 正幸

- ・工学部は、学生の基礎ゼミに対する評価が低い。
- なぜか。前の2人の話を聞いてなるほどなと思った。
- ・委員会として見直しを行い問題点について各学科に文書を配っている。改善の検 討を求めてはいるが学科での議論は必ずしも熱心にならない。
- ・改善の事項として 内容の見直し、教員の意識を高める、スチューデント・アシスタントの活用、評価基準の統一等の問題提起を行った。
- ・学科からの報告事例としては 基本的に大教センターから言われたことをきちんとやっている。

【事例紹介】

- ・まず、全員で校内の案内、副読本「学びのはじめ」を利用して授業ノートの取り 方、環境マネジメントのDVD視聴、研究室紹介、班分け、テーマが与えられ情報 検索をして成果発表会を行う。まさにメニューどおり。
- ・(評価について)チャートで見ると良く見えるが、点数化すると低い。
- ・学科からの改善意見としては、学生の興味に注視する、授業ノートの取り方の必要性が低い(かける時間が少ないためか)、情報検索の共同作業の難しさがある。
- ・リテラシーを教えることについて、書いてあること、それで正しいのかよくわからない(自分で納得していない)ところがある。個人(専門)的なことは教えられるが、ジェネラルなところは教えられているのか自信が無い。そこが問題か。
- ・4年生と1年生にペアを組ませて、1対1でテーマを与えてやるのは、割といいかなと思う。
- ・成績(5段階評価)は付けなければならないのか。合・否ではだめなのか。

○農学部:原科 幸爾

- ・農学部は、5つの課程ごとに基礎ゼミが行われている。
- ・共生環境学課程では、1年生60人を3名の担任教員で担当している。
- ・3つのコースごとに担当する。この3人が全体のコーディネートをする。
- ・合宿では、全教員が参画する。
- ・先ほど人社の先生や教育の先生のやり方を聞いて、ずいぶん考え方が違うなと思いカルチャーショックを受けた。
 - ・試行錯誤をしながら、ゼロからはじめたという状況。

【内容】

- ・ガイダンス 写真撮影をして顔写真付の名簿を作成する。コミュニケーションをとる 上で重要な役割を果たしている。
- ・EMSのDVDの視聴
- ・キャンパスガイド 班編成 (12班/5人) を行いキャンパス生活関連ガイドの取材 をしたり、学長インタビューをしたりする
- ・グループ学習 班毎にテーマを選択して、中間発表、最終発表を行う。
- ・合宿 教員とのコミュニケーション、学生間のクラス形成、二日目中間発表

- ・レポートの書き方 基本的なレポートの書き方を教える。添削は、全教員で1人2、 3名分を添削する。A4版2ページ 2回提出2回添削(レポートの添削チェックシートを使って標準化を図っている)
- ・最終発表会パワーポイントを使って発表、採点し上位者を表彰

【感想及び今後の課題等】

- ・試行錯誤を重ねノウハウができ、徐々に形になってきた。
- コミュニケーションが大事
- ・グループ学習では、テーマとしてジェネラルなこと(「岩手の偉人を調べる」のような)より専門的なことの方が、学生の興味や実質的なアドバイスができて効果が高いと感じた。
- ・合宿、発表会、添削に全教員に参加を義務付けているので、教員の負担感がある。負担を低減するのが今後の課題。

【質問】課程によって違うのか?

- ・課程によって違う。当初より課程ごとに行っている
- ・ 班の担当は決まっているのか?
- ・決まっていない。テーマ毎に担当する

○資料について

- ・基礎ゼミの教育目標・転換教育科目の教育目標について確認した。
- ・平成22年度基礎ゼミナール情報交換会メモについて確認した。
- ・基礎ゼミ副読本の改定について(発表のとおり)
- ・基礎ゼミナール授業アンケートの結果について確認した。
- ・初年時教育アンケート集計結果について確認した。
- ・休学者・退学者数の推移について確認した。

3 情報交流

- ○転換教育について
 - ・人社では、環境DVDの視聴も共通に行っている。また、基礎ゼミとは別に1年 生に対する新入生合宿を行っていて、教員との接触や学生同士の知り合いの場と している。
 - ・確かに、転換教育は基礎ゼミに限らず総合的に考えなければいけないのではないか。また、現在、学部・学科に任せている基礎ゼミを全学的なものにする必要があるのか考えたい。
 - ・農学部の1年生対象の農場実習も転換教育に位置付けられるのでは。

○成績評価比率について

- ・成績評価基準やガイドラインの見直しをすることによって、基礎ゼミの見直しの きっかけとなるので、各学部の教務委員会にガイドラインの策定・見直しをお願 いしたい。
- ・成績評価ガイドラインの有無

人社:作成している。 (前述のとおり)

教育:無

工:学科毎に作っている。(出席を重視している)

農 :無(主に担当教員にゆだねられている。)

- ・(100%秀としていることについて)相対評価ではないので否定はできないが、 それがいいのかどうなのかという意見はある。
- ・実質的な合・否でいいのかそれとも成績評価の厳格化との兼ね合いで、基準を設けた5段階で評価すべきなのかそろそろ整理する時期ではないか。
- ・そもそも初年次の転換教育であるから、参加しただけで十分評価されるとの判断 が多いのではないか。
- ・このことについて、専門教育等連携部門会議において検討し情報を共有したい。

○初年時教育アンケートについて

・来年度も同様の内容で実施し、基礎データを蓄積する。

○基礎ゼミの全学的課題への取り組みについて

- ・5年が経過したので、全学的な観点からどうあるべきかの議論を始めるべきではないか。
- ・全学的合意が無いままに現在に至っている。学部・学科等にお任せで大学の方針として確たるものが無い。
- ・共通的なものをどのように教えたらいいのか分からないと言う不安(自信が無い)がある。
- ・教員の求める期待としての教育の効果を実感できないと負担感だけが残る。
- ・まずは、各学部で検証・議論をして、まとまってきたらそのあと全学の議論に持っていくのがいいのではないか。

平成23年6月

各 位

大学教育総合センター 専門教育等連携部門長 西 谷 泰 昭

平成23年度初年次教育アンケート集計結果の配布について

大学教育総合センターでは、新入学生に対して初年次教育アンケートを実施いたしました。今年度のアンケートは、自主的な回答としたため回収率が低い値となりましたが、傾向としては、昨年度と同様であり、「読書は好きであるが、文章化・プレゼンテーションは苦手」と学生像が見て取れます。1年次学生の授業を担当される先生方の参考にしていただきたく、アンケートの集計結果を配布いたします。

なお、学科・課程毎の集計結果は、回収率が低いため統計的な意味がないと判断し除きました。

昨年度の新入学生については、入学時と1年次終了時の変化を見るために、ほぼ同じ内容のアンケートを2回実施しました。その結果、得意/苦手という学生の意識に若干の変化を見ることができました。具体的には、文章化、プレゼンテーションを苦手と考える学生は減少していますが、表・グラフ作成、PCの使用については増加しています。一方、得意と意識している学生は、これらのスキル全般について減少しています。このような傾向に対して、文章化、プレゼンテーションの機会を今後も学生に与えること、表・グラフ作成、PCの使用については苦手意識を持たせないことが大事だと考えています。

昨年度のアンケート結果については、4月に皆様に配布しているところですが、今年度 の集計結果を見ていただく上で参考になると考え、昨年度の結果も併せて配布いたします。

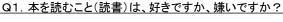
平成23年度 新入生アンケート 回収率

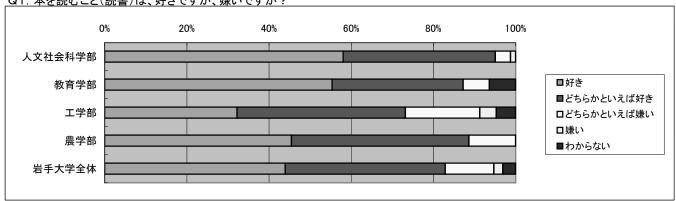
		H23.5現員	回答者数	回収率
	人間科学課程	42	15	35.7%
	国際文化課程	79	34	43.0%
人文社会 科学部	法学·経済課程	76	19	25.0%
	環境科学課程	33	13	39.4%
	計	230	81	35.2%
	学校教育教員養成課程	171	32	18.7%
教育学部	生涯教育課程	55	9	16.4%
教育于即	芸術文化課程	44	6	13.6%
	計	270	47	17.4%
	応用化学・生命工学科	85	35	41.2%
	マテリアル工学科	71	8	11.3%
工学部	電気電子・情報システムエ 学科	145	37	25.5%
工于即	機械システム工学科	90	63	70.0%
	社会環境工学科	70	6	8.6%
	計	461	149	32.3%
	農学生命課程	61	9	14.8%
	応用生物化学課程	43	7	16.3%
農学部	共生環境課程	60	17	28.3%
辰 子叩	動物科学課程	32	3	9.4%
	獣医学課程	31	8	25.8%
	計	227	44	19.4%
	総合計	1,188	321	27.0%

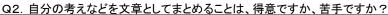
※入学式関連の資料と併せて配付し、回収ボックスを設けて回収(5/6~5/13)

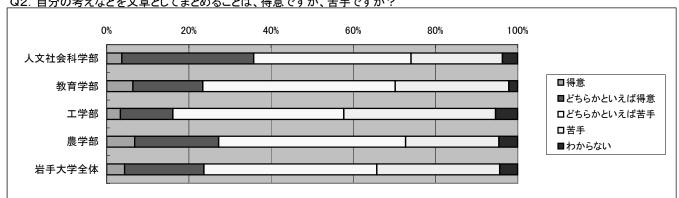
平成23年度 新入生アンケート集計(学部)

(H23)		(21. 読				(22. 文章	章			C	33. 発表	ŧ	
	好き	といえば	どちらか といえば 嫌い	嫌い	わからない	得意	といえば	どちらか といえば 苦手	- ┃ ┃ 苦手 	わからない	得意	どちらか といえば 得意		苦手	わからない
人文社会科学部	58.0%	37.0%	3.7%	1.2%	0.0%	3.7%	32.1%	■ 38.3%	■ 22.2%	■ 3.7%	1.2%	23.5%	27.2%	43.2%	4.9%
教育学部	55.3%	31.9%	6.4%	0.0%	6.4%	6.4%	17.0%	46.8%	27.7%	2.1%	6.4%	19.1%	36.2%	36.2%	2.1%
工学部	32.2%	40.9%	18.1%	4.0%	4.7%	3.4%	12.8%	41.6%	36.9%	5.4%	4.0%	9.4%	38.3%	43.6%	4.7%
農学部	45.5%	43.2%	11.4%	0.0%	0.0%	6.8%	20.5%	45.5%	22.7%	4.5%	4.5%	11.4%	40.9%	43.2%	0.0%
岩手大学全体	43.9%	38.9%	11.8%	2.2%	3.1%	4.4%	19.3%	42.1%	29.9%	4.4%	3.7%	14.6%	35.5%	42.4%	3.7%

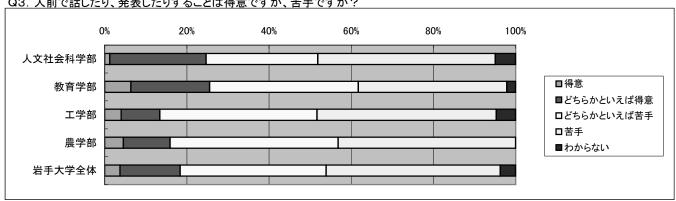






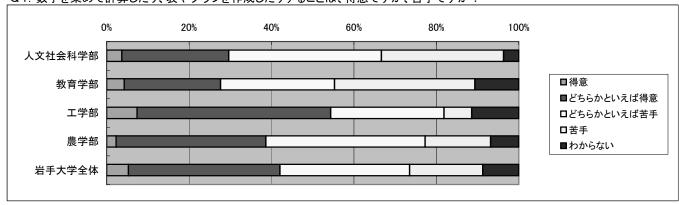


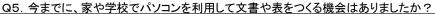
Q3. 人前で話したり、発表したりすることは得意ですか、苦手ですか?

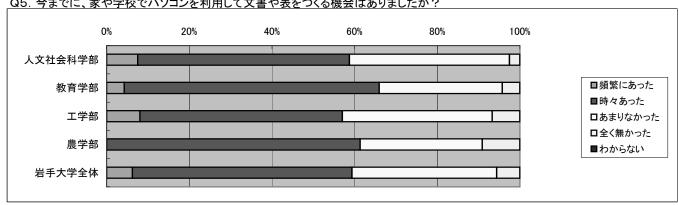


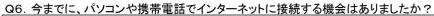
(H23)		Q4.	.表やグ	゚ラフ			Q5	5. パソ:	コン			Q6	インター	ネット	
	得意	といえば	『どちらか』 『といえば』 『苦手		わからな い	頻繁に あった	時々あっ た	あまりな かった	全く無 かった	わからな い	頻繁に あった	時々あっ た	あまりな かった	全く無 かった	わからない
人文社会科学部	3.7%	25.9%	37.0%	29.6%	3.7%	7.5%	51.3%	38.8%	2.5%	0.0%	70.4%	21.0%	7.4%	1.2%	0.0%
教育学部	4.3%	23.4%	27.7%	34.0%	10.6%	4.3%	61.7%	29.8%	4.3%	0.0%	74.5%	23.4%	2.1%	0.0%	0.0%
工学部	7.4%	47.0%	■ 27.5%	6.7%	11.4%	8.1%	49.0%	36.2%	6.7%	0.0%	72.5%	16.8%1	10.1%	0.7%	0.0%
農学部	2.3%	36.4%	38.6%	15.9%	6.8%	0.0%	61.4%	29.5%	9.1%	0.0%	59.1%	38.6%	2.3%	0.0%	0.0%
岩手大学全体	5.3%	36.8%	31.5%	17.8%	8.7%	6.3%	53.1%	35.0%	5.6%	0.0%	70.4%	21.8%	7.2%	0.6%	0.0%

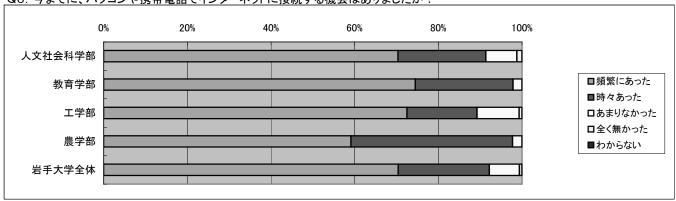
Q4. 数字を集めて計算したり、表やグラフを作成したりすることは、得意ですか、苦手ですか?











新入生アンケート

このアンケートは、みなさんが大学での学びにスムーズに移行できるように進めている取組の一部として実施するものです。無記名ですので、率直に答えてください。記入して5月13日までに、中央掲示板前の回収箱に投図してください。 該当する項目の 〇 を塗りつぶしてください。

あなた	について教えてく	ださい。性別と学籍	番号の左から3桁 (学	一部、学科・課程)	を塗りつぶしてください。
		(例 人文社会	科学部環境科学課程 201	1入学 51番 → 4.1	411051)
性	30:	〇 男 〇 女			•
学	籍番号 1 桁目:	0 1 0 2	0 3 0 4		•
	2桁目:	0 1 0 8	○ 0(ゼロ)		•
	3桁目:	0 1 0 2	0 3 0 4	0 5 0	6 0 7
		• •	• •	• •	• •
Q1.	本を読むこと(詞	売書)は、好きです	「か、嫌いですか?		
	好き	どちらかと	どちらかと	嫌し)	わからない
		いえば好き	いえば嫌い		
	0	0	0	0	0
Q2.	自分の考えなどな	を文章としてまとめ	ることは、得意です	か、苦手ですか?	
	得意	どちらかと	どちらかと	苦手	わからない
		いえば得意	いえば苦手		
	0	0	0	0	0
Q3.	人前で話したり、	発表したりするこ	とは得意ですか、苦	手ですか?	
	得意	どちらかと	どちらかと	苦手	わからない
	_	いえば得意	いえば苦手	_	
	0	0	0	0	
Q4.	数字を集めて計算	算したり、表やグラ	うフを作成したりする	ことは、得意です	か、苦手ですか?
	得意	どちらかと	どちらかと	苦手	わからない
	\cap	いえば得意	いえば苦手	\cap	
	U	U	Ü	U	U
Q5.	今までに、家や	学校でパソコンを利	川用して文書や表をつ	くる機会はありま	したか?
	頻繁にあった	時々あった	あまりなかった	全く無かった	わからない
	0	0	0	0	0
Q6.			′ンターネットに接続		
	頻繁にあった	時々あった。	あまりなかった	全く無かった	わからない
	\bigcirc	\bigcirc	O	()	\bigcirc
	•	•	•	•	_
	•	•	•	•	•

ご協力、ありがとうございました。

岩手大学と放送大学との教育協力型単位互換指定科目:平成24年度分

							(2012.1.5版)
科目分類 科目名(岩手大学)	科目分類 科目名(放送大学)	メディア	受講者数	学	受講曜日 時間	活動目的及び理由等	補助教員等
共通基礎:外国語	共通基礎:外国語	T V / R	09	前・後期	自由視聴	時間割上の制約の解消(平成19年度以 降入学生の再履修への配慮)	なし
教養:人間と自然 「生命のしくみ」	共通:一般:自然系 「人体の構造と機能('12)」	ТV	10	後期	水9・10	生命科学分野科目の充実	岩手大学 TA
教養:高年次課題 「高年次課題科目特別講義 II (問題解決の進め方)」	基礎科目 「問題解決の進め方 (' 12)」	ΤУ	10	後期	木3・4	ESD関連科目の充実	岩手大学 江本 理恵
専門:人社:国際文化 「文化記号論IV」	大学院科目: 文化情報学プログラ ム 「21世紀メディア論('11)」	ТΥ	10	後期	金3・4	人文社会科学部での文化論関連科目の充実	岩手大学 後藤 尚人



学生支援部門

学生支援部門会議委員名簿

(平成 23 年 4 月 20 日)

	氏 名	担当部局等
部門長	栗 林 徹	教育学部
	白 倉 孝 行	人文社会科学部
兼務教員	上 濱 龍 也	教育学部
(各学部学生委員会選出教員)	土 岐 規 仁	工学部
	伊藤幸男	農学部
	菊 池 孝 美	人文社会科学部
 学部選出教員	菊 地 悟	教育学部
子	一ノ瀬 充 行	工学部
	溝 田 智 俊	農学部
学生支援課長	佐藤祐一	学務部

活動報告

部門長 栗 林 徹

東日本大震災被災学生への経済支援を実施

東日本大震災で被災した学生の皆さんの修学支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、寄宿料の免除、岩手大学独自の奨学金の給付などの経済支援を行いました。

入学料免除者は95名、授業料免除者は369名となり、他の経済支援と併せ支援に要した金額は2億円を超えるものとなりました。

復興支援ボランティア活動の単位化を実施

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の復興にあたるボランティア活動について、活動の 評価と継続的活動を推進するために単位認定することになりました。

単位は、「コミュニティーサポート実習」として認定されることになり、ボランティアの継続的活動が期待されます。





ボランティア促進イベントの開催

復興支援ボランティア活動の単位化と合わせ、継続的なボランティア活動を支援するために ボランティア促進イベントを次のとおり開催しました。

イベントでは、講話と併せてボランティア活動を行っている各サークル等の活動状況が報告 され、各団体の情報が共有される良い機会となりました。

1 回目 平成 23 年 7 月 28 日 (木) 15 時~

講話「東日本大震災とボランティア活動の役割」

講師:岩手大学教授 玉 真之介

2 回目 平成 23 年 11 月 28 日 (金) 15 時~

講話「ボランティアに今、何が求められているのか」

講師:岩手大学教育学部教授 名古屋 恒彦

Let's びぎんプロジェクトの実施

Let's びぎんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1件あたり50万円を上限に経費を支援しています。

平成23年度は、審査の結果、6件を採択し、支援を行いました。

保健管理センター教員と担任教員との連絡会

保健管理センター教員から担任教員へ被災学生の心理的影響と今後の対応等について、情報 を提供するとともに、学生指導を行う上での留意点等について意見交換を行いました。

日 時:平成23年9月2日(金)13:00~15:00

場 所:学生センターB棟多目的室

学生指導担当教職員研修会及び課外活動サークルリーダーシップセミナーの実施

11月19日(土)に、平成23年度の学生指導担当教職員研修会と課外活動サークルリーダーシップセミナーを国立岩手山青少年交流の家で実施しました。

【学生指導担当職員研修会】

ワークショップ:「学生指導のあり方」、「学生特別支援体制」

教職員参加者数:32名

【課外活動サークルリーダーシップセミナー】

ディスカッション:「サークル活動の活性化と新入生の勧誘について」

サークルリーダー参加者数:95名(32団体)

【教職員と学生のための講演会】

東北厚生局麻薬取締部捜査課長を講師として、薬物乱用防止をテーマとする講演会を開催しました。若者を中心に広がりつつある薬物乱用の恐ろしさを認識する良い機会となりました。

第54回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の実施

東日本大震災の影響で実施が延期されていた第54回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を平成23年10月1日(土)に行いました。

今回からサークル対抗の部を新設しての開催となり、団体の部では農学部が、サークルの部では走友会が優勝しました。参加者:学生89名、教職員6名









駐輪指導の実施

構内環境整備と交通ルールの周知を図るために平成23年度も春と秋の2回駐輪指導を行いました。

指導は、学生支援部門の委員と学生支援課職員、学生議会運営委員会委員が協働で行い、マナーの向上に努めました。

学長と学生との懇談会の開催

平成23年度は、次のとおり3回開催し、学長にとっては学生の生の声を聞く機会となり、学生にとっては学長と直接話せる貴重な機会となり、双方にとって有意義なものとなりました。

第1回:平成23年6月8日(水)

『第35回ガンチョンタイム』において、テーマを「岩手大学長と語ろう」として開催

第2回:平成23年11月19日(土)

国立岩手山青少年交流の家で実施したサークルリーダーシップセミナーでの交流会で サークル代表者と活発な意見交換を実施

第3回:平成24年3月2日(金)

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生 24 名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選択した理由、岩手大学に入学して良かったこと」として実施

上田地域活動推進会と学生との懇談会

平成24年1月31日(火)に初めて大学周辺の町内会の組織である上田地域活動推進会の皆さまと学生代表(学生4団体、環境マネジメント、学生寮)とが意見交換を行いました。

町内会からは、岩手大学を誇りに思っていることや社会人としてのマナーの徹底や学生の積極的な町内会活動への参加が要望され、学生にとっては地域の皆さまが日頃どのような気持ちで岩大生を見てるかが直接分かる貴重な機会となり、双方で継続的な開催の必要性を確認しました。







寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成24年2月20日(月)の自啓寮を皮切りに、4寮の寮生と学生指導担当教職員とが初めて寮運営の在り方について意見交換を行いました。

快適な寮生活の実現に向けて大学側と寮生側とも目指すところは同じであり、懇談会の継続 的開催の必要性を確認しました。

第二課外活動共用施設の供用開始

課外活動共用施設の西側にサークル共用室4室、音楽練習室2室、倉庫2室からなる2階建ての第二課外活動共用施設が完成し、平成23年12月からサークル活動に供用されています。これによりサークルの練習場所の不足状態が緩和され、一層のサークル活動の活性化が期待されます。





学生特別支援室が完成

平成24年3月に学生センターA棟2階に身体や発達などの障がいを持つ学生の修学支援にあたる学生特別支援室が完成しました。

部屋には、拡大読書器、画面拡大機能付きパソコン、筆談用磁気ボード、電子メモパッド、 ノイズキャンセリングヘッドフォンなどの設備を整えて、専任のコーディネーター1名を常駐 させて支援にあたっています。また、コミュニケーションルームとしての機能も有しており、 支援が必要な学生の居場所としての活用も期待されています。





学生表彰の実施

平成24年3月15日(木)に平成23年度学生表彰を行いました。

平成23年度は、学長賞は個人12名、団体2団体、奨励賞は個人11名、団体1団体に授与し、授与された中には、本学から初めてプロ野球ドラフト会議で指名された者やNHK全国大学放送コンテントアナウンス部門1位、土光杯全日本青年弁論大会最優秀賞受賞者の他、東日本大震災震災のボランティア団体も含まれており、多彩な顔ぶれとなりました。



平成23年度 岩手大学学生表彰者名簿

学長賞 (個人)

No.		氏	名		所属等	推	薦	者	表彰理由
1	荒	Ш	峻	之	平成23年度入学 工学研究科機械シ ステム工学専攻	ステノ	研究科 公工学専 佐々オ	厚攻	・日本生体医工学会・生体医工学シンポジウム 2011において「舌骨上筋群の協調運動を利用した舌運動推定法」により、ベストリサーチアワード 賞受賞
2	大	井	崇	人	平成20年度入学 工学部応用化学科	生命	部応用 [。] 工学科 成田勞		・第9回木質炭化学会全国大会で「コーン炭化物による重金属の固定化」の発表で研究部門優秀発表賞受賞
3	笹	岡	文	菜	平成19年度入学 農学部獣医学課程	程	部獣医	学課	・動物の伝染性貧血の病原体とされるヘモプラズマのリボヌクレアーゼP RNAの二次構造について研究し、本分子の特定領域に見られる回文様塩基置換に基づいて、この病原体の分類同定が可能であることを世界で初めて明らかにし、日本細菌学会東北支部大会で口頭発表するとともに、日本獣医学会誌に英文論文「Rapid Identification of Hemoplasma Species by Palindromic Nucleotide Substitutions at the GAAA Tetraloop Helix in the Specificity Domain of Ribonuclease P RNA」が掲載された。・(独)日本学生支援機構優秀学生顕彰において学術分野の奨励賞受賞
4	横	Щ	拓	矢	平成18年度入学 農学部獣医学課程	程	部獣医		・第152回日本獣医学会学術集会において 「ラット頸動脈小体におけるセロトニン関連分子 の形態学的基盤」の発表で日本獣医解剖学会 奨励賞(学生部門)受賞
5	斎	藤	大	輔	平成23年度入学 教育学研究科教科 教育専攻	教育	競技部!学部准		・2011日本学生陸上競技個人選手権大会男子 三段跳び(H.23/6/17~19)8位入賞
6	藤	沢	沙也	加	平成21年度入学 教育学部生涯教育 課程スポーツ教育 コース専攻	教育	競技部 学部准 龍也		•天皇賜盃 第80回日本学生対校選手権大会 女子200m (H.23/9/9~11)6位入賞
7	阿	部	友	美	平成21年度入学 教育学部生涯教育 課程スポーツ教育 コース専攻	教育	競技部!学部准		•2011日本学生陸上競技個人選手権大会女子 10000m競歩(H.23/6/17~19)6位入賞
8	讵	橋	英	輝	平成23年度入学 教育学部学校教育 教員養成課程	教育	競技部!学部准:		・第95回日本陸上競技選手権大会 男子・女子 20km競歩 兼 第30回オリンピック競技大会 (2012/ロンドン)代表選手選考競技会(H.24/2/ 19)8位入賞
9	111	浦	翔	太	平成20年度入学 教育学部生涯教育 課程スポーツ教育 コース専攻	硬式!! 副学: 西崎	野球部: 長 滋	部長	・4年間硬式野球部の主戦投手として、北東北大学野球リーグにおいて全80試合中72試合に登板し、投球回数544回、35勝28敗、奪三振400,防御率1.85の輝かしい成績を残した。今年のプロ野球ドラフト会議で、福岡ソフトバンクホークスより育成3位指名を受けた。

平成23年度 岩手大学学生表彰者名簿

10	関	向	良		教育学部	放送研究部顧問 人文社会科学部 教授 丸山 仁	・第28回 NHK全国大学放送コンテスト アナウンス部門 1位
11	松	田	敬	子	平成23年度入学工学研究科博士前期機械システム工学専攻		•第28回土光杯全日本青年弁論大会 最優秀賞
12	佐	藤	将	太	平成22年度入学 連合大学院連合農 学研究科生物資源 科学専攻	連合農学研究科 長 上村 松生	・第11回全国障害者スポーツ大会 走り幅跳び2位

学長賞(団体)

No.	団 体 名	推薦者	表彰理由
1	学生震災ボランティア 「もりもり岩手」	学務部長 山中 和之	・被災地での震災ボランテア活動による地域貢献に対して
2	学生震災ボランティア 「天気輪の柱」	学務部長 山中 和之	・被災地での震災ボランテア活動による地域貢献に対して

奨励賞 (個人)

No.	氏	名	所属等	推薦者	表彰理由
1	今 野	仁 栄	平成23年度入学 工学研究科フロン ティア材料機能工学 専攻	工学部 応用化学·生命工 学科 教授 成田 榮一	・平成23年度日本セラミックス協会東北北海道 支部研究発表会において「薬剤/層状複水酸 化物ナノ複合体の合成と薬剤の放出挙動」の題 目で優秀発表賞受賞
2	佐々木	: 聡也	平成20年度入学 教育学部 学校教育教員養成 課程	教育学部 理科教育科教授 八木 一正	•東北理科賞・学生研究奨励賞受賞
3	和田	夏 海	平成22年度入学 農学部 獣医学課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・2011年少林寺拳法かながわオープン大会 一般女子初段の部 3位(優良賞)
4	川名	悠 加	平成22年度入学 農学部 獣医学課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・2011年少林寺拳法かながわオープン大会 一般女子初段の部 3位(優良賞)
5	宮崎	真由美	平成22年度入学 教育学部 学校教育教員養成 課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・第44回少林寺拳法東北学生大会 女子単独 演武の部 1位
6	菅 野	美真	平成23年度入学 工学部 マテリアル工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・第44回少林寺拳法東北学生大会 段外単独 演武の部 1位
7	兼平	显示	平成21年度入学 教育学部 学校教育教員養成 課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	·第44回少林寺拳法東北学生新人大会 優秀 賞 運用法(男子)

平成23年度 岩手大学学生表彰者名簿

8	今 川	来	望	平成22年度入学 人文社会科学部 法学·経済課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	·第44回少林寺拳法東北学生新人大会 優秀 賞 運用法(女子)
9	一條	利一	郎	平成23年度入学 人文社会科学部 法学·経済課程	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・第44回少林寺拳法東北学生大会 男子段外 の部 1位
10	岸	衛	輔	平成23年度入学 工学部 機械システ ム工学専攻	少林寺拳法部顧問 教育学部教授 新妻 二男	・第44回少林寺拳法東北学生大会 男子段外 の部 1位
11	見世	尚	久	平成20年度入学 工学部機械工学科	アメリカンフット ボール部顧問 研究協力課地域 連携主幹 早川 浩之	・2011年度第36回東北学生アメリカンフットボールリーグ戦 最優秀ディフェンス賞受賞

奨励賞 (団体)

No.	団 体 名	推薦者	表彰理由
1	弓道部	弓道部顧問 工学部准教授 向川 政治	・第51回東北地区秋季学生弓道大会 I 部リー グ戦 団体優勝



キャリア支援部門

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成23年7月1日)

	氏 名	担当部局等
部門長	安 田 準	農学部
	宮 本 ともみ	人文社会科学部
兼務教員	大河原 清	教育学部
(各学部就職委員会選出教員)	西谷泰昭	工学部
	古賀潔	農学部
キャリア支援課長	大 内 正	学務部

活動報告

部門長 安田 準

「キャリア支援部門会議」

平成23年4月21日に第1回会議を開催し、平成24年3月15日までに6回の会議を開催した。 恒常的なキャリア支援・就職支援事業の審議事項に加えて、3月に発生した東日本大震災の被災学 生の就職支援方法や対策などについても審議した。

また、採択されて2年目を迎えた「大学生の就業力育成支援事業」の実施についても、実施計画を確認しながら取り組んだ。大学の情報公開の一環として学生の保証人向けに、就職支援状況を伝える必要を感じて、全学共通教育後接会会報に学内就職ガイダンス等の開催実績を紹介し、学生にとって進路・就職選択の助言者として最適な存在である保証人に、理解と協力をお願いした。

「新入生のキャリアガイダンス」

4月の新入生を対象にした学部ごとの「キャリアガイダンス」では、社会人になった卒業生が出演して「大学時代の過ごし方」を語りかけるDVDの視聴や、説明資料として作成したリーフレットを活用して、卒業後のキャリアを考えた大学での修学や、課外活動の大切さを理解してもらい、有意義な大学時代を過ごす意識付けの機会とした。

「キャリア教育科目」

授業としてのキャリア教育科目は、前年同様に3科目を開講した。

特に、今年度からは、「大学生の就業力育成支援事業」を意識して、内容を一部改善して構成した。「キャリアを考える」では、自分の人生の目的と手段を探求し、目標に向かって充実した大学生活を送るためのキャリア形成プランを作成する。授業では、自分と向き合う時間の導入、先輩からの情報提供、親へのインタビュー及び産業界の経営手法等を取り入れて進めた。

「地場産業・企業論」は、岩手県立大学との共同開講で、前期の土曜日に行う集中講義とした。 両大学学生のグループワーク形式で、地元企業の人事担当者や地元産学官の多彩な講師陣の講義及 び実際に県内企業を訪問することで、企業をフィールドとした学習により、学生は企業研究の方法 を習得し、企業は企業活動の情報を発信する機会とした。

「知財ワークショップ:地場産業ブランド論」は、後期の土曜日に行う集中講義で、知財ワークショップにキャリア教育の要素を取り入れ、地元ブランドの魅力探求、地元定着のために課題整理を行い「持続可能な地域づくり」を考えた。

「卒業生と学長との懇談会」

6月25日(土)には、今年で4回目となる「卒業生と学長との懇談会」を、札幌市「KKRホテル札幌」を会場に120名の卒業生・修了生が参加して開催した。

今年度から、主催が岩手大学から岩手大学後援会連合に代わったことに伴い、情報提供の内容が 大学の教育・研究活動全般にわたるため、開催事務担当もキャリア支援課から総務企画部企画調査 課に交替した。北海道地区の企業訪問出張の日程を懇談会の日程と調整を図り、懇談会に参加して、 会場準備や進行について業務の引継ぎを行った。

「学内企業合同説明会」

学内企業合同説明会は、平成23年度の卒業予定者で就職未内定者を対象にして、9月27日(金)に52社の企業の参加と延べ学生69名が参加して開催した。平成24年度の卒業予定者を対象した企業説明会は2回開催し、1回目は、12月10日(土)に冬季合説として115社の企業が参加し、学生も延べ1,719名が参加して開催した。また、2回目は、春季合説として1月12日(木)・13日(金)の大学入試センター試験の実施準備に伴う全学休講日に開催し、244社の企業の参加と延べ2,100名の学生が参加した。昨年度に引き続き、平成24年度の卒業生を対象とした2回の企業説明会では、北東北国立3大学の連携として、弘前大学・秋田大学及び岩手大学で開催する企業説明会に、お互いの大学に在籍する学生が参加できるように企画し、本学からも説明会の情報提供と学生へ参加を呼びかけた。

なお、1月の春季合説では、企業の説明時間にターム制を取り入れ、学生がより多くの企業情報 を伺えるよう工夫した。

12月10日及び1月12日・13日の全日とも、説明会場の企業ブースの入れ替え時間帯に、気軽に懇談できるよう飲み物と軽食を用意して、企業担当者と学部就職委員との名刺交換会を開催した。昨年まで開催していた春季合説初日の夕方に行っていた立食の「懇親会」は廃止した。

「学生の就職支援」

3月11日に発生した東日本大震災による津波等の被害や長期の交通機関の不通状態から、被災地の大学として授業開始時期を1ヶ月遅らせ、夏季休業期間を半分にして対応したが、23年度の就職活動も混乱し、大手企業始め多くの企業が採用活動を1~2月遅らせるなどの対応を取ったため、結果として学生の就職活動は長期化した。

一昨年の世界的不況から立ち直ってきて、企業の採用意欲も高まり全国的には求人数も増加していたが、岩手県内始め被災地域企業からの求人数は減少した。例年通り9月に開催した卒業年次の学生向け学内企業合同説明会の参加企業が増えたのは、企業の採用意欲の高まりか、あるいは採用活動の長期化で内定者が採用計画に達していないことの現れとも考えられた。

23年度から就職に係る倫理憲章で「企業の求人活動は、12月から開始」とされたのに合わせて、学部3年生に対する最初の学内企業合同説明会を12月10日に開催し、2回目を1月12日・13日に開催した。就職ガイダンスでは、学生の就職活動の準備に遅れが出ないように注意したほか、11月に非常勤のキャリアカウンセラーを配置して行ったエントリーシートの添削指導では、多くの学生が参加し予定時間を超過するほどだった。

東日本大震災の被災学生を支援するために、学内措置で新たに被災地学生支援経費が配分され、 12 月に関東圏と仙台市で開催された大規模な企業合同説明会参加者用に、数台のバスを送迎用に 借り上げて運行し、学生の交通費の軽減を図った。

ジョブカフェいわて岩手大学スポットのキャリアカウンセラーに加えて、昨年度採択された「大学生の就業力育成支援事業」で授業日に合わせて非常勤のキャリアカウンセラーを採用し、相談体制を強化し広報したところ、来談学生や相談件数が飛躍的に増加し学生の潜在的要求に応えることができた。

平成23年度の卒業生の就職内定率は、88.7%で、昨年度の91.3%から2.6%も減少した。一方、全国の平均値は、93.6%という数値で、大学生の就職状況が改善されたと報道されたが、併せて、「こ

の数値は、大学よっては集計の取り方が均一でない部分があり、本当の状況を反映していない」とのコメントが新聞に掲載されていた。大学の就職内定率として数字だけが注目されるため、本学の集計方法に他大学の方法を導入するかを含めて、次年度のキャリア支援部門会議で確認する必要がある。

「企業訪問」

就職した卒業生の評価や企業の採用活動についての情報交換を目的とした企業訪問は、7月から 県内企業を皮切りに、各学部の就職委員長等とキャリア支援課の職員で、近年の訪問先と重複しな いように選定して、東北地区6県と北海道の一部の企業49社を回った。

情報交換で得られた「学生に求める資質・知識や採用選考時のポイント」などの情報は、3月の第6回部門会議で報告資料としてとりまとめ、学部の教員に周知の上、教育・学生指導に反映するようお願いした。

文部科学省大学改革推進事業「大学生の就業力育成支援事業」

昨年度から始まった本事業は、2年目となり専任研究員を採用し本格的に事業を進めた。

(1) (卒業生の社会人が出演する) DVDの活用

新入生のキャリアガイダンスでは、本事業で作成したガイダンス用のリーフレット及びDV Dをガイダンスで新入生に視聴させて行った。なお、このDVDは、広く視聴できるように大学のホームページに掲載した。

(2) ジョブシャドウ (1日職場体験)

NPO法人JUKEのスタッフから事前勉強会・事後報告会の運営実施の指導を受けながら、27名の学生参加と岩手県始め7機関の受入協力を得て試行的に実施した。初めての取組で運営方法に改善する点もあったが、参加学生の体験を情報交換する事後報告会において調査した学生アンケートでは、参加した学生からは高い評価が得られ、参加満足度を5点満点で尋ねたところ平均で4.55点という高い数値が表れ、参加した学生の中には次回も参加を希望する者が複数名現れた。

事後報告会の報告内容を「報告書」として冊子にまとめ、同様の事業採択大学・県内の高校 及び若年者の就職支援機関に配布したほか、大学のホームページに掲載して広報した。

(3) ビジネス著作権検定(初級)資格取得

「できることは何か」を資格として学生が会得し自信に繋げてもらうよう、8月の夏季休業を利用して「ビジネス著作権講座」を開設し、引き続き実施した「ビジネス著作権検定(初級)」では、7名が受験し6名が合格した。

(4) キャリア教育フォーラム

9月には、学内で「キャリア教育フォーラム」を開催し、聖泉大学の有山篤利先生から「地元の学生を教育し、地元に還す」取組を紹介いただき、NPO法人JUKEのスタッフからは早稲田大学の「ジョブシャドウイング」を事例に、キャリア教育プログラムとして低学年の大学生にとっての効果を説明いただいた。その後の会場全体の意見交換会は、活発な質疑が行われ、この様子も「記録書」として作成し、同様の事業採択大学・県内の高校及びフォーラムへの参加を案内した機関に送付したほか、大学のホームページに掲載して広報した。

(5) キャリア相談・就職相談体制の強化

キャリアカウンセラーを増員配置してのキャリア相談・就職相談体制については、前述の「学

生の就職支援」の項目を参照いただきたい。

(6) 岩手県雇用促進産学官連携協議会

平成19年度に「学生の地元定着のためのキャリア支援教育の推進を図る」目的で設置した連携協議会を、5月に開催して本事業への協力をお願いした。年度末には、今年度の事業報告を行い、今後の連携と一層の相互協力を確認した。

(7) その他

本事業は12月の行政刷新会議において、「本事業は大学個々が取り組むべき事業で、政府が 新たに資金を提供して行うものではない」として、23年度末で廃止になった。

キャリア支援部門活動推移(平成14年度~平成23年度)

		# 12 · · · ·	火 1寸十 /:		なとり十万							
活動内容	年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	特記事項
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	
事務組織		就職 支援 室		就職 支援 課		*		キャリ ア支援 課		移転リ ニューアル		* H18年度より大学 教育総合センター内に 併合
就職率	学部 計%	75.3	88.9	91	87.5	95.1	95.8	96.3	93	91.3	88.7	
企業訪問	訪問 数	55	77	129	149	147	153	84	73	46	54	H20年度からは従来の東北中心から 京葉、名阪、北海道にも拡大 ※22 年度は取組みの遅れから減少
学内企業合同説明会	開催 回数	1	1	1	1	1	3	3	3	3	3	H19~3回開催
	学生 数	372	718	1545	2520	2760	2430	3346	3232	3900	3888	
	企業 数	56	108	216	324	353	508	465	358	367	411	H20~採用抑制
学内就職支援 システム	求人 登録 数	1500	2000	2700	4400	5600	7000	8000	9000	8000	6112	H21〜新システム導入 (学内外からの利用も 可能とした)
就職応援ブック	配布				開始	実施	\	1	\	↓	リニューアル	就職活動の進め方
キャリアガイダ ンス	開催数				47	40	72	91	80	92	81	H23~重点テーマ別がイ ダンス、ES添削セミナー
ジョブカフェ岩大ス ポット(キャリア相 談)	相談 数				188	133	205	176	192	236	744	3hr×2回/週、H22~ 「大学生の就業力G P」で相談体制を拡充
キャリア・アト・ハ・イサー	配置						開始 1	1	1	前期1 後期 2	前期2 後期5	
キャリア教育(前 後期講座:キャリ アを考える)* OBOGとの連携	実施				後期 試行	↓	開講	↓	↓	↓	←	自分の人生の目的と 手段を探究し、ライフデ ザインとキャリアデザインを
	履修 者				18	12	240	480	480	480	418	考え、そのための大学生活充実「学びプラン」を作成する
キャリア教育(前 期講座:地場産 業・企業論)* 岩手県立大学 と共同、産学官 連携	実施							開講	↓	←	←	地元定着のための企 業の魅力探究と課題 の整理
	履修 者							30	23	33	34	
キャリア教育(後 期講座:地場産 業ブラント・戦略 論)*産学官連 携	実施								開講	←	←	知財の観点から地場 産業を考え地元定着
	履修 者								18	5	14	のための課題を整理
就業力育成 支援事業	実施									作成	実施	キャリアがイダンスDVD、 ジョブシャト・一、著作権講 座、キャリアアトバイサ・一 及び専任研究員配置

キャリア支援部門会議

- 4月21日(木)
 - 第1回キャリア支援部門会議

議題

- 1. 副議長の選出について
- 2. 代理出席について
- 3. 平成23年度事業計画(案)について
- 4. 平成23年度就職関連行事予定について
- 5. その他

報告事項

- 1. 平成22年度卒業生・修了生の就職状況
- 2. その他
 - (1) 就職応援ブックについて

6月21日(火)

第2回キャリア支援部門会議

議題

- 1. 学内企業説明会(夏季合説)の開催について
- 2. 企業向け大学のパンフレットの作成について
- 3. 震災被災学生に対する部門の支援策について
- 4. その他

報告事項

- 1. 平成22年度卒業生の就職状況(確定版)
- 2. 全国就職ガイダンスについて
- 3. その他
 - (1)卒業生・修了生と学長との懇談会の開催について
 - (2) キャリア相談状況
 - (3) ジョブシャドウについて

9月16日(金)

第3回キャリア支援部門会議

議題

- 1. 平成23年度後期の就職ガイダンス等について
- 2. 卒業予定者の就職内定状況の把握について
- 3. その他

報告事項

- 1. 学内企業合同説明会Ⅲの開催等について
- 2. 岩手大学キャリア教育フォーラム 2011 の開催について
- 3.「ジョブシャドウ」事業について
- 4. その他

11月30日(水)

第4回キャリア支援部門会議

議題

- 1. 学生保証人宛の就職支援内容の周知について
- 2. 卒業者予定者の就職内定状況の把握について
- 3. 第1回学内企業合同説明会の開催について
- 4. その他
 - (1)被災学生の就職活動支援(バスの運行計画)について
 - (2) 平成23年度年度計画の進捗状況について
 - (3) その他

報告事項

- 1. 第3回学内企業合同説明会の開催(9/27)
- 2 大学生の就業力育成支援事業 (キャリア教育フォーラム・ジョブシャドウ)
- 3. その他

平成24年1月27日(金)

第5回キャリア支援部門会議

議題

- 1. キャリア支援部門会議規則の一部改正について
- 2. 就業力育成支援事業廃止に伴う善後策について
- 3. 授業科目シラバスへの『就業力育成』教育内容の記載 (シラバス作成時期に合わせて内容の取入れと記載の依頼)
- 4. 卒業時アンケートによるキャリア教育・就職支援評価 (岩手大学就職ナビ登録者宛のアンケート項目について)
- 5. その他

報告事項

- 1. 学内企業合同説明会の開催について
- 2. 被災学生の就職支援バスの運行について
- 3. その他

3月15日(木)

第6回キャリア支援部門会議

議題

- 1. 平成23年度大学のキャリア支援の総括について
- 2. 平成24年度への申し送り事項について
- 3. その他

報告事項

- 1. 平成23年度卒業予定者の就職内定状況
- 2. 就業力育成支援事業の今後について (産業界のニーズに対応した教育改善・体制整備事業)
- 3. その他
 - (1) 平成 21 ~ 23 年度企業訪問からの情報
 - (2) その他

学部就職委員会

4月27日(水) 第1回就職委員会

(人社学部) 議題 1. 平成23年度委員等の確認について

- 2. 平成23年度への引継ぎ事項について
- 3. 平成 23 年度委員会の活動予算について
- 4. インターンシップ推進委員会委員の選出について
- 5. その他

報告 1. 平成 22 年度卒業生・修了生の就職状況について

- 2. 新入生対象の「キャリア教育ガイダンスの実施」について
- 3. その他

10月14日(金) 第2回就職委員会

(人社学部) 議題 1. インターンシップの事後指導について

- 2. 人文社会科学部就職ガイダンスについて
- 3. 認証評価チェックリストによる改善の実施について
- 4. 企業訪問について
- 5. 合同企業説明会の名刺交換会について
- 6. その他

報告 1 卒業予定者の就職内定状況(10月分)について

2. その他

平成24年3月26日(月) 第3回就職委員会

(人社学部) 議題 1. 平成24年度への引継ぎ事項

2. その他

報告 1. その他

4月19日(火) 第1回就職委員会

(教育学部) 議題 1. 関東圏教員採用試験 (大学推薦) 応募者の選考について

- 2. その他
 - (1)委員の役割分担について
 - (2) その他

報告 1. 平成22年度卒業生の教員採用状況

- 2. 平成23年度教採セミナー
- 3. その他

4月28日(木) 第2回就職委員会

(教育学部) 議題 1. 関東圏教員採用試験 (大学推薦) 応募者の選考について

- 2. その他
 - (1) 平成22年度学部卒業生等の教員採用状況
 - (2) その他

報告 1. 平成22年度卒業生等の教員採用状況

2. その他

4月13日(水) 第1回就職委員会

(工学部) 議題 1. 平成23年度工学部就職委員会への申し送り事項について

- 2. 平成23年度工学部就職委員会の運営体制について
- 3. 平成23年度企業訪問の実施について
- 4. その他
 - (1) 就職状況調査のお願い
 - (2) その他

報告 1. 平成22年度岩手大学卒業・修了者の就職状況

2. その他

12月2日(金) 第1回就職委員会

(農学部) 議題 1. 副委員長の選出について

- 2. 前年度委員会からの引継ぎ事項について
- 3. 農学部就職ガイダンスの開催について
- 4. 企業合同説明会名刺交換会について
- 5. その他

報告 1.2011年10月段階の就職状況

- 2. キャリア支援部門会議からの報告
- 3. その他

会議等

- 5月10日(火) 平成23年度第1回全国就職指導ガイダンス(東京ビックサイト)
 - 1. 講演:学生の就職・採用活動について……就職問題懇談会

(社) 日本経済団体連合会

- 2. 行政説明
- 3. 事例紹介
- 4. 大学と企業との情報交換会
- 5月13日(金) 岩手県雇用促進産学官連携協議会(岩手大学)
 - 議題1.「岩手県雇用促進産学官連携協議会設置要項」の変更(案)について
 - 2. 東日本大震災に係る情報交換
 - 3. 平成 23 年度「大学生の就業力育成支援事業」の実施について
 - 4. 大学生の「ジョブシャドウ」の実施(案) について
 - 5. 大学生のインターンシップの実施(案) について
 - 6. その他
- 6月10日(金) 職業能力開発関係団体等連絡会議(岩手県民会館)
 - 協議事項等: 1. 第8次岩手県職業能力開発計画の基本的施策の平成22年度 実績及び成果と課題について
 - 2. その他
- 9月20日(火) 第18回大学懇談会(仙台第2号合同庁舎)
 - 議題1. 新試験について
 - 2. 人材確保活動について
 - 3. 民間の就職動向について
 - 4. 学生の就職意識・就職意欲について
 - 5. その他
- 10月31日(月) 大学と企業との就職情報交換会(ホテルレイクビュー水戸) 企業の人事担当者と大学等の就職担当者との個別面談会

- 11月29日(火) 平成23年度第2回全国就職指導ガイダンス(神戸ポートピアホテル)
 - 1. 講演:学生の就職・採用活動について……就職問題懇談会
 - (社) 日本経済団体連合会

- 2. 行政説明
- 3. 事例紹介
- 4. 大学と企業との情報交換会

平成 24 年 3 月 13 日 (火) 岩手県雇用促進産学官連携協議会(岩手大学)

- 議題1. 岩手県雇用促進産学官連携協議会設置要項の一部改正について
 - 2. 平成24年度のインターンシップの協力依頼について
 - 3. 平成24年度岩手大学の「ジョブシャドウ」の受入依頼について
 - 4. 「大学生の就業力育成支援事業」の事業評価について
 - 5. 新規事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」 について
 - 6. その他

企業合同説明会

9月27日(火) 岩手大学企業合同説明会(夏季合説)

全学部分 会場:岩手大学中央食堂

参加企業:52 社 学生参加者:69 名

12月10日(土) 岩手大学企業合同説明会(冬季合説)

全学部分 会場:岩手大学中央食堂

参加企業:115社

学生参加者:1,719名

平成 24 年 1 月 12 日 (木)・13 日 (金) 岩手大学企業合同説明会(春季合説)

全学部分 会場:岩手大学中央食堂

参加企業:244社

学生参加者: 2,100名

就職ガイダンス等

4月19日(火) 就職ガイダンス「面接対策セミナー 実践講座:個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:5名

4月27日(水) 神奈川県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:神奈川県教育委員会

会 場:教育学部E21講義室

参加者:5名

4月27日(水) 横浜市公立学校教員採用説明会

全学部 講師:横浜市教育委員会

会 場:教育学部E21講義室

参加者:6名

5月9日(月) 千葉県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:千葉県教育庁

会 場:教育学部北桐ホール

参加者:70名

5月10日(火) 東北地区県職員・警察官採用上級試験説明会

全学部 講師:東北地区県庁・県警察本部及び盛岡市役所職員採用担当者

会 場:大学会館2階・教育学部E21講義室

参加者:延べ292名

5月12日(木) 新入生オリエンテーション(キャリア教育と就職対策)

人文社会科学部 講師:人文社会科学部就職委員会、中村キャリアアドバイザー

会 場: G51大講義室

参加者:人文社会科学部入学生230名

5月12日(木) 川崎市公立学校教員採用説明会

全学部 講師:川崎市教育委員会

会 場:教育学部E23講義室

参加者: 4名

5月12日(木) 岩手県警察官採用説明会

全学部 講師:岩手県警察本部警務部

会場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:11名

5月13日(金) 岩手県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:岩手県教育委員会

会 場:教育学部北桐ホール

参加者:61名

5月13日(金) 埼玉県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:埼玉県教育局

会 場:教育学部E23講義室

参加者: 2名

5月18日(水) 就職ガイダンス「面接対策セミナー 実践講座:個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:11名

5月20日(金) 就職ガイダンス「面接対策セミナー実践講座:グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会場:学生センターB棟多目的室

参加者:7名

5月25日(水) 農学部就職ガイダンス

農学部分 講師:(株) リクルート

会 場:農学部ぽらんホール

参加者:181名

5月27日(金) 人文社会科学部・教育学部就職ガイダンス

人文社会科学部・ 講師:(株) リクルート

教育学部 会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:134名

5月31日(火) 工学部就職ガイダンス

工学部分 講師:(株) リクルート

会 場:工学部テクノホール

参加者:380名

6月3日(金) 就職ガイダンス「自己分析講座」

全学部 講師:(株)毎日コミュニケーションズ

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:63名

6月4日(土) 教員採用セミナー「第1回面接対策講座」

教育学部分 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会 場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:63名

6月7日(火) 就職ガイダンス「自己分析講座」

全学部 講師:(株)毎日コミュニケーションズ

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:91名

6月9日(木) 教員採用セミナー「第2回面接対策講座」

全学部 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会 場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:78名

6月15日(水) 就職ガイダンス「業界研究講座 I」

全学部 講師:(株) ディスコ

会場:学生センターA棟G29講義室

参加者:110名

6月17日(金) 就職ガイダンス「業界研究講座Ⅱ」

全学部 講師:(株)毎日コミュニケーションズ

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:51名

6月18日(土) 教員採用セミナー「第3回面接対策講座」

教育学部分 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会 場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:63名

6月20日(月) 就職ガイダンス「面接セミナー 実践講座:個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:8名

6月21日(火) 就職ガイダンス「業界研究講座Ⅲ」

全学部 講師:(株)ディスコ

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:40名

6月23日(木) 教員採用セミナー「第4回面接対策講座」

教育学部分 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:71名

6月24日(金) 就職ガイダンス「面接対策基礎講座」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:96名

6月30日(木) 就職ガイダンス「面接セミナー 実践講座:グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:1名

7月5日(火) 就職ガイダンス 「元人事担当者による 合格する就職活動とは!」

全学部 講師:(株)ジェイブロード

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:81名

7月12日 (火) 就職ガイダンス「エントリーシート講座 I」

全学部 講師:(株)毎日コミュニケーションズ

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:50名

7月15日(金) 就職ガイダンス「SPI模擬試験(ペーパー試験)」

全学部 講師:(株) ディスコ

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:53名

7月19日(火) 就職ガイダンス「面接セミナー 実践講座:個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:5名

7月20日(水) 就職ガイダンス「エントリーシート講座Ⅱ」

全学部 講師:(株)毎日コミュニケーションズ

会場:学生センターA棟G22講義室

参加者:60名

7月21日(木) 就職ガイダンス「面接セミナー 実践講座:グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:3名

7月26日(火) 就職ガイダンス「おさらいガイダンス」

全学部 講師:(株) リクルート

会 場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:27名

7月28日(木) 就職ガイダンス「おさらいガイダンス」

全学部 講師:(株) リクルート

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:52名

7月30日(土) 教員採用セミナー「第5回面接対策講座」

教育学部分 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会 場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:36名

8月6日(土) 教員採用セミナー「第6回面接対策講座」

教育学部分 講師:公立学校元校長等および教育学部教員

会 場:教育学部総合教育研究棟各講義室および会議室

参加者:40名

10月14日(金) 文系学部就職ガイダンス

人文社会科学部・ 講師:(株)マイナビ

教育学部分 会場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:75名

10月18日 (火) 農学部就職ガイダンス

農学部分 講師:(株) リクルート

会 場:農学部ぽらんホール

参加者:67名

10月21日(金) 工学部就職ガイダンス

工学部分 講師:(株)マイナビ

会 場:工学部テクノホール

参加者:110名

10月24日(月) 就職ガイダンス「SPI模擬試験 PC編」

全学部 講師:(株)マイナビ

会場:学生センターA棟G37講義室

参加者:8名

10月25日(火) 就職ガイダンス「業界研究講座 I」

全学部 講師:(株)ディスコ

会場:学生センターA棟G29講義室

参加者:35名

10月28日(金) 就職ガイダンス「業界研究講座Ⅱ」

全学部 講師:(株) ディスコ

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:61名

11月1日(火) 就職ガイダンス「エントリーシートガイダンス I」

全学部 講師:(株)マイナビ

会 場:人文社会科学部52大講義室

参加者:138名

11月1日 (火) さいたま市公立学校教員採用説明会

全学部 講師:さいたま市教育委員会

会 場:教育学部E25講義室

参加者:5名

11月9日(水) 警視庁採用説明会

全学部 講師:警視庁採用センター

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:7名

11月10日(木) 就職ガイダンス「エントリーシートガイダンスⅡ」

全学部 講師:(株) リクルート

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:211名

11月11日(金) 就職ガイダンス「エントリーシートガイダンスⅢ エントリーシートの添削」

全学部 講師:キャリア支援課(キャリアアドバイザーほか5名)

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:130名

11月15日(火) 人文社会科学部ガイダンス

人文社会科学部分 講師:(株) リクルート

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:70名

11月15日(火) 川崎市公立学校教員採用説明会

全学部 講師:川崎市教育委員会

会 場:教育学部E21講義室

参加者: 3名

11月16日(水) 就職ガイダンス「面接対策講座 I」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:118名

11月18日(金) 就職ガイダンス「面接対策講座Ⅱ(新聞を活用した面接指導)」

全学部 講師:日経メディアプロモーション(株)

会場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:125名

11月25日(金) 千葉県公立学校教員採用説明会・合格者説明会

全学部 講師:千葉県教育委員会

会場:学生センターA棟G19講義室、G1大講義室

参加者:計99名

12月5日(月) 栃木県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:栃木県教育委員会

会 場:教育学部E23講義室

参加者:2名

12月6日(火) 就職ガイダンス「面接対策実践講座1 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:12名

12月8日(木) 就職ガイダンス「エントリーシートガイダンス」

全学部 講師:キャリア支援課職員ほか

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:70名

12月8日(木) 埼玉県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:埼玉県教育委員会

会 場:教育学部E23講義室

参加者:2名

12月14日(水) 裁判所職員採用試験説明会

全学部 講師: 盛岡地方・家庭裁判所事務局総務課

会場:学生センターB棟GB21講義室

参加者:84名

12月14日(水) 宮城県公立学校教員採用説明会

全学部 講師:宮城県教育委員会

会 場:教育学部E23講義室

参加者:14名

12月15日(木) 就職ガイダンス「面接対策実践講座2 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者: 15名

12月15日(木) 国税専門官業務説明会

全学部 講師:仙台国税局人事第二課

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:46名

12月16日(金) 就職ガイダンス「就職活動実体験講座―先輩の就活を聞こう―」

全学部 講師:農学部農学生命課程4年生 上野滝人

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:15名

12月19日(月) 国家公務員採用試験制度変更説明会

全学部 講師:人事院東北事務局総務課

会 場:教育学部北桐ホール

参加者:126名

12月19日(月) 就職ガイダンス「面接対策実践講座3 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:8名

12月20日(火) 財務専門官業務説明会

全学部 講師:東北財務局盛岡財務事務所総務課

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:13名

1月17日(火) 就職ガイダンス「面接対策実践講座4 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:14名

1月18日 (水) みやぎものづくり企業セミナー at Iwate University

全学部 講師:宮城県産業人材対策課

会 場:大学会館

参加者:6名

1月19日(木) ジョブカフェいわてとのキャリアガイダンス

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:23名

1月20日(金) 就職ガイダンス「面接対策実践講座5 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:11名

1月20日(金) 仙台市職員採用説明会

全学部 講師:仙台市人事委員会事務局任用課

会 場:学生センターA棟G1大講義室

参加者:23名

1月 23 日(月) 就職ガイダンス「面接対策実践講座 6 グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:17名

1月26日(木) 就職ガイダンス「面接対策実践講座7 グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:24名

1月26日(木) 相模原市公立学校教員採用説明会

全学部 講師:相模原市教育委員会

会 場:教育学部E21講義室

参加者: 3名

1月27日(金) 宮城県警察官採用説明会

全学部 講師:宮城県警察本部警務部警務課

会 場:学生センターB棟GB21講義室

参加者:6名

2月8日(水) 就職ガイダンス「面接対策実践講座8 個別・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者: 9名

2月9日(木) 自衛隊幹部候補生採用試験説明会

全学部 講師:自衛隊岩手地方協力本部

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:10名

2月15日(水) 就職ガイダンス「面接対策実践講座 9 グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:12名

2月27日(月) 労働基準監督官採用説明会

全学部 講師:岩手労働局

会 場:人文社会科学部51大講義室

参加者:51名

3月1日(木) 就職ガイダンス「面接対策セミナー 個人・集団面接」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会 場:学生センターB棟多目的室

参加者:13名

3月14日(水) 就職ガイダンス「面接対策セミナー グループディスカッション」

全学部 講師:ジョブカフェいわて

会場:学生センターB棟多目的室

参加者:11名

3月21日(水) 国税専門官業務説明会

全学部 講師:仙台国税局人事第2課

会 場:学生センターA棟G2大講義室

参加者:34名

企業訪問

6月23日(木)·24日(金)

企業訪問 (就職情報交換:(株)進学会、札幌信用金庫、(株)ロイズコンフェクト、(株)きのとや)

場 所:札幌市

訪問者:キャリア支援課高橋主査、大矢主事

7月5日(火) 企業訪問(就職情報交換:リコー光学(株)、岩手スリーエム(株)、(株)システムベース)

場 所:花巻・北上市

訪問者:人文社会科学部杭田教員、高橋主査

7月8日(金) 企業訪問(就職情報交換:岩手東芝エレクトロニクス(株)、アムコー岩手(株)、 シチズン東北(株)、(株)ミスズ工業岩手工場、谷村電気精機(株)、 和銅産業(株))

場 所:花巻・北上市

訪問者:人文社会科学部宮本教員、工学部清水教員、大内課長

7月15日(金) 企業訪問(就職情報交換:塩野義製薬(株)、三友電子工業(株)、(株)ミズサ ワセミコンダクタ、(株)千田精密工業)

場 所:奥州市

訪問者:工学部清水教員、高橋主査

7月22日(金) 企業訪問(就職情報交換:(株)南部医理科、みちのくコカ・コーラボトリング(株)、 旭エンジニアリング(株)、花巻温泉(株)、(株)アイオー精密)

場 所:紫波郡、花巻市

訪問者:人文社会科学部齋藤教員、工学部清水教員、大矢主事

11月14日(月)・15日(火)

企業訪問(就職情報交換:(株)東北佐竹製作所、秋田エプソン(株)、(株)ヤマダフーズ、(株)東北フジクラ、ADK富士システム(株)、北日本コンピュータ(株)、(株)東北機械製作所)

場 所:北上市、湯沢市、秋田市

訪問者:農学部古賀教員、大矢主事

11月16日(水)・17日(木)

企業訪問 (就職情報交換:第一貨物(株)、全国農業協同組合連合会山形本部、 東北精機工業(株)、(株)山本製作所、エムテックスマツムラ(株)、 テービ工業(株)、山形カシオ(株)、アイジー工業(株)、三和缶 詰(株))

場 所:山形市、天童市、東根市 訪問者:工学部晴山教員、高橋主査

11月23日(月)・24日(火)

企業訪問(就職情報交換:比内時計工業(株)、紅屋商事(株)、(株)トヨタレンタリース青森(株)、(株)マルイチ横浜、ワダカン(株)、アンデス電気(株)、サクラシステムエンジニアリング(株))

場 所:弘前市、青森市、八戸市

訪問者:教育学部大河原教員、中村キャリアアドバイザー

12月19日(月)・20日(火)

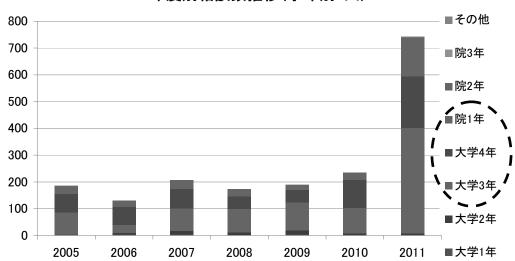
企業訪問(就職情報交換:富士通アイソテック(株)、(株)トッパンTDKレーベル、福島県農業共済組合連合会、NOK(株)、HECネットワークプロダクツ(株)、ソニーエナジー・デバイス(株)、AGCエレクトロニクス(株)、(株)ライフフーズ、ゼビオ(株))

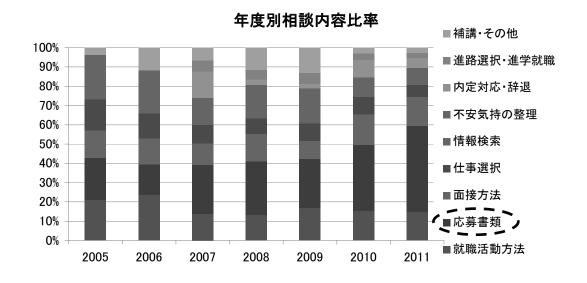
場 所:福島市、郡山市

訪問者:人文社会科学部宮本教員、大内課長

2011年度 キャリア相談状況

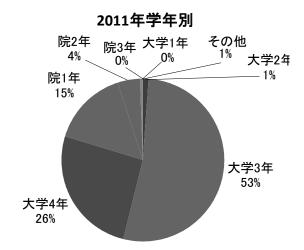


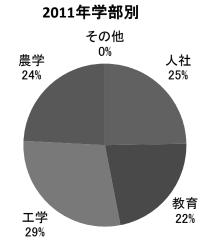


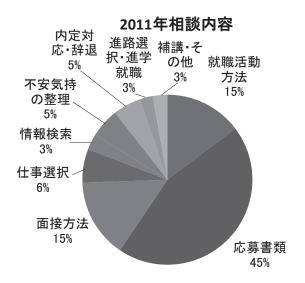




2011年度 キャリア相談状況



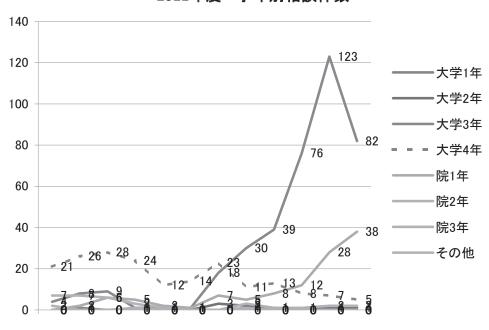




2012年3月末現在

- 利用者数が前年度の3倍を越した (今年度/前年度:744/235)
- 2. 2011/4~2011/12は前年度比2倍超の利用
- 3. 2012/1~2012/3は前年度の4~6倍の利用
- 4. 学年 3年と院1年が特に増加
- 3. 学部 工学部が増加
- 4. 相談内容 応募書類

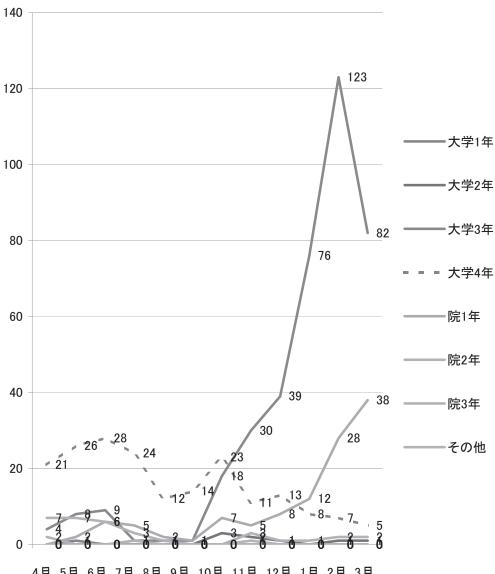
2011年度 学年別相談件数



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

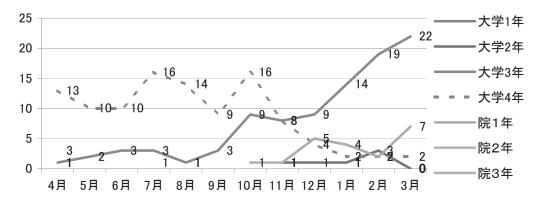
2011年度 キャリア相談状況

2011年度 学年別相談件数



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

2010年度 学年別相談件数



大学生の就業力育成支援事業

7月23日(土) ジョブシャドウ事前勉強会

全学部 講師:NPO法人JUKEスタッフ

会 場:学生センターB棟GB11講義室

参加者:27名

夏季休業期間 ジョブシャドウを実施

全学部 受入先:行政機関及び企業 7機関

参加者:26名

8月10日(水)・11日(木) ビジネス著作権検定初級講座

全学部 講師:(財) コンピューターソフトウェア著作権協会

会 場: G1大講義室

参加者:7名

8月11日(木) ビジネス著作権検定(初級)受験

全学部 主 催:サーティファイ著作権検定委員会

合格者数/受験者数:6/7名

9月22日(木) 岩手大学キャリア教育フォーラム

全学部 講師:聖泉大学有山篤利教授

NPO 法人 JUKE スタッフ 大日方史野

会 場:教育学部北桐ホール

参加者:41名

9月24日(土) 早稲田大学ジョブシャドウイング事後勉強会に学生参加

全学部 (同様のプログラムに参加した学生同士で意見交換)

会 場:早稲田大学

参加者:本学のジョブシャドウ参加学生3名

10月15日(土) ジョブシャドウ事後報告会

全学部 講師: NPO 法人 JUKE スタッフ

会 場:学生センターB棟GB32講義室

参加者:26 名

平成 24 年 1 月 12 日 (木)・13 日 (金) ビジネス著作権検定初級講座

全学部 講師:(財) コンピューターソフトウェア著作権協会

会 場:図書館 生涯学習・多目的学習室

参加者:10名

1月13日(金) ビジネス著作権検定(初級)受験

主 催:サーティファイ著作権検定委員会

合格者数/受験者数:10/10名

4月9日(月)~平成24年2月10日(金)の授業日:午後1時~5時

キャリアカウンセラー1名を非常勤講師として曜日を替えて配置し、学生のキャリア相談・就職相談を担当した。

「岩手大学ジョブシャドウ参加学生の報告書」を作成

作成部数:100部

配布 先:岩手県下の大学・高等学校、東日本地域の同GPプログラム

採択大学、若者就職支援関係機関ほか

「岩手大学キャリア教育フォーラム記録書」を作成

作成部数:600部

配布 先:岩手県下の大学・高等学校、東日本地域の同GPプログラム

採択大学、若者就職支援関係機関、インターンシップ受入申

出の企業ほか

岩手大学 大学教育総合センター **年次報告 2011**

平成 24 年 10 月 31 日 発行

●編集・発行 岩手大学 大学教育総合センター 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

●印刷・製本 杜陵高速印刷株式会社



(C)2012 Iwate University: University Education Center, Printed in Japan.

